

# キルギス共和国の政治・経済・社会

在キルギス日本国大使館 更新:2022年9月12日

※本資料で提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。

在キルギス日本国大使館では、正確な情報の提供を心掛けておりますが、本資料で提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、在キルギス日本国大使館は一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。

# 目次

## 0 キルギス概要

### 1 政治動向

- 1-1 独立以降の政治変遷<2回の革命>
- 1-2 独立以降の政治変遷<アタムバエフ元大統領とジェエンベコフ前大統領の対立>
- 1-3 2020年共和国議会選挙(結果概要)
- 1-4 2020年議会選挙後のクロノロジー
- 1-5 2021年5月共和国憲法改正
- 1-6 キルギス政府の主要政策
- 1-7 政治体制
- 1-8 キルギスの国家機構
- 1-9 選挙法改正及び共和国議会の権能
- 1-10 キルギスの主要政党(2022年2月時点で議席を有する政党)
- 1-11 2021年共和国議会選挙見取り図(比例代表制)
- 1-12 2021年共和国議会選挙(中央選管に登録された政党一覧)
- 1-13 2021年共和国議会選挙(結果概要及び評価)
- 1-14 2021年共和国議会選挙(小選挙区制)
- 1-15 キルギス・タジキスタン国境紛争(キルギスの報道ぶりを基に作成)
- 1-16 キルギス国内のロシア軍基地

## 2 経済

- 2-1 GDP
- 2-2 海外送金
- 2-3 財政構造
- 2-4 物価、為替、金融政策
- 2-5 産業
- 2-6 貿易
- 2-7 対内直接投資
- 2-8 中国への経済依存
- 2-9 外国及び国際ドナーの対キルギスODA

## 3 社会動向

- 3-1 人口
- 3-2 平均給与
- 3-3 失業率
- 3-4 乳児死亡率
- 3-5 貧困率

## 4 対日関係

- 4-1 対日関係
- 4-2 通商関係
- 4-3 経済協力実績
- 4-4 増加する日本への人材派遣

# 0 キルギス概要

# 0. キルギス概要：独立以降の歴史①

## (1) アカエフ大統領時代(1991～2005年)

：自由化、民主化を強く推進した一方、外交の多角化への模索は外国への譲歩を招いたとの批判も。

- 他の中央アジアの大統領が旧ソ連共産党指導者であった中、科学アカデミー出身という異色の出自。
- GDPが独立前の50%程度に落ち込むなど90年代を通じて経済的混乱に苦しむも、市場経済化において急進的な手法を採用。
- 2001年には米軍基地の設置を認める。2003年にはロシア軍基地も設置され、米口の軍事基地が共存。
- 2002年、中国との国境画定に関連するデモに対し治安部隊が発砲し5名が死亡(アクス事件)。内外から批判を浴びる。
- 2000－2005年にかけてのGDP成長率は3.8%\*1。



アカエフ  
初代大統領

## (2) バキエフ大統領時代(2005～2010年)

：経済の回復をみるも、前政権以上の腐敗により経済成長の機会を十分に発揮でなかったとの評価

- 強権化を強めたアカエフ政権が反政府運動で打倒され、2005年の大統領選挙で南部出身のバキエフ元首相が大統領に当選(なおアカエフ大統領は北部出身)。
- 工場労働者出身。州知事、首相を務めた。



バキエフ  
第2代大統領

- 体制転換直後から親族支配の拡大、強権化が進行。犯罪分子の伸長、公共料金の値上げ、野党政治家やジャーナリストに対する弾圧への国民の不満が高まる。
- フリーダムハウス指標は2009年にキルギスの評価を「部分的に自由」から「自由でない」へと下方修正\*2。
- 2007年のロシアの移民法改正が後押しし、出稼ぎが増加。2005年には12.1%であった海外送金の対GDP比が2010年には26.1%まで増加。金額ベースでは2億9,770万ドルから12億5,260万ドルへ増加。
- 油価上昇を背景としてロシアからの投資が増加(2005年のロシアの対キルギスFDI: 813万ドル→2010年: 9,737万ドル)。2007年にGDPはソ連崩壊前の1989年の水準に回復。
- 2005－2010年にかけてのGDP成長率は5.7%。

## (3) バキエフ政権崩壊・暫定政府樹立(2010年)

：再度の政変、議会制民主主義の導入

- 4月、反政府集会が発生し、野党勢力は外交官出身のオトゥンバエヴァ社会民主党党首を議長とする暫定政府を樹立。
- 国民投票で、議会制民主主義を掲げる改正憲法案及びオトゥンバエヴァ暫定政府議長の暫定大統領就任が決定。10月の議会選挙後、12月にアタムバエフ内閣が誕生。
- 政治的混乱によって経済は一時的に低迷。2010－2011年のGDP成長率は2.7%。



オトゥンバエヴァ  
第3代大統領

\*1 90年代は経済的落ち込みが激しいことから2000年以降の数字を示す。

\*2 2012年に「部分的に自由」に回復。

## 0. キルギス概要：独立以降の歴史②

### (4)アタムバエフ大統領時代～(2011～2017年)

：外資誘致を進める一方で財政は不均衡に、  
退陣後は汚職容疑で要人が多数逮捕される。

- 2011年10月に実施された大統領選挙で北部出身のアタムバエフ首相が当選し大統領就任。選挙による平和裏な権力移譲が初めて実施された。
- 産業関連の省庁及び民間企業でのキャリアを有する。
- 人権活動家のアスカロフ弁護士に対し米国国務省が人権擁護者賞を授与したことを受け、対米関係が悪化。2014年に米軍基地は閉鎖。
- 内政面では電子政府化を掲げ、国際機関の関心を集めた。
- 外政面では、2015年8月にユーラシア経済同盟加盟。また、4億8,890万ドルの対露債務の帳消しや、露ガスプロムによるキルギスガスの1ドルでの買収・子会社化(その替わりガスプロムはキルギスガスの負債5,000万ドルを肩代わり)など、ロシアの関与が強まる。
- 西側からのODAは2015年を境として減少傾向に。
- 2013年の習近平国家主席の国賓訪問を機に中国を「戦略的パートナー」と宣言。対中債務、対中輸入の増大など、中国の経済面における影響力が拡大。
- 債務の増大が深刻化。2016年には対GDP比54.5%に達し、国内法が定める対GDP比60%のリミットに近づく。
- 2011—2017年にかけてのGDP成長率は4.6%。



アタムバエフ  
第4代大統領

### (5)ジェエンベコフ大統領就任後(2017年～)

：前大統領との政争、地方開発の重視

- 2017年10月15日の大統領選挙で与党社会民主党が推薦する南部出身のジェエンベコフ前首相が勝利。
- 元獣医であり、農業分野でキャリアを積む。
- 内政面では地方の発展と汚職対策を重視。
- 外交面では中ロ両国を「戦略的パートナー」としてともに重視。台湾問題や香港問題について中国寄りの立場を示し、新疆ウイグル自治区でのイスラム教徒収容問題についても明確な態度を示さず。
- イサコフ前首相の汚職容疑による逮捕(2018年6月)などを経て新旧大統領間の関係は悪化。治安部隊によるアタムバエフ前大統領の自宅への突入、アタムバエフ前大統領の逮捕に至る(2019年8月)。
- ロシアに範をとったメディア規制法案については法律の必要性を指摘しつつも審議差し戻しとし、賛否いずれの立場に対しても慎重な立場を示す。(2020年6月)
- 社会民主党は分裂状態に。2020年10月の議会選挙へ向け政界は再編(1-8参照)



ジェエンベコフ  
第5代大統領

## 0. キルギス概要：国家の概要①基本情報

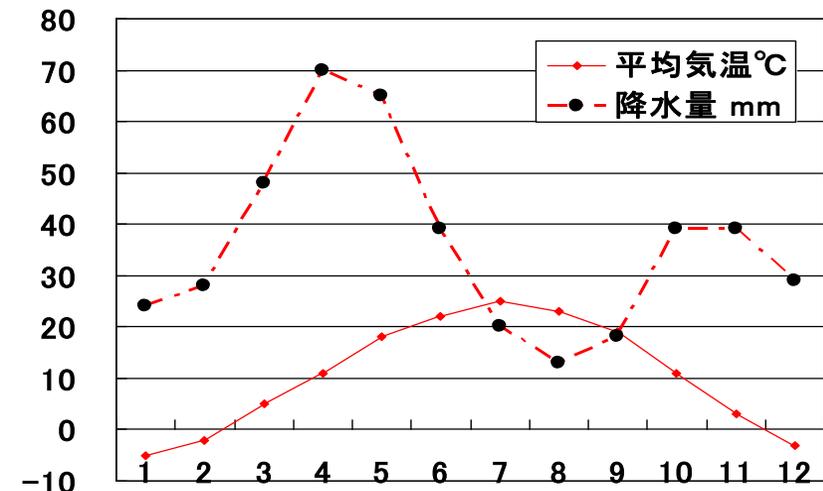
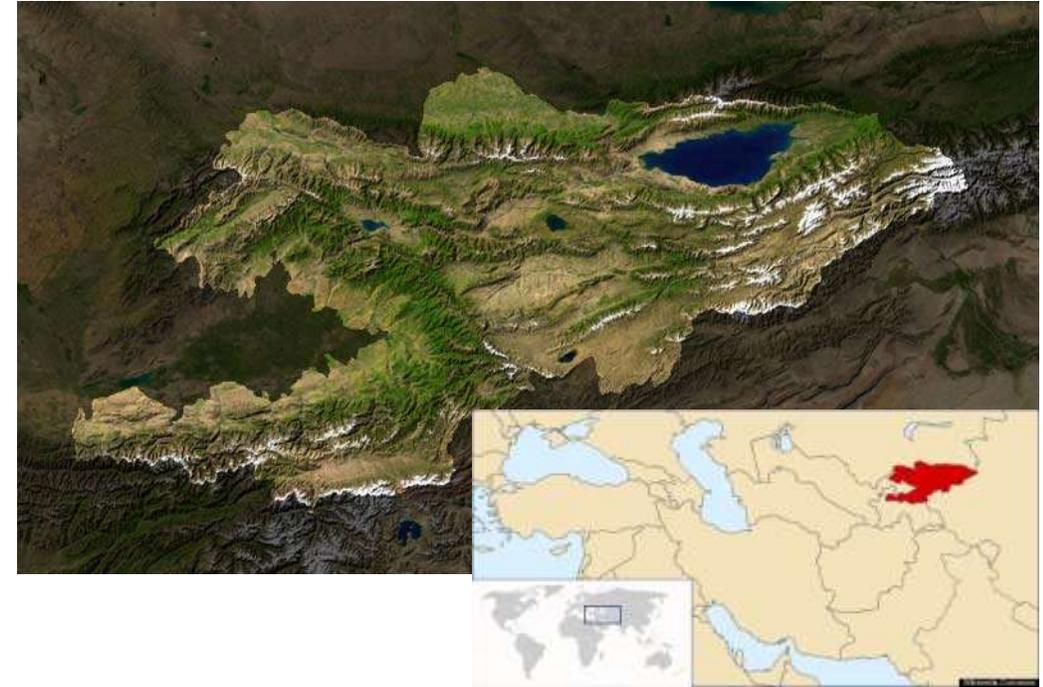


- 国名：キルギス共和国（「キルギスタン」も準用）
- 国旗：赤地はキルギス国民の勇気を，金色はボズ・ウイ（遊牧民の移動式住居）の天窓部分と40の太陽の光芒を示す。
- 国歌：「進め，キルギス国民よ」（1992年12月18日採択）
- 人口：652万人（2020年1月）
- 首都：ビシュケク市（札幌市と同緯度）
- 主要都市人口：ビシュケク市（105.3万人），オシュ市（31.3万人）（2020年）
- 男性平均寿命：67.6歳，女性平均寿命：75.8歳（2019年）
- 人口増加率：2.2%（2019年）

- 通貨：ソム（1992年2月導入。1US\$ = 76.66ソム〔2020年7月25日〕国立銀行）
- GDP：84.5億ドル（2019年）
- 国民一人当たりGDP：1,314ドル（2018年）
- 主な宗教：イスラム教スンニ派が多数を占める。憲法上は政教分離。
- 日本との時差：－3時間（夏時間なし）

## 0. キルギス概要: 国家の概要②国土

- 面積: 19万8500平方km(日本の約半分)
- 位置: ユーラシア大陸中央部, 北緯39~43度の間, 日本の北海道から東北地方北半分と同緯度。首都ビシュケクは札幌とほぼ同緯度。  
北はカザフスタン, 西はウズベキスタン, 南西はタジキスタン, 東は中国新疆ウイグル自治区と接する。
- 地勢: 国土の大部分を天山山脈とその支脈アラトー山脈が占める山岳国家(約90%が標高1500m以上, うち40%以上が3000m以上)。天山山脈の最高峰ポベーダ(勝利)峰(標高7439m)の山脈を通してナリン川(シル川の上流), タラス川, チュイ川が西に流れており, 豊かな水資源がある。厳しい地形・気候から, 国土に占める農地(7%), 森林(4%)の割合は少ない。キルギス北東部には, 琵琶湖の約9倍(6206km<sup>2</sup>)のイシククリ湖(流入河川のみ塩水湖。冬も凍結しない)がある。
- 気候: 大陸性気候で, 首都ビシュケクの7月の最高気温は38度, 最低気温は12.5度, 1月には氷点下25度まで達することがある。国土全般で降水量は少なく, 年間降水量は約400ミリ程度。



# 1 政治動向

## 1-1 独立以降の政治変遷 <2回の革命>

### <2005年「チューリップ革命」>

#### 【独立とアカエフ初代大統領】

1991年8月31日キルギス独立。

アカエフ初代大統領は、民主化と市場経済化を推進。

1991年、IMF加盟。

1998年、CIS諸国で初めてWTO加盟。

一族の汚職と強権的な傾向の強まりに対し、国民が反発。



写真: Azattyk通信

#### 【革命】

#### 2005年2～3月の議会選挙での不正疑惑

親政府派・中立派が議席の約9割を獲得。

野党党首のバキエフ氏は選挙結果の無効化を求め抗議活動。

建物襲撃等の革命に発展。

アカエフ政権は崩壊し、アカエフ大統領はロシアに亡命。

バキエフ氏が大統領兼首相に就任。

### <2010年「4月革命」>

#### 【バキエフ大統領への反発】

バキエフ大統領も、強権的な傾向が強まり、親族を優遇。  
公共料金の値上げで国民の反発を買う。

#### 2010年4月、野党勢力の反政府運動が政変に発展。

ビシュケク市での衝突で87人死亡し、1500人以上負傷。

現在、4月7日は「4月革命記念日」でキルギスの祝日。

バキエフ一族はベラルーシに亡命。

#### 【暫定大統領と革命の余波】

2010年5月、野党側指導者の一人オトゥンバエヴァ氏  
が暫定大統領に就任。

6月、南部においてキルギス系・ウズベク系住民間で  
大規模な民族衝突が発生、470名余が死亡。

#### 【オトゥンバエヴァ大統領就任と事態収拾】

6月、国民投票でオトゥンバエヴァ氏が大統領就任。

10月の議会選挙を経て、12月、連立政権が発足。



写真: kloop通信

## 1-2 独立以降の政治変遷 ＜アタムバエフ元大統領とジェエンベコフ前大統領の対立＞

### 【アタムバエフ大統領の傀儡に選ばれたジェエンベコフ氏】

2011年12月～2017年11月の大統領時代、多くの敵を作ったアタムバエフ氏は、大統領退任後の復讐を恐れ予防策を計画との噂。

- ① 自身の側近を、首相、国家安全保障委員会幹部に任命。
- ② **後継者探し。自身が黒幕として制御できる、従順な傀儡。**
- ③ →おとなしく野心のないジェエンベコフ氏は理想的な後継者に見えたとの噂。

### 【アタムバエフとジェエンベコフの接点】

- 1995～2000年、両者はキルギス議会人民代表会議のメンバー
- 2015年、アタムバエフ大統領がジェエンベコフ・オシュ州政府代表(知事)を国家人事局長官に抜擢



写真: Azattyk通信



### 【2017年大統領選挙】

ジェエンベコフ大統領候補が、アタムバエフ大統領の全面的な支持を得て当選。

### 【ジェエンベコフ大統領によるアタムバエフ前大統領追放】

#### 【対立に至る経緯】

- 2018年2月、安全保障会議にてジェエンベコフ大統領が汚職対策について演説する中で、「大統領選挙に際して非協力的または成果を出さなかった者に対し肅正が行われているとの指摘がある」と指摘。アタムバエフ前大統領を間接的に批判したとされるこの演説が新旧大統領の関係悪化の端緒とされる。
- 2018年3月、社会民主党大会にてアタムバエフ氏が社会民主党代表に就任。同大会にジェエンベコフ大統領の実弟アスルベク元議会議長が招待されず、対立が顕在化。

#### 【アタムバエフ前大統領の側近追放】

- 2018年4月末までにジェエンベコフ大統領はアタムバエフ前大統領派を全員解任。
- アタムバエフ前大統領最大の側近イサコフ前首相をはじめ、クルマトフ元ビシュケク市長、イブラモフ前ビシュケク市長を汚職容疑で逮捕。

#### 【アタムバエフ前大統領逮捕】

- 2019年6月、元大統領の不逮捕特権剥奪が議会で可決。
- 最高検察庁はアタムバエフ前大統領の在職中の権力乱用と汚職を告発。
- 8月7日、国家安全保障委員会特殊部隊がアタムバエフ氏の住居襲撃を試みるも失敗。
- 8日、内務省特殊部隊が拘束作戦で道路・通信網遮断、3千人以上の警察官を動員。アタムバエフ前大統領支持者との間で抗議デモと投石による被害が発生。アタムバエフ氏ら14人が逮捕された。

# 1-3 2020年共和国議会選挙(結果概要)

※情報は2020年10月当時

- ・ 2020年10月4日 第7会期共和国議会選挙実施
- ・ 全国投票率56.2%
- ・ 与党3党及び野党1党のみが議席を獲得(議席獲得には得票率7%以上が必要)

## 結果概要

- ・ 1位:ビリムディク(連帯)党、24.5%(46議席) 親ジェエンベコフ政権
- ・ 2位:メケニム・キルギスタン(我がキルギスタン)党、23.88%(45議席) 親ジェエンベコフ政権
- ・ 3位:キルギスタン党、8.76%(16議席) 親ジェエンベコフ政権
- ・ 4位:ブトゥン・キルギスタン(統一キルギスタン)党、7.13%(13議席) 野党

その他、ジャパロフ(現大統領。当時収監中)が設立し、その盟友タシエフが率いるメケンチル(愛国者)党(6.85%)、ババノフ元首相が設立した共和国党(5.79%)など16党が参加。

## 騒乱の発生

- ・ 選挙結果(与党のみで約9割の議席を獲得)を不服とした野党勢力が不正を訴えて大規模集会開催を呼びかけ→騒乱発生により中央選挙管理委員会が10月6日に選挙結果を無効化。
- ・ 第6会期共和国議会が継続したまま、本年11月28日に再選挙実施予定。(※2020年議会選挙後の動向の詳細については1-9「2020年議会選挙後のクロノロジー」参照)

## 議席を獲得した4党の概要

### ビリムディク党(46議席)

- ・ 党首:マラト・アマンクロフ
- ・ ジェエンベコフ前大統領の弟が所属、同大統領が所属する社会民主党出身者が多い



### メケニム・キルギスタン党(45議席)

- ・ 党首:ミルラン・バキロフ
- ・ ジェエンベコフ前大統領が釈放した、数々の汚職疑惑を持つマトライモフ元税関次長との関係が噂



### キルギスタン党(16議席)

- ・ 党首:カナトベク・イサエフ
- ・ 比例名簿には現職議員が多くみられた
- ・ 中央選管への書類提出が遅れ、登録をめぐって裁判に発展



### ブトゥン・キルギスタン党(13議席)

- ・ 党首:アダカーン・マドゥマロフ
- ・ 右派で民族国粹主義



# 1-4 2020年議会選挙後のクロノロジー(1)

10月4日議会選挙実施から  
10月10日ジャパロフ新首相選出まで

10月4日：  
●共和国議会選挙（第7会期）が実施され、17党出馬したうちジェエンベコフ大統領派の与党3党（ビリムディク党、メケニム・キルギスタン党、キルギスタン党）と野党1党（ブトゥン・キルギスタン党）が議席を獲得。政権寄りの3党が議会定員120議席のうち107議席を獲得する結果となった。

10月5日：  
●選挙結果の速報を受け、「不正な選挙が行われた」とする疑念や選挙結果に対する不満が噴出し、アラ・トー広場にてアタ・メケン党やビル・ボル党など野党支持者を中心とする市民（約6000人）が選挙のやり直しを求めて集会を行う。

10月6日：  
●深夜、アラ・トー広場にて放水やゴム弾等によりデモ隊を排除しようとした警官隊とデモ隊が衝突し、その一部が暴徒化して未明に議会堂兼大統領府（ホワイトハウス）を襲撃・占拠したうえ建物の一部に放火。また国家安全保障委員会に押し入って、収監中のジャパロフ元議員、アタムバエフ元大統領、イサコフ元首相等が解放される。  
●デモ隊がビシュケク市庁舎を占拠し、スラクマトフ市長が辞任。  
●野党11党（ブトゥン・キルギスタン党、アタ・メケン党、共和国党、ビル・ボル党、レフォルマ党他）が、キルギスの合法的な政権移譲に向けて協力することを目的として、マドゥマロフ「フ」党党首を議長とする「調整評議会」を創設。  
●中央選挙委員会が4日の選挙結果を無効とする旨発表。騒乱発生等の政治的な理由ではなく、票の買収等の不正が見られたというあくまで法的事由により無効化されると発表。  
●ジェエンベコフ大統領がBBCとのインタビューにて、「これは違法な権力の掌握であり、私は合法的な大統領として、国民を団結させる責任がある」と発言。  
●オトゥンバエヴァ元大統領が今般の情勢を受け、「大統領は民衆に耳を傾けるべきであり、今各党の党首は共同で戦略を決定して新たな選挙の日程を国民に示すべきである」と発言。  
●放火された国会議事堂に代わり「Hotel Dostuk」にて議会臨時会合が召集され、**ジャパロフ氏を新首相に推薦**。ジュマベコフ議長が辞任しアブディルダエフ氏が新議長に指名される。  
（※議会は定員の過半数である61人の出席が成立条件であるところ、61人が集まらず、ジャパロフ氏の首相指名は無効であった。なお、当地法律系NGO「アディレット（正義）」は上述の2人の指名とポロノフ首相の辞任に関し、これらの手続が共和国憲法に違反しているとの声明を発出した。

10月7日：  
●野党5党（レフォルマ党、オールド党、メケン・インティマギ党、チョン・カザット党、イマン・ヌル党）が「**国民調整評議会**」（※「調整評議会」とは別）を結成。マミトカノフ「チ」党党首によると、ジャパロフ氏とタシエフ氏（※ジャパロフ氏の盟友でありメケンチル党党首）も当初評議会に参加するはずであったが、ジャパロフ氏が首相指名を得るため何の相談もなく臨時議会と合意したことから、国民調整評議会はジャパロフ氏を首相として認めないと発表した。  
●ジェエンベコフ大統領が2回にわたって声明を発出。デモ参加者を非難し、自警活動を行った若者に感謝の意を示すとともに、野党勢力の指導者らに対し冷静な行動を呼びかけた  
●議会臨時会合が再び召集され、ジャパロフ氏の首相任命とジェエンベコフ大統領の罷免につき決議する予定であったが、定員過半数の61人が集まらなかったため開催されず

10月9日：  
●ジェエンベコフ大統領により大統領非常事態令発出。  
●**ポロノフ首相が辞任し、内閣総辞職**。  
●「調整評議会」がババノフ元首相を首相候補として擁立。  
●夕方、アラ・トー広場でアタムバエフ派、他野党支持派の集会開催中にジャパロフ支持者が乱入して騒乱に発展。この際、アタムバエフ元大統領やイサコフ元首相の車両が銃撃を受けた他、ババノフ元首相等が襲撃される。

10月10日：  
●アブディルダエフ新議長が招集した議会臨時会合にて全会一致でジャパロフ氏を新首相として承認（本会合に出席した議員は51人のみであったが、議会会合は定員総数120人の過半数である61人以上の出席がなければ会合は成立しないため、10人分の委任状を以て定員を満たしたとみなした）。しかし、カシマリエヴァ副議長（ビリムディク党より出馬）等が本決定に違法性があるとして認めない旨発表した。本会議の冒頭、アブディルダエフ議長が辞任し、議事進行はバキロフ副議長（メケニム・キルギスタン党首）に委任。

## 1-4 2020年議会選挙後のクロノロジー(2)

10月13日イサエフ議長就任から  
10月21日議会再選挙実施決定まで

10月22日議会再選挙延期から  
11月4日マミトフ議長就任まで

10月13日：

●イサエフ議員（キルギスタン党首）が議長に就任。

10月14日：

●規定の出席数を満たしたうえで（83人）改めて開催された議会会合において、**ジャパロフ氏が再び新首相に選出される**。また、同日に新内閣も選出され、**ジェエンベコフ大統領はそれを承認する大統領令に署名した**。外務大臣も元駐日大使の**アイダルベコフ氏からカザクバエフ氏に交代した**。

10月15日：

●ジェエンベコフ大統領は午前の時点で事態が鎮静化するまで辞任要求に応じないとしていたものの、午後に一転して大統領府ウェブサイト上に**辞任の意を表す国民への呼びかけ**が掲載された。

10月16日：

●議会が招集され、ジェエンベコフ大統領に「元大統領」の称号が授与されるとともに非常事態令の解除が決定される。ジェエンベコフ大統領の辞任に伴いイサエフ議長に大統領代行権限が委譲されるはずであったが、同議長がそれを拒否したため、**ジャパロフ首相が大統領代行を兼任することとなった**。

10月21日：

●中央選挙委員会が4日の選挙結果の無効化を受け、議会再選挙を12月20日に実施することを決定。

10月22日：

●憲法改正が行われるまで、最長2021年6月末まで議会再選挙を延期する旨の法案が議会で可決され、前日の中央選挙委員会の決定が覆された。

10月24日：

●行政裁判所が、12月20日に議会再選挙を行うことを定めた中央選挙委員会の決定を無効とした。

10月28日：

●中央選挙委員会が、24日の行政裁判所の決定を不服として最高裁判所に提訴。

10月29日：

●最高裁判所が前日の中央選挙委員会による上告申し立てを差戻したが、同委員会が再度上訴。

10月30日：

●最高裁判所は上告申し立ての期限切れを理由に審査を実施せず、24日の行政裁判所の判決が確定し、12月20日の議会再選挙は行われなことに決定。

11月4日：

●イサエフ議長が辞職し大統領選挙に立候補。後任にはジャパロフ大統領代行兼首相の盟友マミトフ氏が選出される。

## 1-4 2020年議会選挙後のクロノロジー(3)

11月6日ババノフ元首相によるジャパロフ氏への支持表明から  
11月17日憲法改正案発表まで

11月6日 :

●10月9日に襲撃されたババノフ元首相、大統領選挙に出馬せずジャパロフ大統領代行を支持する考えを表明。

11月11日 :

●ジャパロフ大統領代行、議会選挙において各党が議席を獲得するための足切りラインを7%から3%に引き下げる・投票区の移動をキルギス国外居住者に限定するなどの憲法関連法改正案に署名。

11月12日 :

●ジャパロフ大統領代行が就任後初の記者会見を行う。

11月14日 :

●ジャパロフ大統領代行兼首相がその職務を停止し、大統領選挙に立候補。同日付深夜で候補者登録が締め切られ、最終的な候補者は63人に。

11月15日 :

●マミトフ国会議長が大統領代行、ノヴィコフ第1副首相が首相代行に任命される。

11月17日 :

●憲法改正の是非を問う国民投票の実施に係る署名の回収が議会で始まる。国民投票の実施には80名の賛成が必要であるところ、同日時点で80名の署名が集まったとして、同日中に憲法改正案が議会公式サイト上で発表される（大統領権限強化、議会定員削減（120名→90名）、人民クルルタイ（キルギス人の伝統的な部族集会）の創設、選挙制度改革等が主な内容）。

11月17日ヴェニス委員会による緊急文書の発出から  
12月15日大統領選挙活動の開始まで

11月17日（続き） :

●EUヴェニス委員会が緊急文書を発出し、「憲法改正国民投票を実施するために議会再選挙を延期することは歓迎できず、10月28日で会期が終了しているはずの第6会期議会に憲法改正などの重大事項に係る決定を行う権限はない」等の見解を表明。

11月22日 :

●憲法改正案の内容に抗議する人々がビシュケク2駅からアラ・トー広場まで行進。主催団体である「バシュタン・バシュタ（最初から始めよ）」の発表によれば、参加者は約500名。

11月23日 :

●憲法改正案と国民投票実施の正当性への疑問の声を受け、ジャパロフ氏が「国民投票の実施を遅らせても構わないが、（別の国民投票を実施して）政治体制（議会制か大統領制か）を国民に問うべきである」旨発言。

12月11日 :

●国の政治体制（大統領制か議会制か）を問う国民投票実施法案が3回の読会を経て議会で可決され、マミトフ大統領代行が法案に署名して成立。1月10日大統領選挙と同時に政治体制を問う国民投票が実施されることが決定。

12月15日 :

●中央選管により大統領選挙候補者審査が終了し、18名の候補者が候補者証を受領。各候補者による選挙運動開始（～2021年1月9日）。

# 1-4 2020年議会選挙後のクロノロジー(4)

2021年1月10日大統領選挙・国民投票から  
8月27日「選挙法」改正まで

2021年1月10日：

●大統領選挙及び政治体制を問う国民投票（大統領制／議会制）の実施。  
ジャパロフ候補が大統領に選出されるとともに、国の統治体制として大統領制が採択された。

1月28日：

●ジャパロフが第6代大統領に就任。

4月11日：

●1月の国民投票の結果を受け、憲法改正案の是非を問う国民投票が実施され、承認される（主な内容：議会制から大統領制への移行、大統領権限の大幅強化、議会・内閣の権限縮小、議会とは別の審議機関「人民クルルタイ」の創設、選挙制度改革等）。

5月5日：

●ジャパロフ大統領が憲法改正案に署名し、**新憲法が公布**。これに伴い首相府が大統領府に吸収され、新設された内閣府の議長にマリポフ首相が就任。政府機関の大規模再編が実施される。

8月27日：

●5月に公布された新憲法に準ずる「選挙法」改正法にジャパロフ大統領が署名（主な内容：議会定員を120人から90人に削減、比例代表制による議員選出を比例代表制（54議席）・小選挙区制（36議席）の並立制に変更、政党が議席を獲得するための最低得票率（足切り条項）を7%から5%に引き下げ等）。

2021年8月29日第7会期共和国議会再選挙の日程確定から  
11月28日選挙実施まで

2021年8月29日：

●2020年10月6日に中央選挙管理委員会が結果を無効化し、再投票が延期になっていた第7会期共和国議会選挙の日程を11月28日で確定する大統領令にジャパロフ大統領が署名。

●中央選挙管理委員会が同選挙の公示を行い、立候補政党登録を開始

9月3日：

●第7会期議会再選挙の立候補政党登録締切。タシエフ国家保安委員会議長が設立した「アタ・ジュルト党」、テケバエフ元共和国議会議長が党首を務める「アタ・メケン党」を含む計75党が立候補（10月18日の供託金納入締切後に出馬政党が確定）

10月14日：

●選挙区制候補者の立候補締切

10月18日：

●比例代表制・選挙区制候補者の必要書類提出及び供託金納入締切

10月29日～11月27日：

●選挙活動期間

11月28日：

●第7会期共和国議会再選挙の実施

# 1-5 2021年5月共和国憲法改正(1)

## 【新憲法の主なポイント】

- 議会制から大統領制への移行
- 大統領権限の大幅な強化と、それに伴う三権分立の不均衡
- 共和国議会・政府（内閣）の権限縮小及び裁判所の独立性縮小
- 「キルギスの伝統的文化・価値観」の重視と、それに伴う報道・表現の自由に対する制限の懸念
- 「人民クルルタイ」（社会発展に関する諮問・監査機関：構成や活動は不明）の創設

## 旧憲法の内容

- 政治体制：**議院内閣制**
  - ・ 大統領は再選禁止、任期6年
- 大統領権限
  - ・ 大統領は議会に法案を提出することができず、議会から提出された法案を承認／拒否するのみ
  - ・ 政府要職の人事決定・任免、内閣改造を行うことができない
- 政府（行政）
  - ・ **首相は政府（内閣）の長**
  - ・ 行政機関及び地方自治機関の長を任命・解任
- 共和国議会（立法）
  - ・ 定員120人（全て比例代表制で選出）、候補者の年齢21歳以上
  - ・ 政府構成・人事に関する決定権を有する
  - ・ 大統領が署名しなかった法案に議長が署名し、公布することができる
  - ・ 内閣不信任決議を行うことができる

## 新憲法の内容

- 政治体制：**大統領制**
  - ・ 大統領は**国家元首であるのみならず、内閣（政府）を率いる最高官吏**
  - ・ 大統領は2期まで再選可、任期5年
- 大統領権限：**大幅強化**
  - ・ 議会に法案を提出することができる
  - ・ 政府要職の人事決定・任免、内閣構造の決定を行うことができる
  - ・ 大統領罷免手続きが煩雑化（その上、手続きに携わる検事総長及び憲法裁判所長官・裁判官は大統領が任命する）
- 政府（行政）：**行政権を大統領が掌握**
  - ・ 首相職及び首相府の廃止。大統領が閣議を主宰し、内閣に指示を出す
  - ・ 内閣府創設（これに伴いマリポフ首相が内閣議長に就任）
- 共和国議会（立法）
  - ・ 定員90人（うち54人を比例代表制、36人を小選挙区制で選出）、候補者の年齢25歳以上
  - ・ 政府構成・人事に関する決定権を有さず、大統領による人事を認証するのみ
  - ・ 大統領が署名しなかった法案を公布することができない
  - ・ 内閣不信任決議を行うことができない

# 1-5 2021年5月共和国憲法改正(2)

## 【新憲法の主なポイント】

- 議会制から大統領制への移行
- 大統領権限の大幅な強化と、それに伴う三権分立の不均衡
- 共和国議会・政府（内閣）の権限縮小及び裁判所の独立性縮小
- 「キルギスの伝統的文化・価値観」の重視と、それに伴う報道・表現の自由に対する制限の懸念
- 「人民クルルタイ」（社会発展に関する諮問・監査機関：構成や活動は不明）の創設

## 旧憲法の内容

- 裁判所（司法）
  - ・ 最高裁判所に憲法院が附属する
  - ・ 最高裁判所の長官・副長官は、同裁判所の裁判官が選出する
  - ・ 最高裁判所の長官・副長官の任期は3年、再選禁止
- 表現・言論の自由
  - ・ 平和的集会の開催を禁止・制限してはならない
  - ・ 民族的出自・所属を表明する自由を保証されるとともに、その表明を強制されない

## 新憲法の内容

- 裁判所（司法）
  - ・ 2010年憲法改正時に廃止された独立機関としての憲法裁判所が復活し、最高裁判所と並ぶ司法機関となる
  - ・ 最高裁判所及び憲法裁判所の長官・副長官は大統領が任命する
  - ・ 両裁判所の長官・副長官の任期が5年に延長、再選可能
- 表現・言論の自由：**政権による恣意的解釈・制限強化のおそれ**
  - ・ 「道徳的・倫理的価値観、国民の公共的良心に反する活動」が禁止（それらが具体的に何であるのかは規定されていない）
  - ・ 平和的集会への制限禁止、民族的所属の表明に関する条項が削除
- 人民クルルタイ：共和国議会との役割分担が不明瞭
  - ・ 共和国議会とは別に、各地方から選出された代表者による審議機関「人民クルルタイ」を創設
  - ・ 「人民クルルタイ」も共和国議会と同様、政府要職の罷免権や立法権等の権限を付与される

# 1-6 キルギス政府の主要政策

## 【国家戦略文書】

- 2018年10月、ジェエンベコフ前大統領は、アタムバエフ政権時代の「2012-2017年持続可能な発展戦略」の後継戦略として「キルギス国家発展戦略2018-2040」に署名。
- 2021年11月、ジャパロフ大統領は、前政権の長期ビジョンを共有しつつ、その枠組みで中期戦略「2026年までの国家発展計画」を策定。2022年1月には、ジャパロフ内閣が本計画にかかる「アクションプラン」を採択。



### 目次

1. 将来像と発展目標
2. 人・家族・社会
3. 経済発展とその環境整備
4. 国家統治
5. 2023年までの優先事項
6. 中期段階の初期的取り組み
7. 発展の管理体制



### 目次

1. 序章
2. 現状分析
3. 危機対策(新型コロナ対策)
4. ガバナンス改革-発展の核
5. 発展のための環境整備
6. 発展の優先的経済分野
7. 社会福祉向上
8. 外交・安全保障
9. 最優先事項(都市開発、気候変動)
10. 計画実現のための仕組み

### 文書が掲げる達成目標指標

- ◆ 実質経済成長率:年平均5%
- ◆ 一人当たりGDP:1,500米ドル
- ◆ 失業率:5%にまで低減
- ◆ 対内直接投資受入れ残高:対GDP比13%以上
- ◆ 対外債務:対GDP比60%以下を維持
- ◆ 人間開発指数:国別順位で5位上昇
- ◆ 国際競争力ランキング:国別順位で10位上昇
- ◆ 貧困率:20%にまで低減
- ◆ 全国共通試験:基礎レベルに達する高校卒業者を50%以上に引き上げ
- ◆ 電子政府ランキング:上位60位入り
- ◆ 温室効果ガス排出:17%削減
- ◆ 腐敗認識指数:国別順位で10位上昇

## 長期戦略

### 「国家発展戦略2018-2040」

- 人・家族・社会の発展(質の高い教育、保健医療、青年政策、家族基盤の強化。文化振興、民主主義国家における宗教のあり方)
- 経済発展とその環境整備
  - 良質なビジネス環境と質の高いインフラ整備を実現
  - 優先的な成長分野として農業、軽工業、観光業を振興
  - 環境保全・気候変動対策との両立
- 国家統治
  - 国家権力の均衡、法の支配、地方自治の発展
  - 安全保障、プラグマティズムに基づく外交政策
  - 国のデジタル化に向けた「タザ・コム」計画
- 戦略実現のための管理・モニタリング体制

## 中期戦略

### 「2026年までの国家発展計画」

- 現実的な現状認識
  - 政治プロセスの安定化、法制改革が進展する一方、国家機関による汚職は残る。
  - 新型コロナウイルスによるGDPの過去最大の下落、対外債務の対GDP比増加、闇経済のシェア大。老朽化した公共インフラ。
- ガバナンス改革の推進
  - 国家発展の一元的な管理組織の設置
  - あらゆる行政サービスのデジタル基盤整備、地方行政、治安制度改革(市民に信頼される治安機関へ)。
  - 財政改革(租税・税関等の手続の簡素化、社会保障制度見直し)
- 発展に向けた環境整備
  - ビジネス保護のための法整備、官民パートナーシップの推進、経済特区の拡大。
  - 物流インフラ整備、土地改革
  - 非公式雇用の適法化、雇用支援
  - 金融制度(国有資産の私有化、利下げ政策、電子決済の推進)
  - 国家財政(債務依存体質からの脱却)
- 経済成長の優先分野
  - 水力発電、農業・加工業(オーガニック農業の推進)、観光業、鉱業、軽工業(繊維工業の競争力強化)

## 1-7 政治体制

### サディル・ジャパロフ大統領

(2021年1月28日就任)

※2020年10月に首相代行  
及び大統領代行に就任



### アキルベク・ジャパロフ内閣議長

(2021年10月13日就任)

※2021年6月より内閣副議長  
兼経済・財務大臣



【政体】大統領制 【元首】大統領（任期5年、2期まで再選可能）  
【議会】一院制（定員90名、任期5年）

- 2021年1月10日に実施された大統領選挙において、ジャパロフ候補が正式に大統領に選出されるとともに、同日実施された国の統治体制(大統領制／議会制)を問う国民投票で「大統領制」が採択される。1月28日、ジャパロフが大統領就任。
- 1月の国民投票の結果を踏まえ、4月11日に憲法改正に係る国民投票が実施され、新憲法草案が承認(議会制から大統領制への移行、大統領権限の大幅な強化及び議会・内閣の権限縮小、裁判所の独立性縮小等)。
- 4月の国民投票の結果を踏まえ、5月5日に憲法改正。これに伴い首相府が大統領府に統合され、マリポフ首相が新設された内閣府の議長に就任する等、大規模な政府機構再編が行われた。
- 8月27日、ジャパロフ大統領が「選挙法」改正法に署名。これにより共和国議会の定員が120名から90名に削減されるとともに、これまで比例代表制のみで選出されていた議員が比例代表制:54名、選挙区制:36名に変更。
- 10月13日、ジャパロフ大統領が新閣僚の任命に関する大統領令に署名し、アキルベク・ジャパロフ内閣副議長兼経済・財務大臣を内閣議長とする新内閣が発足。
- 2021年11月28日に、2020年10月より延期されていた第7会期共和国議会選挙の再選挙が実施された。

# 1-8 キルギスの国家機構

有権者数：約370万人（人口約664万人）  
 法案発議：有権者1万人以上 国民投票発議：有権者30万人以上

大統領選挙

## 行政府

**大統領（国家元首）：サディル・ジャパロフ**

- 【資格】
- ・任期5年、35歳以上、3選禁止

- 【主要権限】
- ・行政府の長（政府活動の結果に対する責任）
  - ・共和国軍最高司令官
  - ・安全保障会議の設置及び議長、国务長官の任免
  - ・大統領府の設置（長官は内閣議長が兼任）
  - ・国際条約の交渉及び署名
  - ・国民投票の発議
  - ・議会に対する中央銀行総裁候補の提案



大統領府及び内閣府棟

- ・内閣構成及び閣僚の任免
- ・検事総長の任免  
（※議会の承認が必要）

## 内閣



【構成】  
**議長兼大統領府長官：アキルベク・ジャパロフ**  
 第一副議長、副議長、各閣僚

- 【主要権限】
- ・内閣活動の大統領に対する責任
  - ・法令（憲法的法律※、法律、大統領令）の執行、政策の策定及び実施
  - ・共和国予算編成
  - ・法案提出（議長権限）

※憲法的法律は憲法に規定のある法律であり、一般的な法律より上位の法令

地方自治体の長の任免

## 地方自治体

【構成】

- ・2特別市（ビシュケク市・オシュ市）
- ・7州（チュイ州、イシククリ州、ナリン州、タラス州、オシュ州、ジャララバード州、バトケン州）

- 【主要権限】
- ・行政区域内の行政権
  - ・地方予算編成

議会議員選挙

## 立法府

**議長：タラント・マムイトフ**

- ・副議長3名、8つの専門委員会

- 【議会制度】
- ・一院制、90議席、任期5年
  - ・選出方法：比例代表制（54議席）  
小選挙区制（36議席）

- 【主要権限】
- ・法案の発議及び可決（議員総数の半数以上、憲法的法律の場合は2/3以上の賛成が必要）、国際条約の批准・廃棄、予算承認、国民投票の発議
  - ・大統領による閣僚、憲法裁判所及び最高裁判所長官、検事総長任命の承認、中央選挙管理委員会及び会計検査院委員の選出、大統領の提案に基づく中央銀行総裁の選出
  - ・大統領選挙の実施決定
  - ・議員総数2/3以上の賛成により議会解散（大統領に解散権はなし）



共和国議会棟  
 （正式名称：ジョゴルク・ケネシュ）

大統領弾劾

- ・年次活動報告
- ・議会の臨時招集
- ・法案提出、可決法案の差し戻し、法案署名

予算執行に関する年次報告（内閣）

憲法裁判所及び最高裁判所裁判官の任命

法令・未発効の国際条約審査

## 司法府

**憲法裁判所長官：エミル・オスコンバエフ**  
**最高裁判所長官：ザミルベク・バザルベコフ**

- 【主要権限】
- ・憲法裁判所：憲法解釈、未発効条約の合憲判断、大統領弾劾決議の審査
  - ・最高裁判所：司法の最高機関、法案提出（所管事項のみ）



司法評議会の提案に基づき、裁判官候補を議会に提案、両裁判所長官を任命

国家機関の権能に関する紛争の調停

# 1-9 選挙法改正及び共和国議会の権能

## 選挙法改正の経緯

- 2020年11月、ジャパロフ大統領代行（当時）が10月議会選挙における不正の横行を受け、投票区変更届の原則禁止や足切り条項の引き下げを規定した「キルギス共和国大統領及び共和国議会議員の選挙に関する憲法的法律」（以下、選挙法）改正法案に署名。
- 2021年5月、憲法改正に関する国民投票（4月）の結果を受け、議員定数削減、候補者年齢の引き上げ等が規定された新憲法が成立。
- 2021年7月、新憲法に沿った選挙法改正法案が可決され（議会定員120名のうち賛成107／反対2）、8月27日にジャパロフ大統領が署名。

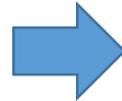
## 選挙法改正前（2020年10月以前）

### ●議員定数及び議員資格

- ・ 議員定数：120名
- ・ 年齢制限：21歳以上
- ・ 学歴：規定なし
- ・ 議会に占める女性の割合：30%

### ●選挙方式及び選挙運動

- ・ 選挙方式：比例代表制（120名選出）のみ
- ・ 投票日の6か月以内に設立された政党は立候補することができない
- ・ 議席獲得のための最低得票率：全体で7%及びビシュケク市・オシュ市を含む各州で0.7%
- ・ 有権者は「投票区変更届（Form 2）」の提出により投票区を移動できる  
（※本制度は有権者が住民登録と異なる場所で投票を行う権利を保障する趣旨であったが、2020年10月議会選挙では、政党が特定の州で上記足切り条項をクリアできない等の理由から組織的に有権者を買収し、恣意的に投票区を移動させたことが問題となった。OSCEの報告によれば、総有権者約350万人のうち約44万人が投票区を移動したとされる）



## 選挙法改正後（現行法）

### ●議員定数及び議員資格

- ・ 議員定数：90名
- ・ 年齢制限：25歳以上
- ・ 学歴：高等教育を受けていなければならない
- ・ 議会に占める女性の割合：比例代表で選出される議員のうち少なくとも30%

### ●選挙方式及び選挙運動

- ・ 選挙方式：比例代表制（54名選出）及び小選挙区制（36名選出）の並立制
- ・ 新規に設立された政党も立候補可能
- ・ 議席獲得のための最低得票率（比例代表制のみ）：全体で5%及びビシュケク市・オシュ市を含む各州で0.5%（2020年11月改正時点では3%及び0.3%と規定）
- ・ 投票区移動の原則禁止

## 共和国議会の権能

### ●1院制、任期5年

### ●最高の代表機関であり、その権限の範囲内で立法権及び監督機能を行使する。

- 2021年5月の憲法改正により、国民投票実施の決定・政府人事の決定・内閣不信任案の決議・大統領の署名をうけなかった法案に対する議長の署名・公布権の権限を喪失するなど、議会権限が縮小した。

# 1-10 キルギスの主要政党

(2022年2月時点で議席を有する政党)

現政権寄り

野党

## アタ・ジュルト(祖国)＝キルギスタン党 与党第1党、15議席

- 党首: アイベク・マトケリモフ(南部オシュ州出身)
- 親政権派。タシエフ国家保安委員長が設立した「アタ・ジュルト」党とは別政党であるとしても、同委員長との協力を認めている
- 候補者は「アタ・ジュルト」党や、ジャパロフ大統領及び委員長が設立した「メケンチル(愛国者)」党にかつて所属した者が散見される



## イシェニム(信用)党 与党第2党、12議席

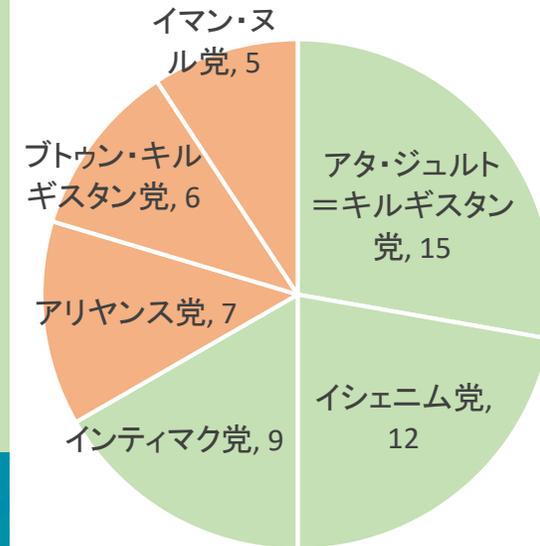


- 党首: アザマト・ドロエフ(元ビシュケク市オクチャブルスキー地区長官)
- 現政権を支持。政権及び有力政治家の支援を受けていないとするも、ジャパロフ大統領の顧問や、2021年1月大統領選挙において同大統領の選挙チームに所属した人物らが出馬

## インティマク(調和)党 与党第3党、9議席



- 党首: マルレン・ママタリエフ(ママタリエフ前国家人事局長官の息子)
- 党首をはじめとして、ジェエンベコフ前大統領派の政党に所属していたものの、宗旨変えた人物が多く所属



議会内勢力分布(定数90)

キルギスの政党は、政策・政治思想ではなく人間関係・利権による結びつきが強く、公式HPで政策すら公表しない政党も存在。また今次議会選挙においては、ジェエンベコフ前政権時代の与党議員が、ジャパロフ政権寄りの政党から出馬するケースが散見された。

## アリアンス(連盟)党 野党第1党、7議席



- 党首: ミルラン・ジェエンチョロフ及びジャナル・アカエフ
- 西側諸国との関係を重視するリベラル派政党
- ジェエンベコフ政権下で外相及び駐日大使を務めたアイダルベコフ議員等、前政権の与党出身者が多く所属

## ブトゥン(統一)・キルギスタン党 野党第2党、6議席

- 党首: アダハーン・マドゥマロフ
- 北部に支持基盤を持つ、民族右派政党。無効となった2020年議会選挙において唯一議席を獲得した野党



## イマン・ヌル(信仰の光)党 野党第3党、5議席

- 党首: ヌルジギット・カディルベコフ(元文化・情報・観光大臣、神戸大学で修士号を取得)
- マニフェストに政治色薄く宗教・道徳色が濃い



# 1-11 2021年共和国議会選挙見取り図(比例代表制)

## 野党



**ブトゥン(統一)・キルギスタン党**

- ・ 拠出金額6位
- ・ 民族主義の右派、出稼ぎ移民を中心に強固な支持層



**アタ・メケン(祖国)党**

- ・ 拠出金額8位
- ・ 創設者のテケバエフは北部に基盤を持つ古参の政治家



**社会民主主義者党**

- ・ 拠出金額9位
- ・ アタムバエフ元大統領の息子が所属



**ウルツタル・ビリムディギ(国民の統一)党**

- ・ 拠出金額10位
- ・ 選挙直前に設立された新政党、オシュ州に基盤



**イマン・ヌル(信仰の光)党**

- ・ 拠出金額11位
- ・ 政治色が薄く宗教色・道徳色の強い政党



**アリヤンス(連帯)党**

- ・ 拠出金額3位
- ・ 西側諸国との関係強化を重視するリベラル派
- ・ カザクバエフ外相が所属する「共和国党」やジェエンベコフ前大統領時代の与党「ビル・ボル党」等が合流して結成



**アザティック(自由)党**

- ・ 拠出金額7位
- ・ 党首はジェエンベコフ前大統領派の政党出身である一方、ジャパロフ大統領の友人も所属

↑ 拠出金額が大きい



**インティマク(調和)党**

- ・ 拠出金額4位
- ・ ママタリエフ党首をはじめ、ジェエンベコフ前大統領時代の与党から転向した黨員が多い



**イシェニム(信用)党**

- ・ 拠出金額2位
- ・ 現政権支持を表明、ジャパロフ政権の政策と党のマニフェストに共通点が多い
- ・ 大統領顧問などが所属



**エル・ウムトゥ(国民の期待)党**

- ・ 拠出金額5位
- ・ ジャパロフ大統領夫人及び息子の支援を受けているとの由
- ・ 若手候補者が多い



**アタ・ジュルト(祖国)＝キルギスタン党**

- ・ 拠出金額1位
- ・ ジャパロフ大統領が設立した「メケンチル党」及びその盟友タシエフ国家保安委員長の「アタ・ジュルト党」の出身者多数
- ・ 南部に強固な支持基盤

## 現政権寄り



**メケンチル・エル(愛国者・国民)党**

- ・ 拠出金額12位
- ・ 「アタ・ジュルト党」を母体とし、「大統領の強大な権力」を支持

↓ 拠出金額が小さい

※各政党の円の大きさは、中央選挙委員会に申告した政党拠出金の大きさを示す  
 ※出馬した21政党のうち上位12政党のみ掲載

# 1-12 2021年共和国議会選挙(中央選管に登録された政党一覧)

## 現政権寄り (5政党)

- アタ・ジュルト(祖国) = キルギスタン党
  - イシェニム(信用)党
  - インティマク(調和)党
- 以上3政党が議席を獲得

- エル・ウムトゥ(国民の期待)党
- メケンチル・エル(愛国者国民)党



## 野党 (16政党)

- アリヤンス(連盟)党
  - ブトゥン(統一)・キルギスタン党
  - イマン・ヌル(信仰の光)党
- 以上3政党が議席を獲得

- アザティック(自由)党
- アタ・メケン(祖国)党
- 社会民主主義者党
- ウルツタル・ビリムディギ(国民の統一)党
- バギド(方向性)党
- キルギス統一党
- ウール・ジュルト(偉大な国民)党
- クチュー・レギオン(強い国民)党
- レガライズ(法典化)党
- オルド(中道)党
- 国民の遺産「アルザド」党
- ジャシャシン(生きる)・キルギスタン党
- 緑のキルギスタン党

# 1-13 2021年共和国議会選挙(結果概要及び評価)

- ・ 2021年11月28日 第7会期共和国議会再選挙実施 (2020年10月4日に実施された同議会選挙の再投票)
- ・ 全国投票率34.61%
- ・ 2021年7月に実施された「選挙法」改正後初の議会選挙。90議席のうち54議席が比例代表制、36議席が小選挙区制で選出。比例代表制での議席獲得には、全国で5%以上及び各州(ビシュケク市及びオシュ市含む)で0.5%の得票率が必要

## 結果概要

【比例代表制】(赤字:現政権寄り、青字:野党)

出馬した21政党のうち、現政権寄りの3政党及び野党3政党が議席を獲得。

- ・ 1位:「アタ・ジュルト(祖国)＝キルギスタン」党、17.32%(15議席)
- ・ 2位:「イシェニム(信用)」党、13.61%(12議席)
- ・ 3位:「インティマク(調和)」党、11.0%(9議席)
- ・ 4位:「アリヤンス(連盟)」党、8.35%(7議席)
- ・ 5位:「フトウン(統一)・キルギスタン」党、7.04%(6議席)
- ・ 6位:「イマン・ヌル(信仰の光)」党、6.17%(5議席)

※当選した党の概要は1-10「キルギスの主要政党」を参照

【小選挙区制】

選挙区に地盤を有する現職議会議員、地方議員、ビジネスマンを中心に当選

※詳細は1-14「2021年共和国議会選挙(小選挙区制)」を参照

## 本選挙の評価

- ・ ジャパロフ政権は行政資源濫用及び票買収の撲滅を掲げ、厳しい取締りを展開した結果、部分的な選挙違反は見られたものの、「史上最も公正な選挙」と評される結果となった。
- ・ 2020年10月の議会選挙後の騒乱の中から成立したジャパロフ政権は、一連の政治改革(2021年1月大統領選挙、5月憲法改正、11月議会選挙)を経て、その正統性や法的基盤を確立した。

## 議席配分 (※比例括弧内は女性議員数)



# 1-14 2021年共和国議会選挙(小選挙区制)

- ・ 共和国議会定員90人のうち、36人が小選挙区制で選出
- ・ 各選挙区に地盤を有する現職・元共和国議会議員、地方議員、ビジネスマンを中心に当選

## 【チュイ州(6議席)】

- ・ 2020年議会選挙において、ジェエンベコフ前大統領派「ビリムディク(連帯)」党から出馬したヌルランベク・アゼイガリエフ、
- ・ アタムバエフ元大統領の長男セイドベク・アタムバエフらが当選

## 【タラス州(2議席)】

- ・ ダスタンベク・ジュマベコフ(アタムバエフ・ジェエンベコフ政権下で共和国議会議長)及び
- ・ バクティベク・チョイベコフ(元「ビリムディク」党所属)が当選

## 【ジャララバード州(7議席、タシエフ国家保安委員長出身)】

- ・ タシエフ委員長の弟シャイルベク・タシエフ、
- ・ 共和国議会で国際問題・安全保障・防衛委員会委員長を務めるタザベク・イクラムフ、
- ・ ジャパロフ政権下でマナス空港長官を務めたバクティベク・シディコフ、
- ・ バキエフ元大統領の報道官を務めたヌルランベク・シャキエフらが当選

## 【バトケン州(3議席)】

- ・ マトライモフ元税関次長の後任であり、2021年に汚職容疑で有罪判決を受けたヌルラン・ラジャバリエフらが当選

## 【ビシュケク市(4議席)】

- ・ 「ご意見番」として反体制派に人気が高いダスタン・ベケシェフ議員らが当選
- ・ 選挙区2つは「誰にも投票しない」の得票数が最多であり、2022年2月27日に再選挙実施予定

## 【イシククリ州(3議席、ジャパロフ大統領出身)】

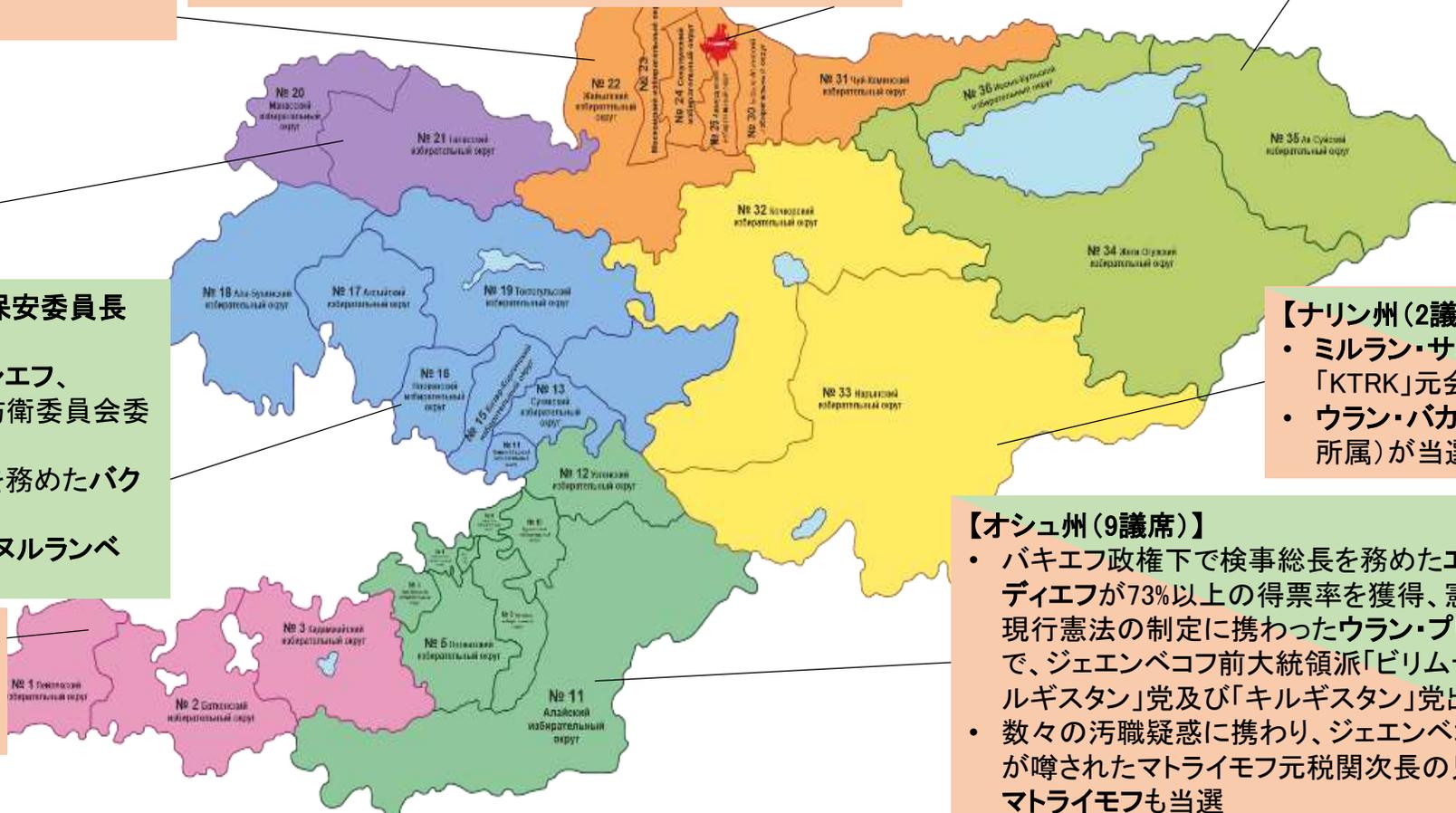
- ・ ジャパロフ大統領の姻族アキルベク・トゥモンバエフらが当選

## 【ナリン州(2議席)】

- ・ ミルラン・サミコジョ(国営テレビ局「KTRK」元会長代行)及び
- ・ ウラン・バカソフ(元「ビリムディク」党所属)が当選

## 【オシュ州(9議席)】

- ・ バキエフ政権下で検事総長を務めたエルムルザ・サティバルディエフが73%以上の得票率を獲得、憲法制定会議委員として現行憲法の制定に携わったウラン・プリモフらが当選する一方で、ジェエンベコフ前大統領派「ビリムディク」党、「メケニム・キルギスタン」党及び「キルギスタン」党出身者が多数当選
- ・ 数々の汚職疑惑に携わり、ジェエンベコフ前大統領との繋がりが噂されたマトライモフ元税関次長の兄であるイスケンデル・マトライモフも当選



# 1-15 キルギス・タジキスタン国境紛争

(キルギスの報道ぶりを基に作成)



## 1. 主な原因

### (1)未確定の国境線

- 全国境線の5割強(全長971kmのうち519km)のみ画定(2002年国境確定交渉開始)
- 両国はそれぞれ自国に都合の良いソ連時代の地図に基づき国境線を解釈。

### (2)水資源等を巡る問題

- 国境地域の貴重な水資源「ゴロヴナヤ水路」を巡る争いが今回の衝突の直接のきっかけ。
- タジキスタン飛び地ヴォルフ地区(面積約130km<sup>2</sup>、人口約4万人)で人口増加により耕作地・放牧地が不足し、事実上国境線が「膨張」。

### (3)国内事情(バトケン州の劣悪な経済情勢)等

- 貧困率:32.6%(国内1位)(2019年)
- 海外送金依存率:34%(国内1位)
- 失業率:8.2%(国内2位)(2019年)

## 2. 経緯

- 3月26日、タシエフ国家保安委員会議長はタジキスタンとの国境問題解決に意欲を示し、タジキスタン飛び地ヴォルフ地区と他地区との領土交換をタジキスタン側に提案。
- 同31日、ザリフィ・タジキスタン元外務大臣(元駐日大使)が自らのFacebook上で上記発言に反発。また、4月9日、ラフモン・タジキスタン大統領がヴォルフ地区を訪問し「ヴォルフはタジキスタン領に残る。これまで同地区と他地域との交換に関する問題は無く、今後もあり得ない」旨発言。
- 4月28日夕刻、タジキスタン側がバトケン州コク・タシュ村にある「ゴロヴナヤ水路」の取水口に監視カメラを設置したことをきっかけに双方住民同士の投石に発展し、発砲事件も発生。
- 同29日朝、同取水口地域で銃撃戦が発生し、午後にはタジキスタン国境警備隊が同州国境地帯の10以上の地区でも機関銃や迫撃砲、ヘリコプター等による攻撃を仕掛け、キルギス側も応戦・報復攻撃を実施。深夜まで散発的な戦闘が継続し、双方に死傷者及び住宅等の破壊が発生。
- 同30日、ジャパロフ大統領がラフモン大統領と電話会談し、問題の平和的解決と国境画定に関する交渉開始を合意。
- 5月1日、タシエフ・ヤティモフ両国国家保安委員会議長が会談し、軍隊の完全撤退、国境画定作業実施を合意。
- 5月3日、キルギス最高検察庁は、同衝突をタジキスタンの軍事侵略行為として非難し、刑事捜査開始を発表。

## 3. 被害状況

### (1)キルギス側

- 死者:36名
- 負傷者:154名
- 避難民:4万人以上

### (2)タジキスタン側

- 死者:19名
- 負傷者:87名
- 避難民:不明



●衝突が発生した地区

● Районы столкновений

# 1-16 キルギス国内のロシア軍基地



2012年9月、上記1～4を包括するロシア統合軍事基地協定を締結。2017年1月発効。15年間の期限に加え、5年間の自動延長を伴う。借料は年間約450万ドル。5は借料の代わりにキルギス国内で発生した地震の発生時刻と震度が情報提供されている。

## 1 カント第999空軍基地（チュイ州カント市）

- 2003年10月23日開設。
- 集団安全保障条約機構（CSTO）集団緊急展開軍支部であり、同機構加盟国の領土及び空域の安全保障を担う。
- 当基地にはSu-25攻撃機、Mi-8輸送ヘリコプターが配備されている。

## 2 第954対潜軍備試験基地「コイ・サリ」（イシククリ州カラコル市）

- ロシア海軍の魚雷の実験が行われている。

## 3 第338通信拠点（チュイ州カラ・バルタ市）

- ロシア海軍本部からの通信を太平洋及びインド洋に所在する潜水艦及び水上艦に伝達。
- ロシア海軍本部の関心事項に対し、無線探査を行う。

## 4 無線地震観測所（ジャララバード州マイル・スー市）

- 解体された無線地震実験所の観測機能だけが残っている。

## 5 第1自動地震観測所（イシククリ州イチケ・スー村）

- ロシア国防省地震課の支部。世界の核兵器の実験と使用の監視、及び地震の観測を行う。

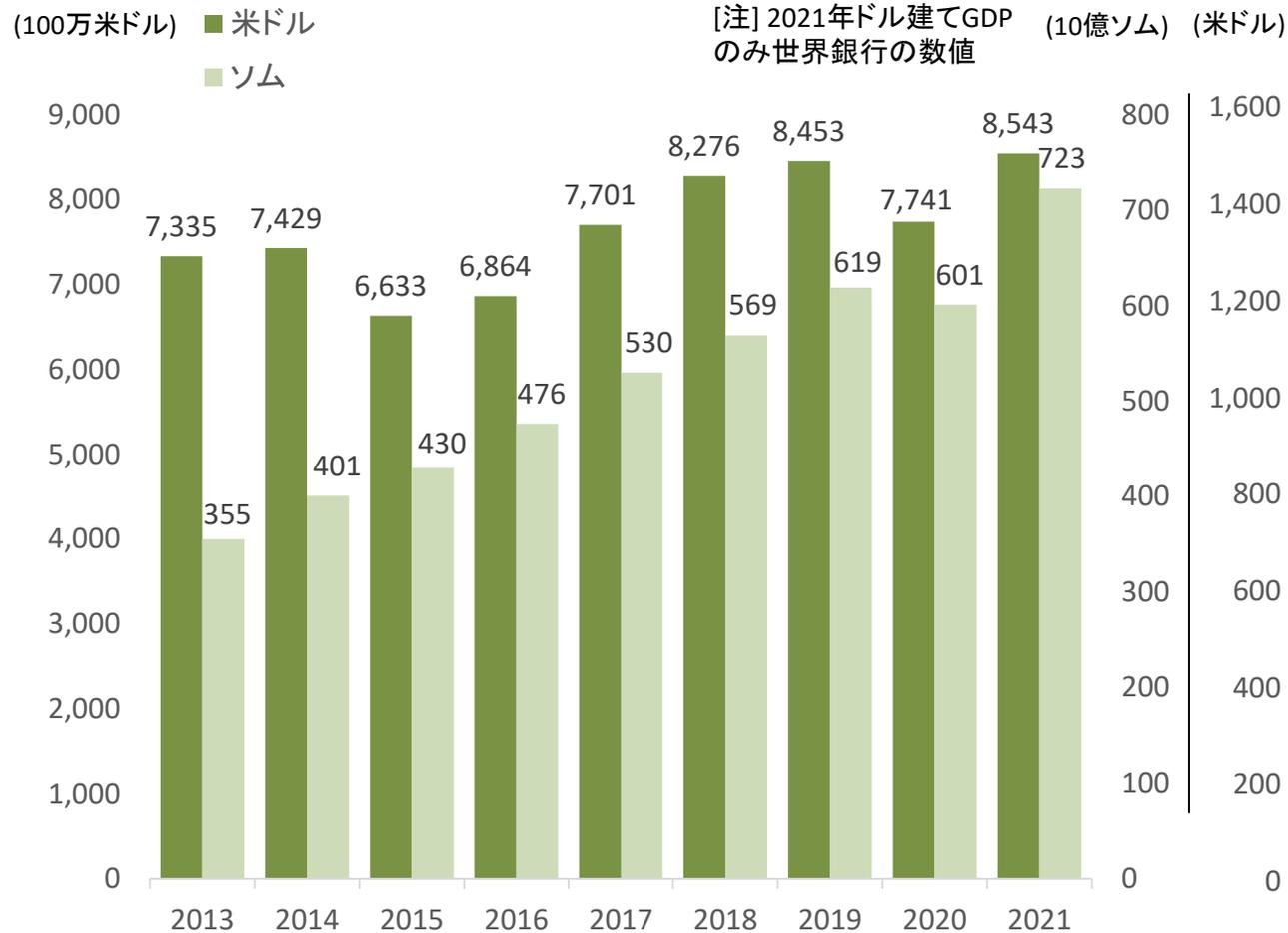
# 2 経済

## 2. 経済

- 2-1 GDP
- 2-2 海外送金
- 2-3 財政構造
- 2-4 物価、為替、金融政策
- 2-5 産業
- 2-6 貿易
- 2-7 対内直接投資
- 2-8 中国への経済依存
- 2-9 外国及び国際ドナーの対キルギスODA

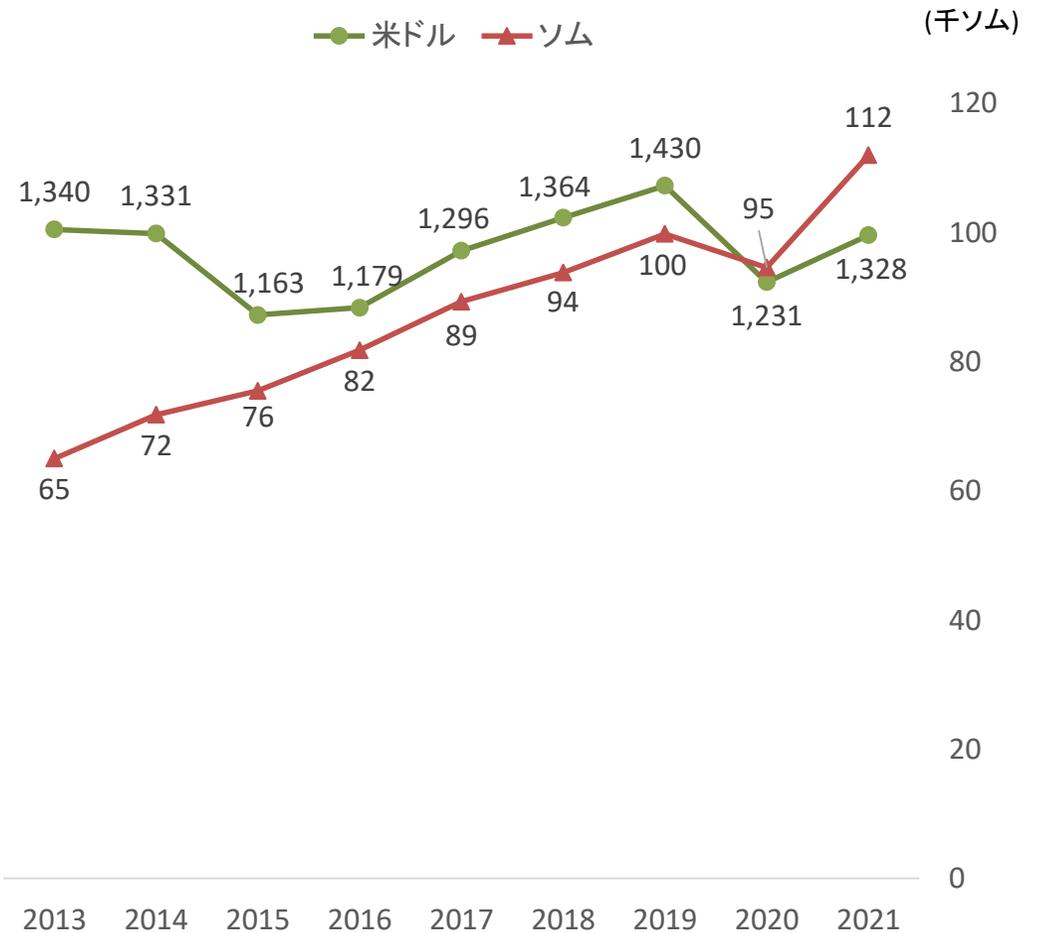
## 2-1 GDP:総額、一人当たり

### 名目GDP:総額



[注]2021年は暫定値

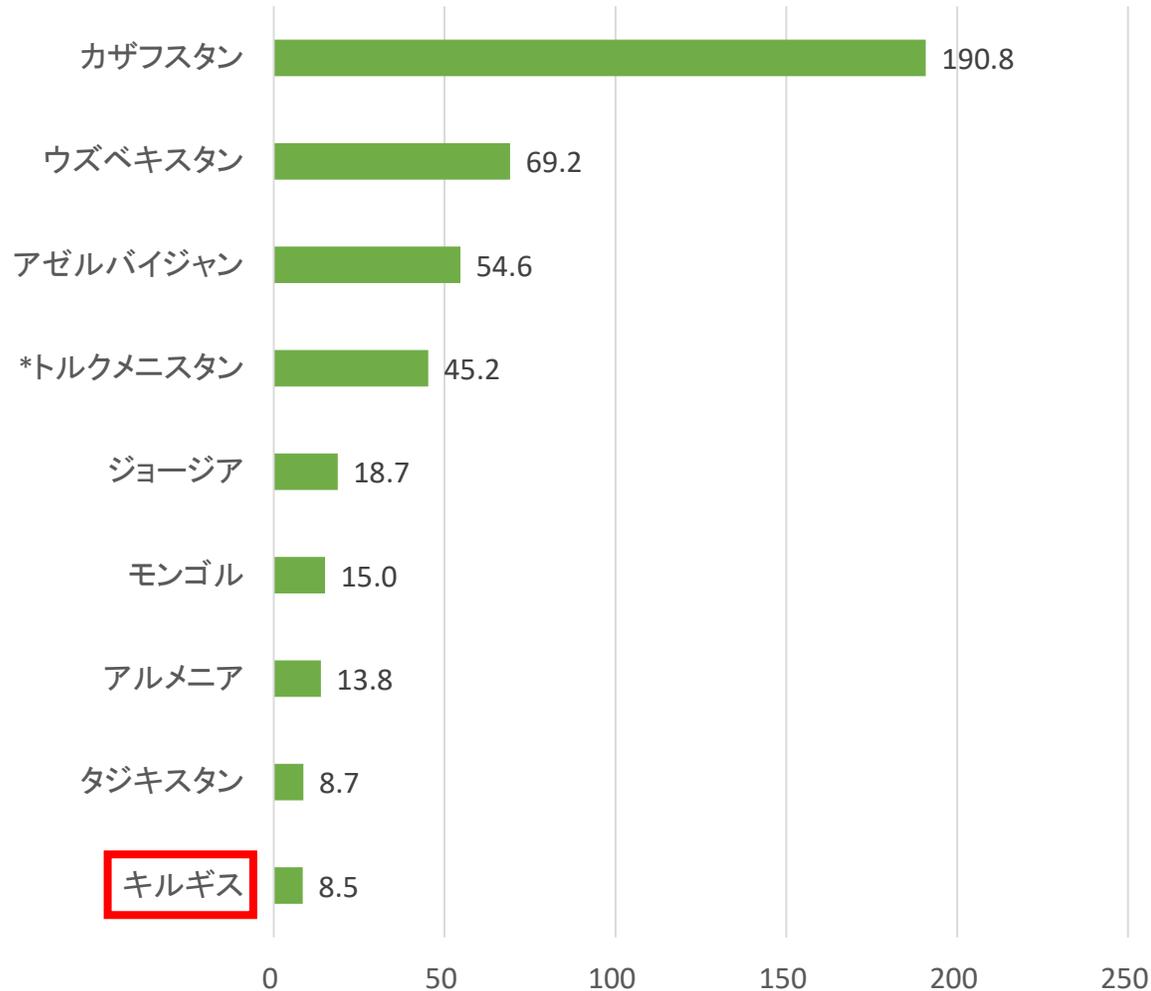
### 名目GDP:一人当たり



[注]2021年は暫定値

## 2-1 GDP:他国との比較

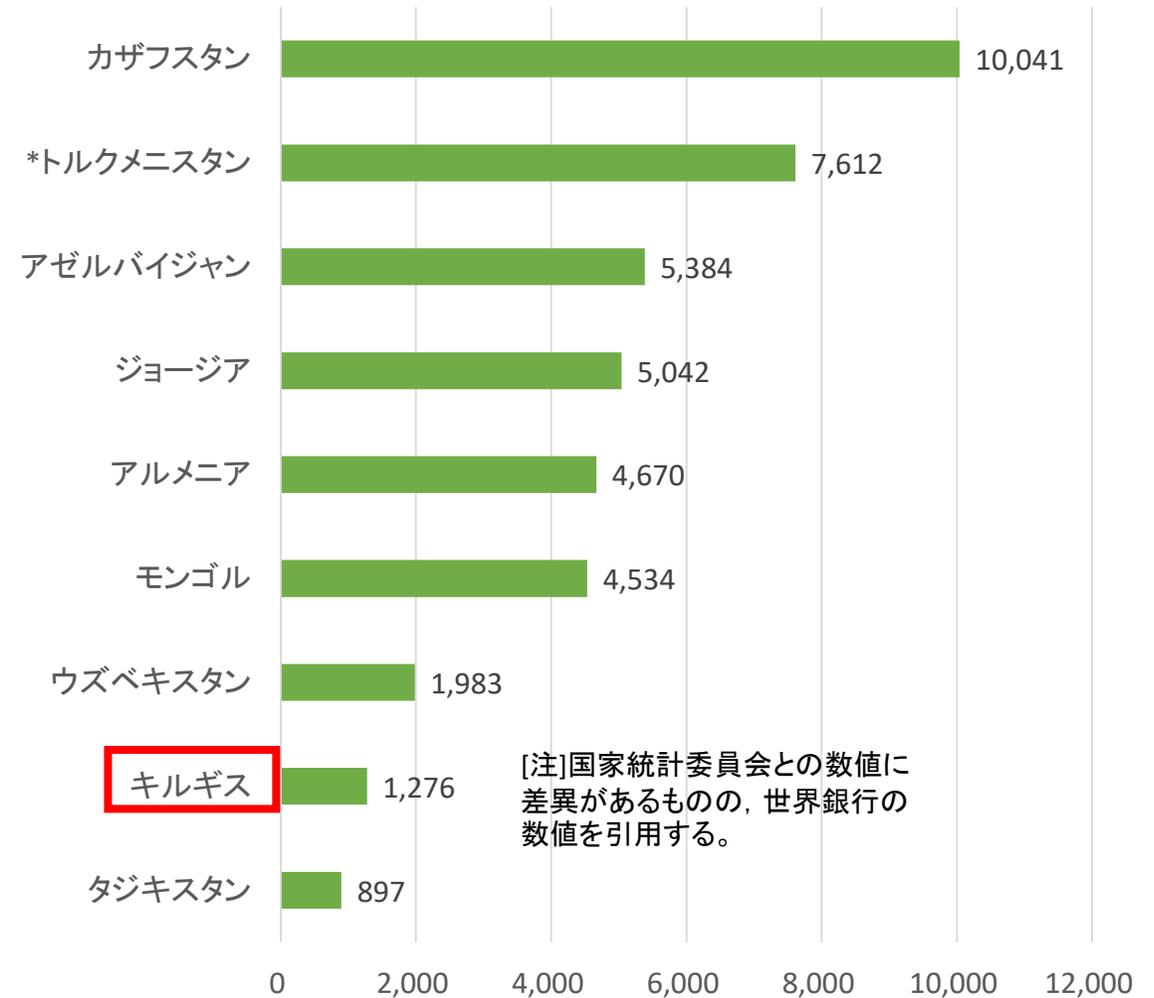
2021年名目GDP総額(単位:10億米ドル)



※トルクメニスタンの入手可能なデータは2019年

※(参考)ロシアのGDPは1.7兆米ドル, 一人あたりGDPは1万2,172米ドル(2021年)

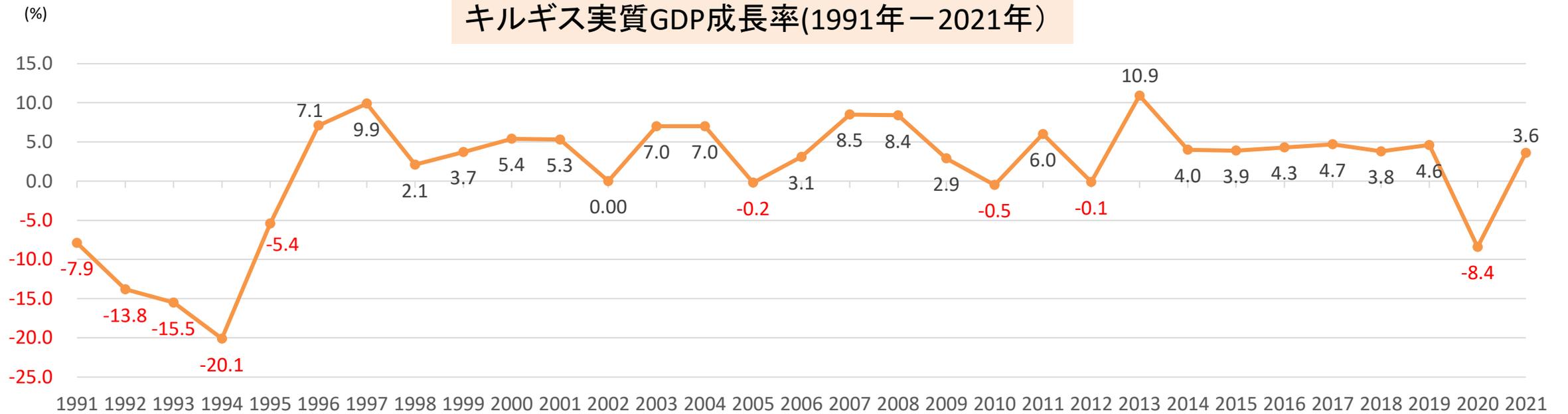
2021年一人当たり名目GDP(単位:米ドル)



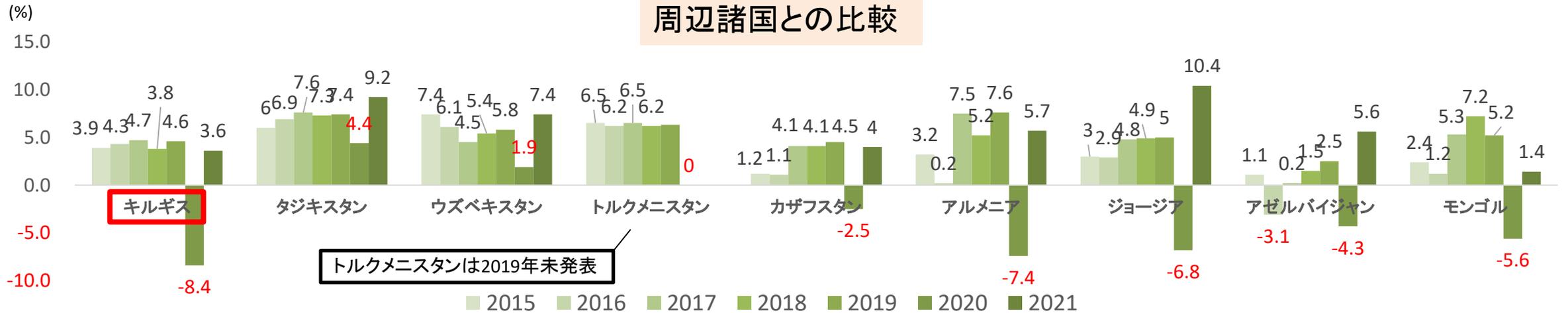
[注]国家統計委員会との数値に差異があるものの,世界銀行の数値を引用する。

## 2-1 GDP: 実質GDP成長率の推移

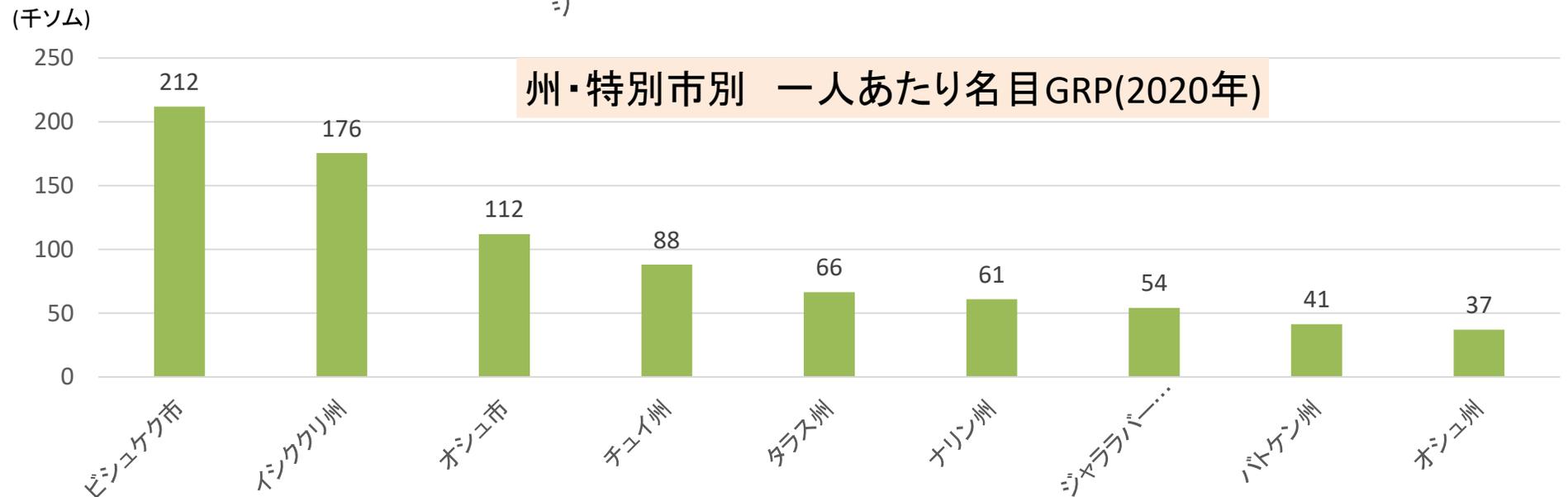
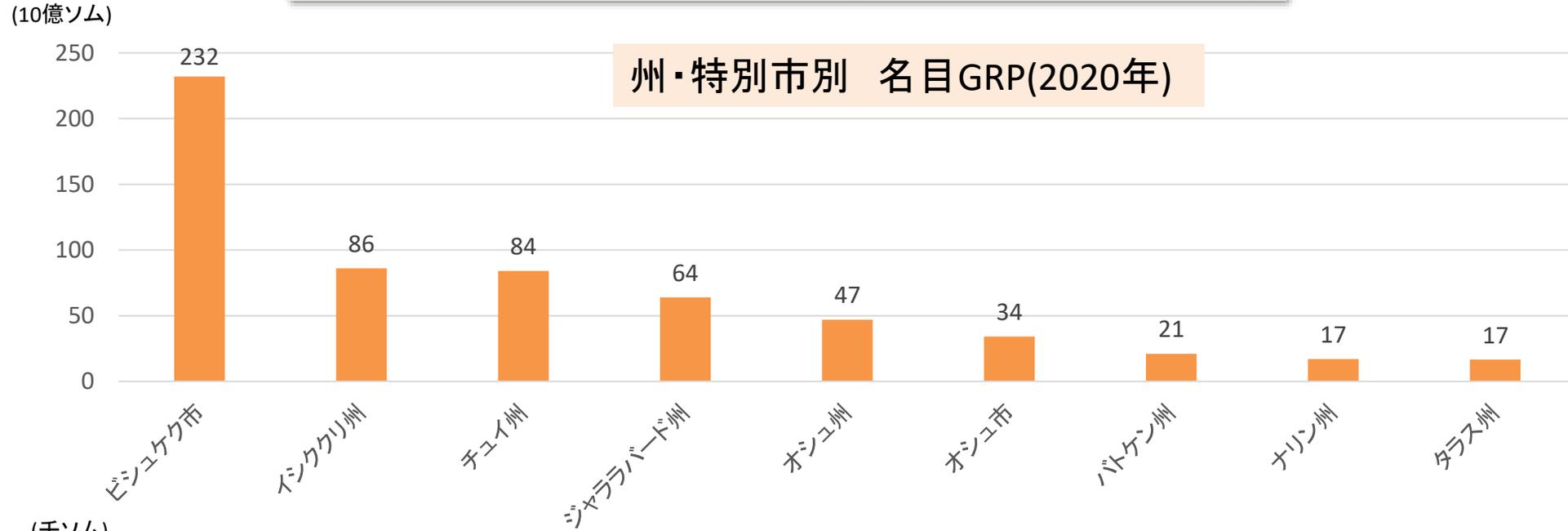
キルギス実質GDP成長率(1991年-2021年)



周辺諸国との比較

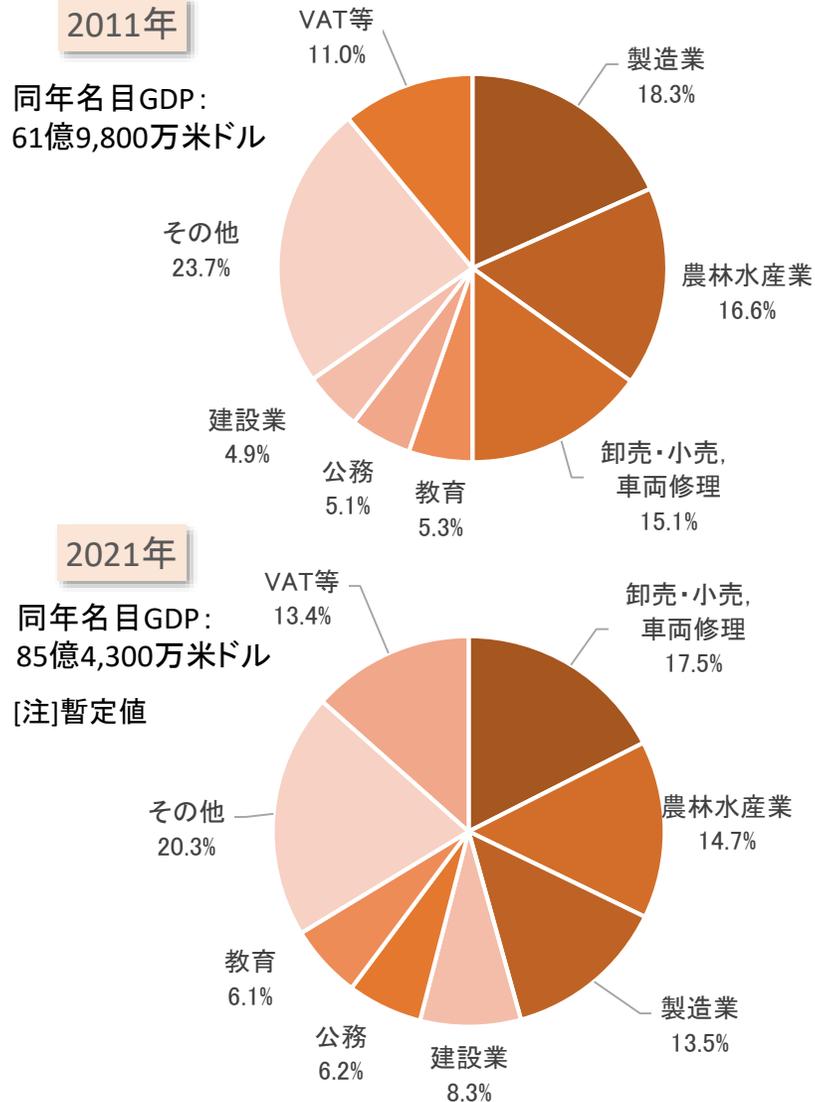


## 2-1 GDP:地方総生産(GRP、名目総生産)



## 2-1 GDP: 名目GDPの構成(産業別, 支出別)

### 名目GDPの構成(産業別)



### 名目GDPの支出別内訳

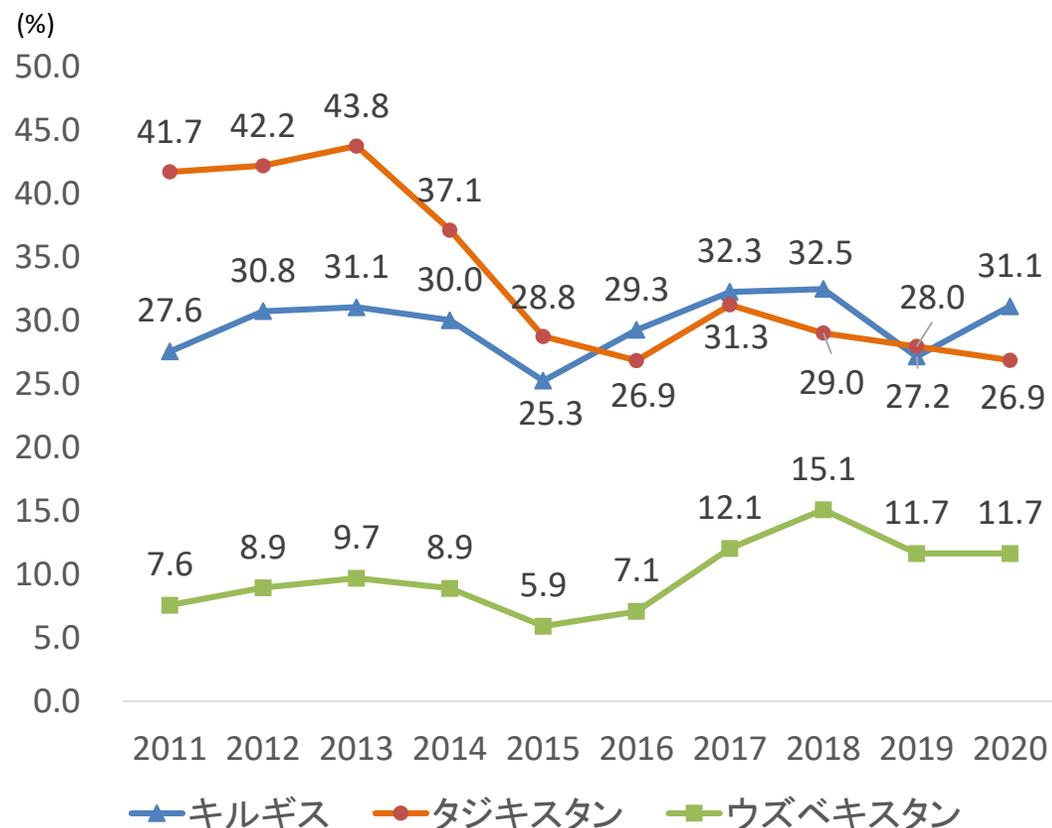
(2020年 単位:10億ソム)

<b>総額</b>	<b>602</b>	<b>財・サービスの輸出</b>	<b>188</b>
<b>最終消費支出</b>	<b>568</b>	うち財の輸出	156
個人消費	512	うちサービスの輸出	33
家計	446	<b>財・サービスの輸入</b>	<b>-314</b>
NPISHs対家計民間非営利団体	7	うち財の輸入	-267
政府支出	60	うちサービスの輸入	-47
集合消費支出	56	<b>控除</b>	<b>2</b>
<b>総固定資本形成</b>	<b>165</b>		
<b>在庫変動</b>	<b>-8</b>		

- 最終消費支出の個人消費の内訳にある政府支出は、政府による支出のうち、医療サービスや教育など、個人に資する支出。
- 集合消費支出は、政府による支出のうち、水力発電所や国防、運輸インフラなど、集団に資する支出。
- 対家計民間非営利団体とは、学校法人や政治団体、宗教団体など、非市場の財貨やサービスを提供する団体を指す。

## 2-2 海外(ロシア)からの送金への依存: 中央アジア他国との比較

中央アジア3か国の海外出稼ぎ送金収入の名目GDP比



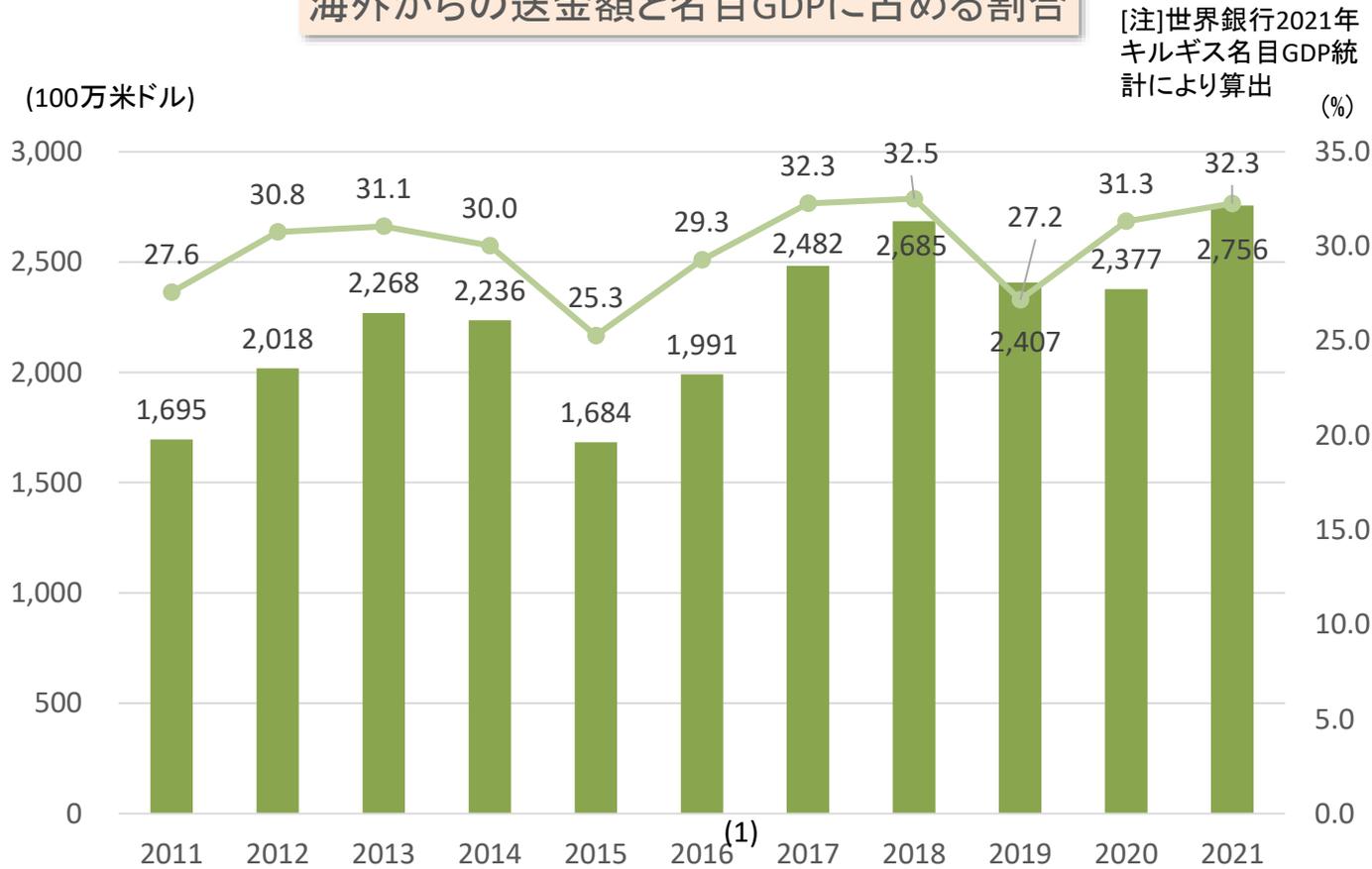
国家移民局によると、2018年時点でロシアに移民登録されているキルギス国籍者は64万人。

海外出稼ぎ送金収入名目GDP比 上位10か国  
(単位:%、世銀データによる)

順位	年	2010	2015	2020
1		タジキスタン(35.8)	トンガ(34.4)	トンガ(39.0)
2		レソト(26.9)	ネパール(31.4)	キルギス(31.1)
3		キルギス(26.4)	タジキスタン(28.8)	タジキスタン(26.9)
4		モルドバ(25.1)	キルギス(25.3)	レバノン(25.6)
5		ハイチ(22.3)	ハイチ(25.2)	サモア(25.3)
6		バミューダ(22.0)	リベリア(20.6)	ソマリア(24.9)
7		ネパール(21.6)	モルドバ(19.9)	ネパール(24.3)
8		サモア(20.9)	エルサルバドル(18.2)	エルサルバドル(24.1)
9		トンガ(20.0)	ホンジュラス(17.5)	ハイチ(23.8)
10		エルサルバドル(18.8)	サモア(16.5)	ホンジュラス(23.5)

## 2-2 海外(ロシア)からの送金への依存:送金額と対GDP比の推移

海外からの送金額と名目GDPに占める割合



(1) 2015年、油価大幅下落に伴うロシア国内の景気減退

[注]資金流入額

キルギスの出稼ぎ(移住)労働者(2018年)

[注]資金流入額

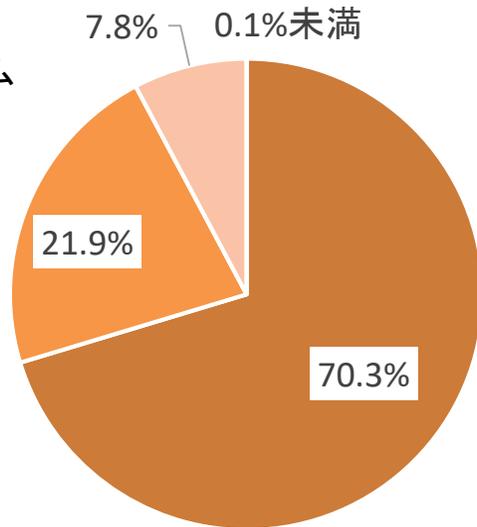
	労働者数(千人)	送金額シェア/送金額 (100万米ドル)
ロシア	640	98.25% 2,638.35
カザフスタン	35	0.08% 2.21
その他CIS諸国	-	0.002% 0.05
アメリカ	15	1.00% 26.73
ドイツ	5	0.0005% 0.013
イギリス	2	0.0004% 0.011
その他	-	0.67% 17.90

[注]他トルコ3万人、イタリア5千5百人、韓国5千人、アラブ首長国連邦3千人。送金額及びシェアはInternational transactions reporting systemを元とするキルギス国立銀行の統計より算出。

## 2-3 財政構造：国家財政(歳入／歳出)

### 2020年の歳入

1,521億3,988万ソム



(単位:10億ソム)

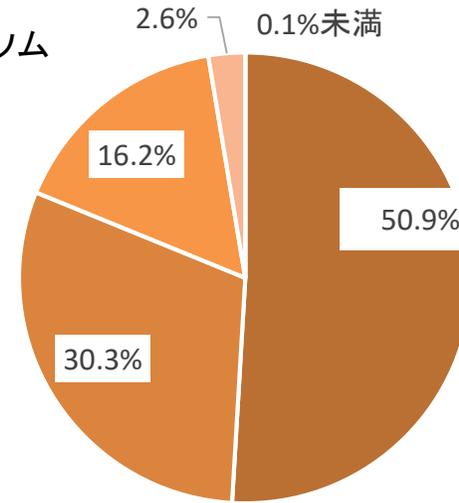
税金(107)

税金以外(33)

- 外国政府, 国際機関等からの公的資金供与(12)
- 非金融資産売却(0.1)

### 税金内訳

1,069億2,922万ソム

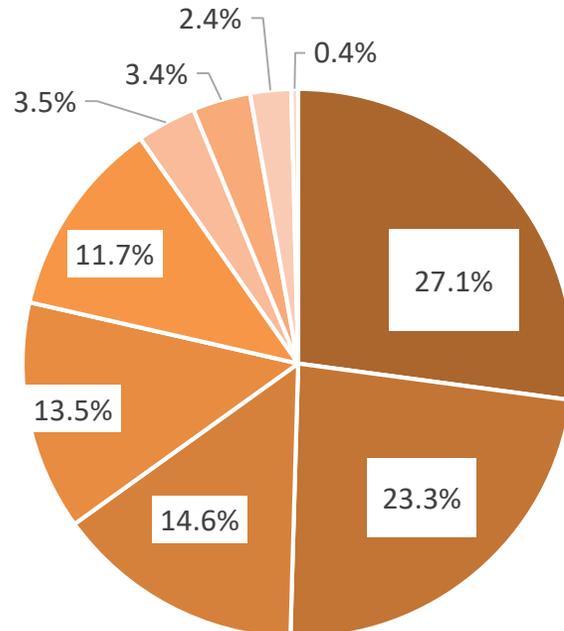


(単位:10億ソム)

- 物品サービス税(VAT含む)(55)
- 所得税, 法人税(32)
- 関税(輸出入)及び貿易関連業務からの税金(17)
- 財産税(3)
- その他(0.00) ※約350万ソム

### 2020年の歳出

1,474億874万ソム



(単位:10億ソム)

- 教育(40)
- 社会保障(34)
- 行政(司法機関, 国際関係, 予算執行等)(22)
- 防衛, 治安維持(20)
- 保健分野(17)
- 住民サービス(5.2)
- その他経済課題(5.0)
- 国民保養, 余暇, 文化活動(4)
- 環境保護(1)

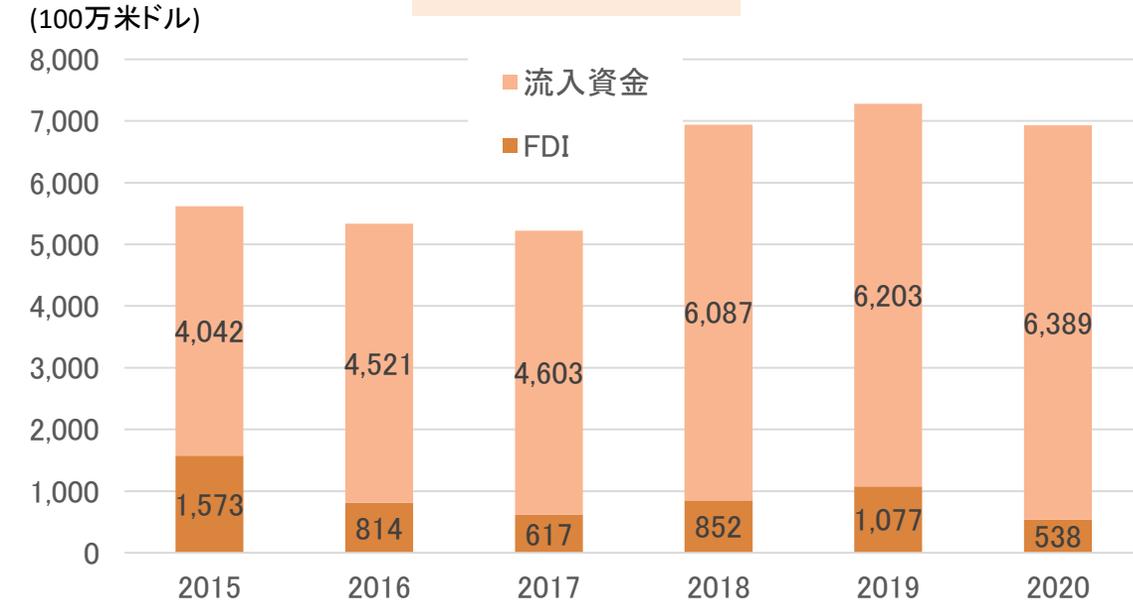
なお, 2020年の債務返還額は約307億ソム。

うち元本返済が221億7,462万ソム  
(対外債務:116億3,615万ソム,  
国内債務:105億3,847万ソム),

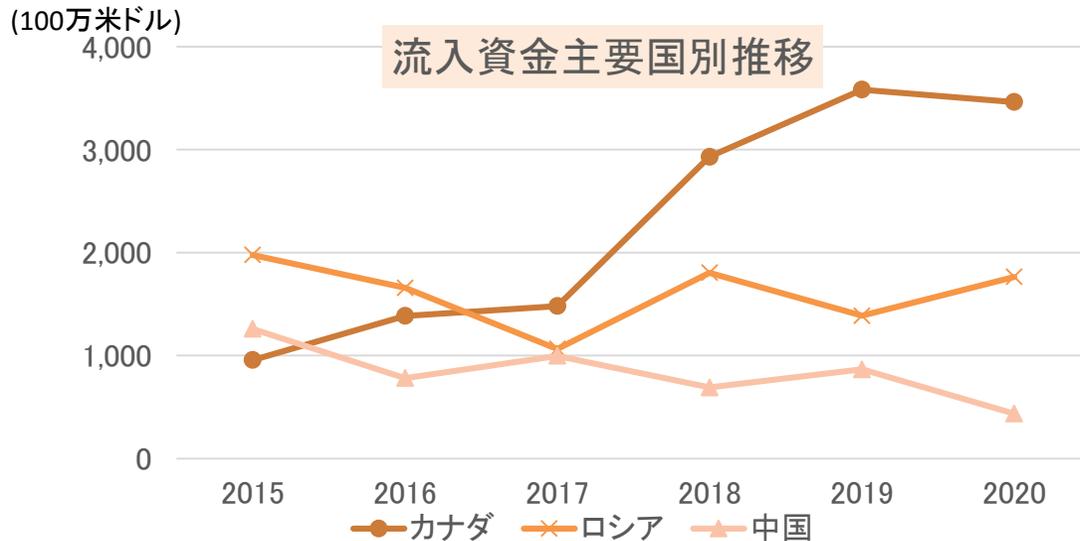
利子支払いが85億1,415万ソム  
(対外債務:44億5,676万ソム  
国内債務:40億5,739万ソム)

## 2-3 財政構造：海外資金への依存（流入資金額・推移・国別）

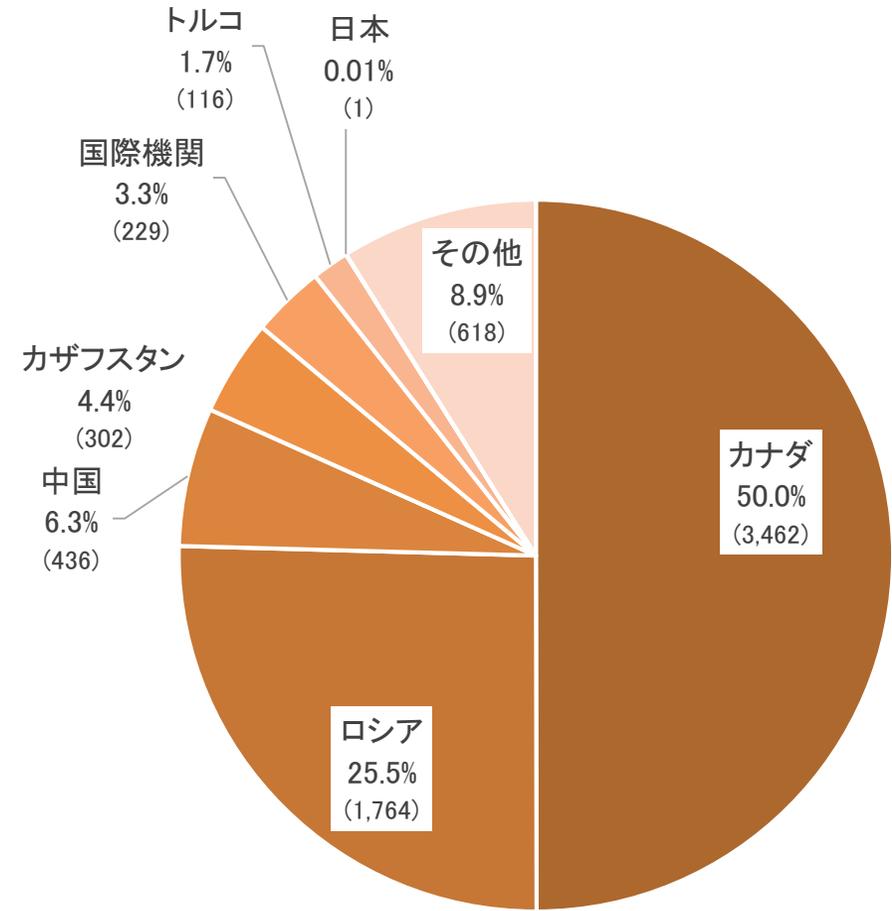
### 流入資金総額



### 流入資金主要国別推移

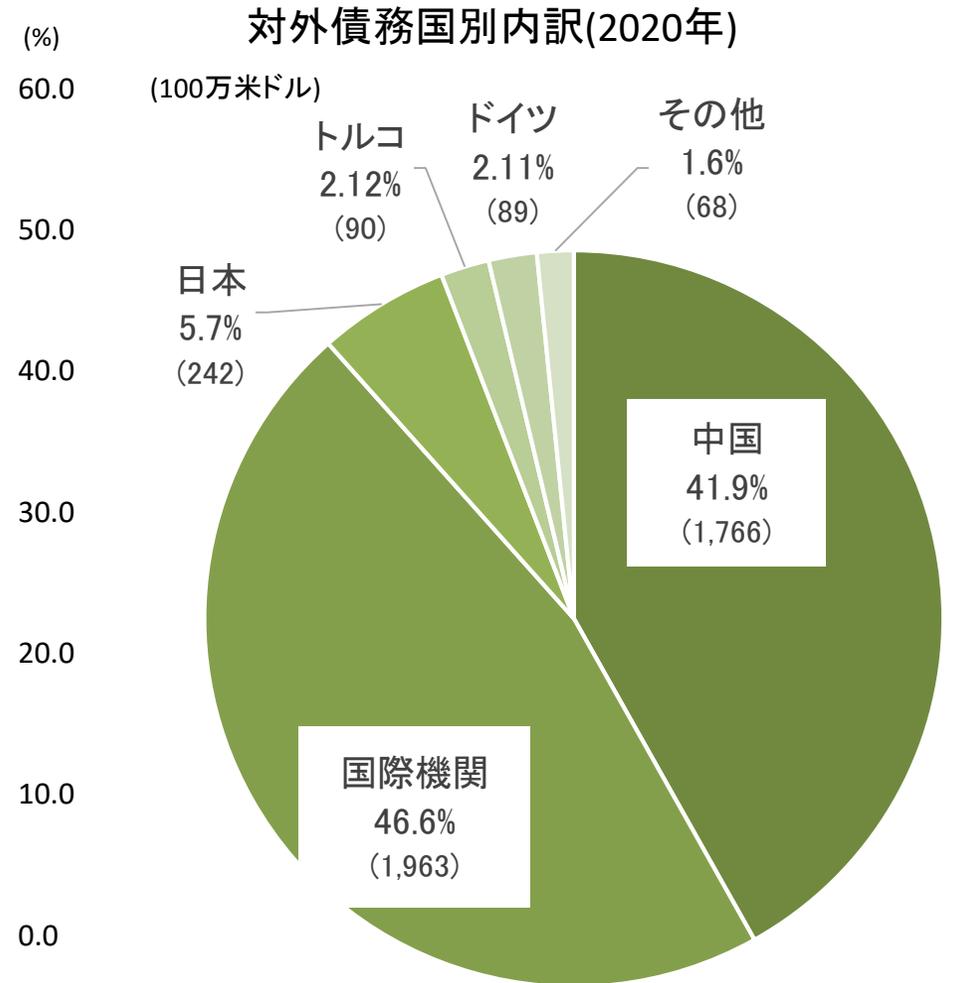
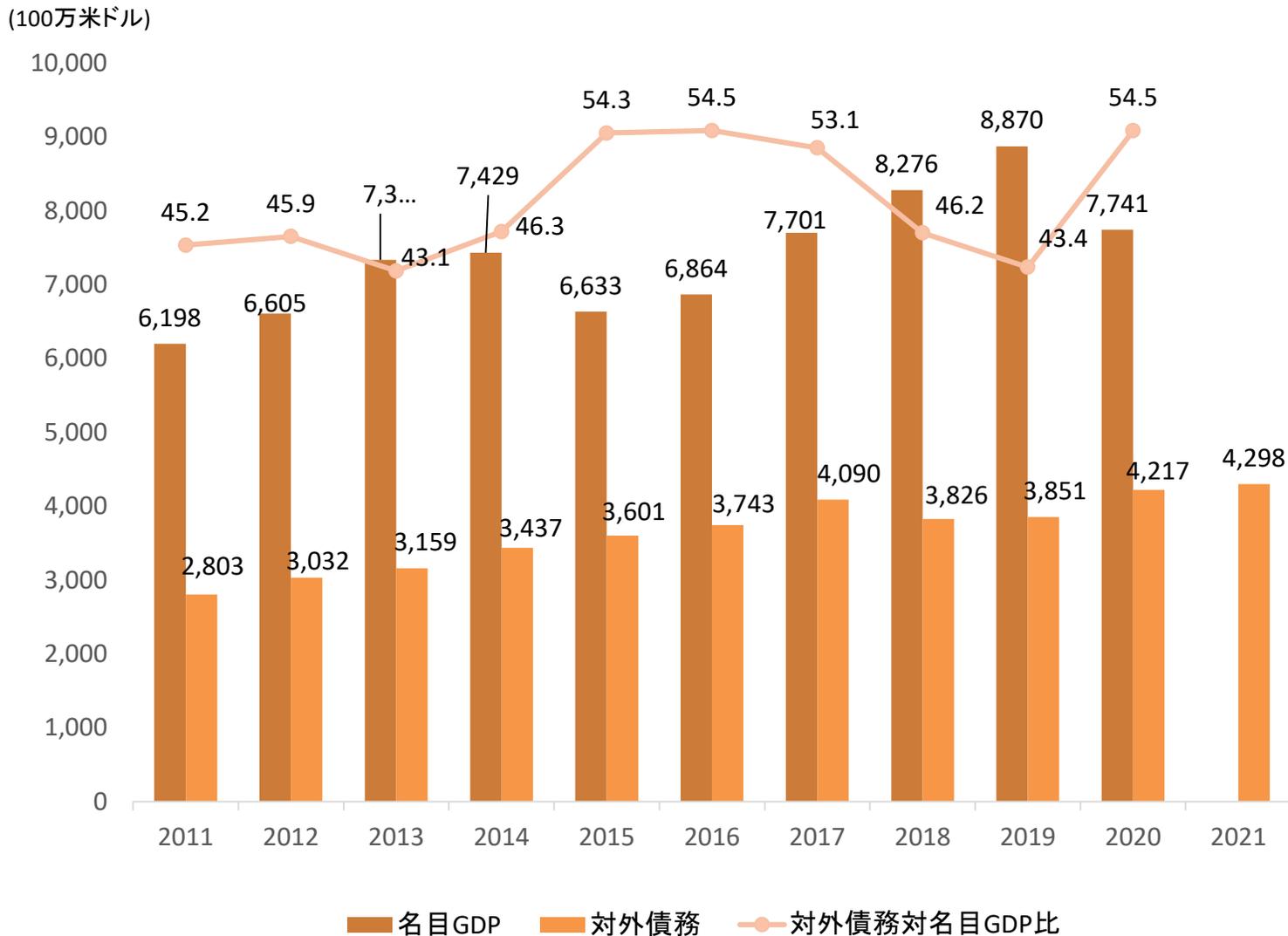


### 国別流入資金 (2020年 単位:100万米ドル)



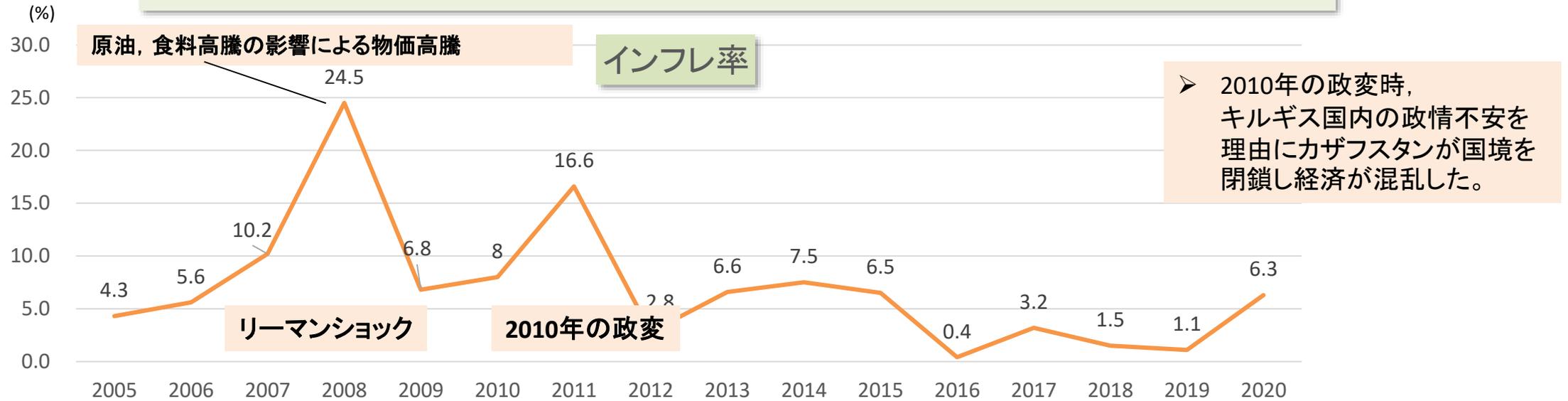
[注]カナダからの流入資金の多くはクムトール金鉱山関係

## 2-3 財政構造：海外資金への依存（対外債務の対GDP比）



なお、キルギスとロシアは2017年にキルギスの対ロシア債務取り消しに関する協定に署名。総額は4億8,890万米ドル。現在に至るまで対ロシア債務は発生していない。

## 2-4 物価, 為替, 金融政策: 物価推移と品目 / 分野別指数



消費者物価指数(対前年比)	2018年	2019年	2020年
食品・飲料(アルコール飲料除く)	97.8	101.3	111.7
衣服・靴	103.0	101.1	101.7
住居・公共料金	102.2	100.5	103.5
耐久財・家庭用品	100.1	100.2	101.8
ヘルスケア	103.7	102.5	104.5
輸送	105.1	98.7	97.9
通信	115.3	100.5	100.0
娯楽・文化	101.9	100.2	101.2
教育	103.6	101.9	101.7

## 2-4 物価, 為替, 金融政策: 通貨政策

(1米ドルあたりソム)

### キルギスソムの対米ドルレート

[注]キルギス・ソムは「管理フロート制」を採っているが、実質的には「米ドル・ペッグ制」



[注]2009年までは1週間毎, 2010年以降は日毎の統計

### 政策金利



## 2-5 主要産業の概要：概観

### 数字でみるキルギスの産業概観

- 主要産業別のGDP比は農林水産業が12.1%、製造業が14.3%、卸売・小売が18.3%(2019年)。
- 農林水産業は2001年にはGDPの34.8%(生産面)であったが継続的に減少している一方で、工業及びサービス業のGDP比率が増えている。

### キルギスの産業振興における課題

- 旧ソ連崩壊後キルギスの産業は、①ソ連時代の共和国分業制に基づくサプライチェーンの崩壊。②ロシア人技術者の大量出国、③かつてのソ連中央政府からの投資の喪失、等の要因により大きく衰退した。
- 独立後のキルギス経済は、中国から輸入した食料品や化学繊維製品のロシアやカザフスタンへの再輸出や、ロシアへの出稼ぎ労働など、中継貿易や仕送り(Remittance)を行うことで収入を得てきた一方、自国内の産業振興については、ロシア人専門家の大量出国やモスクワからの投資の喪失によって旧ソ連崩壊後に工業生産が大幅に落ち込んだ後、政策として十分に組み込まれてこなかった。
- 鉱業による金の採掘及び農畜産業以外の有力な産業が存在していないのが現状であり、国内の雇用機会が不足している。
- 金鉱山と出稼ぎ送金に頼る経済体制は、資源の国際市況や出稼ぎ先の景気状況に左右されるという脆弱性を抱えており、自国内に基幹産業を育成することは喫緊の課題である。

### キルギス政府の対策

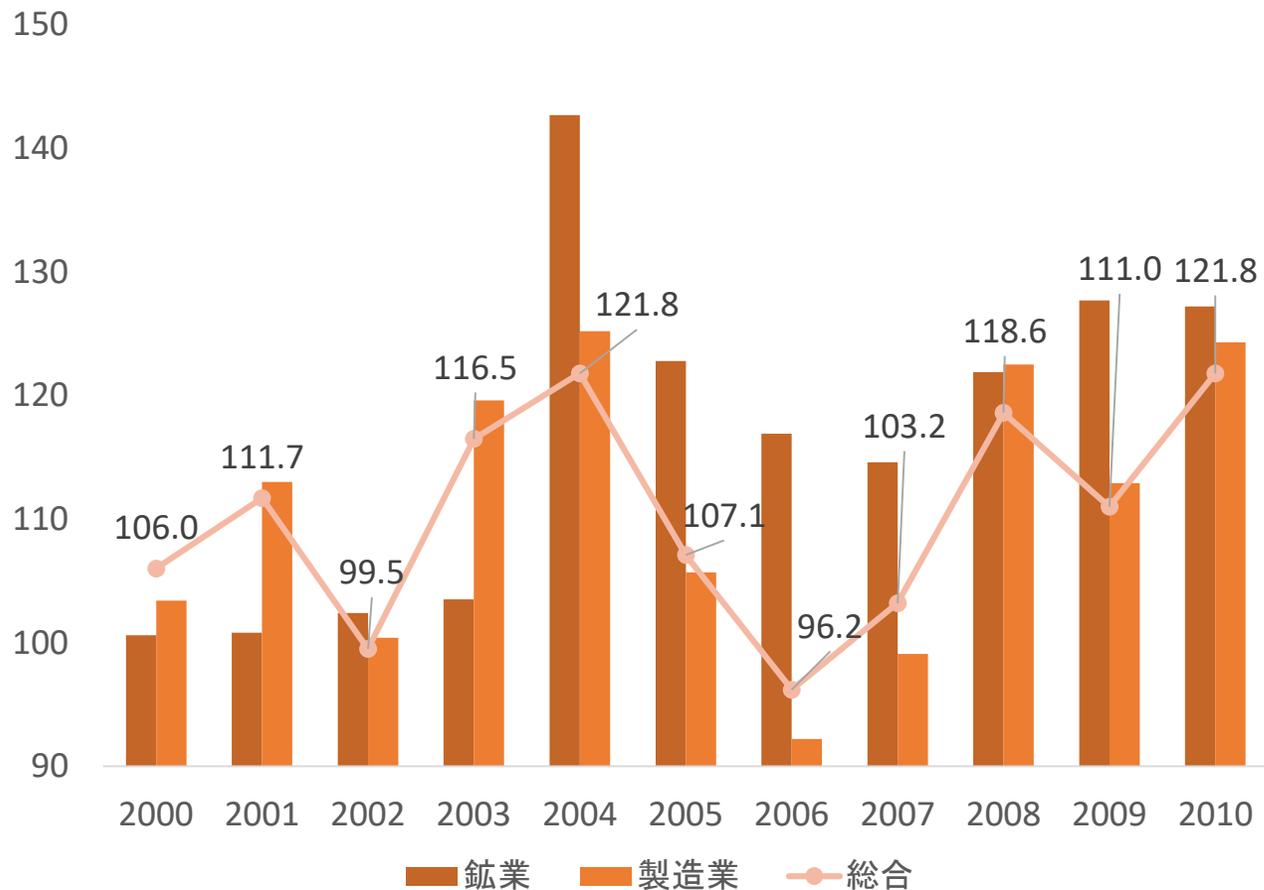
- 2018年11月に策定された「2018~2040年間国家発展戦略」では、EAEUの枠内で産業を振興させていくためには、インフラ整備、行政システムの効率化及び法の支配の確立等が必要であるとして、行政改革や国家のデジタル化の推進を指摘。優先産業として畜産を含む農業・農加工業、軽工業、観光業の持続的発展を挙げている。
- また、中小企業(輸出志向企業)の育成に取り組んでおり、増加する労働人口を国内で吸収することを目指しているものの、十分な成果は上げられていない。

## 2-5 主要産業の概要：鉱工業生産指数の推移①



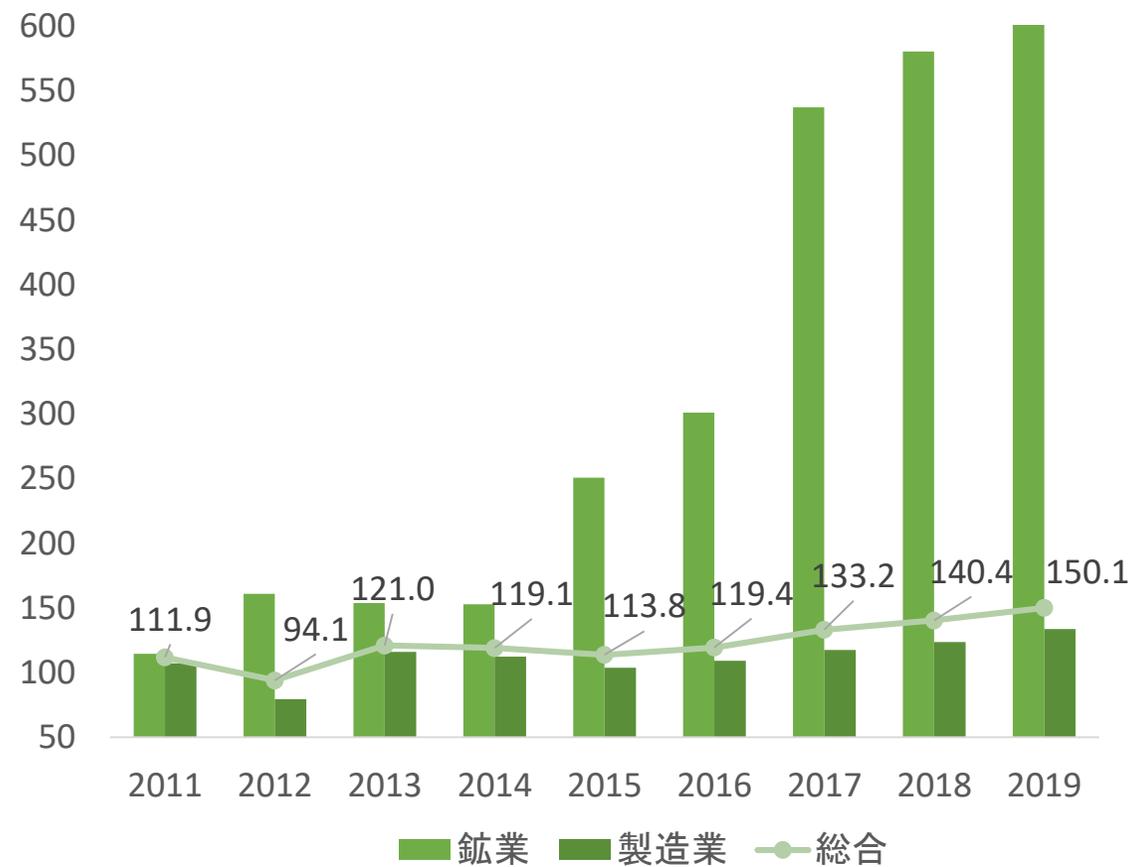
## 2-5 主要産業の概要：鋳工業生産指数の推移②

2000年-2010年



[注]1999=100とし、国家統計委員会のデータを元に算出

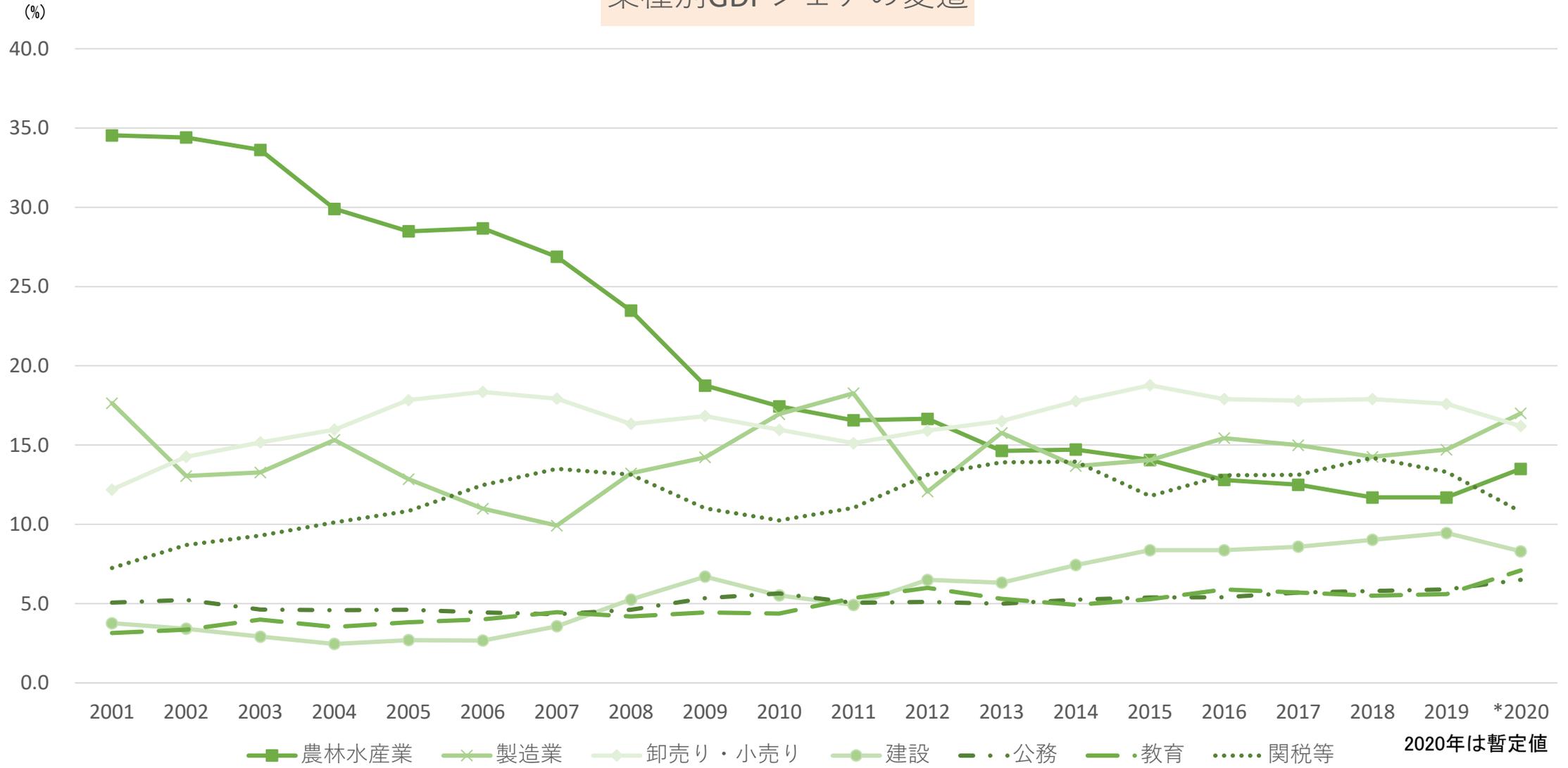
2011年-2019年



[注]2010=100とし、国家統計委員会のデータを元に算出

# 2-5 主要産業の概要: 主要産業の推移

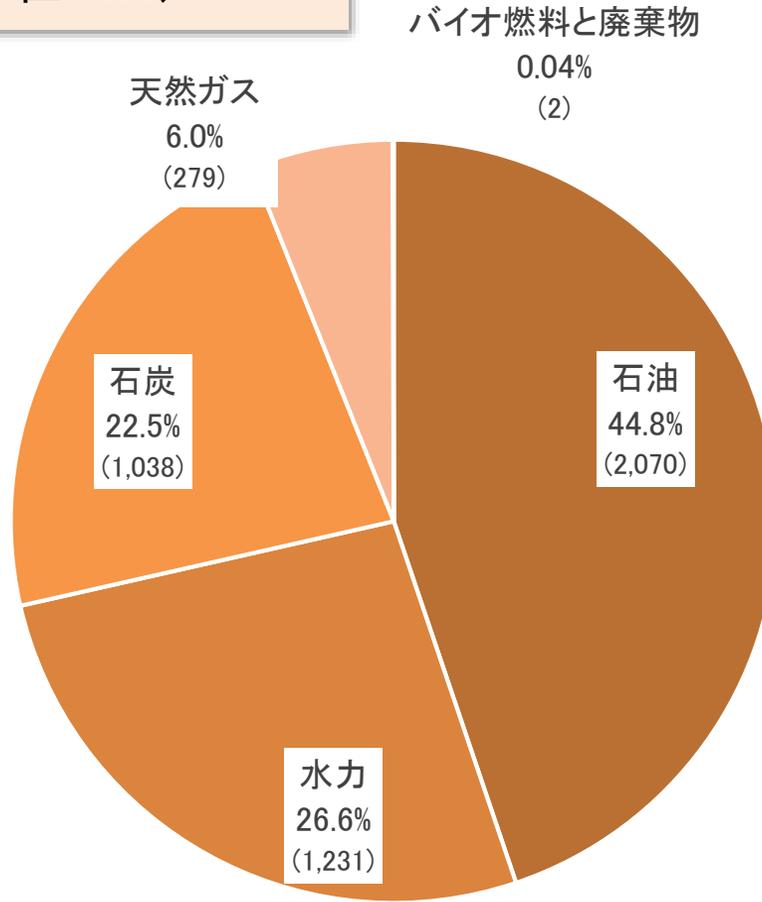
## 業種別GDPシェアの変遷



## 2-5 主要産業の概観:エネルギー供給内訳

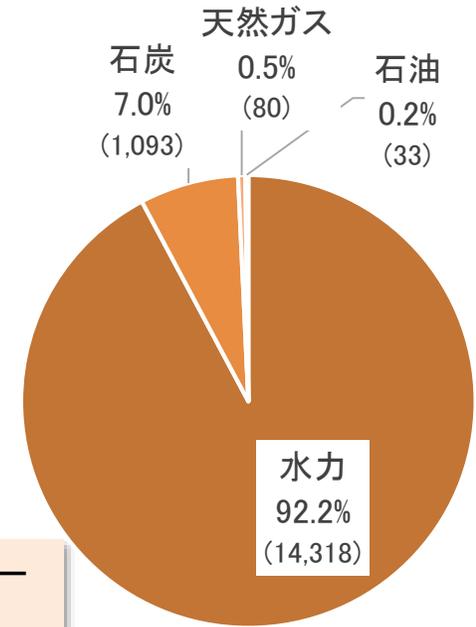
キルギスのエネルギー供給内訳  
(2018年, 単位:ktoe)

統計: IEA



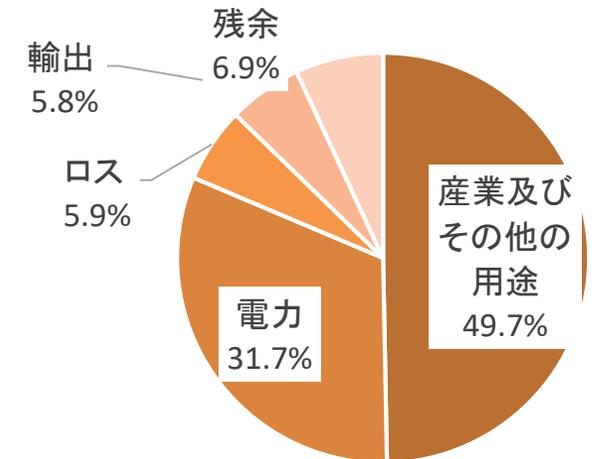
キルギス発電量内訳  
(2018年, 単位 GWh)

統計: IEA



キルギスの燃料エネルギー資源用途(2018年)

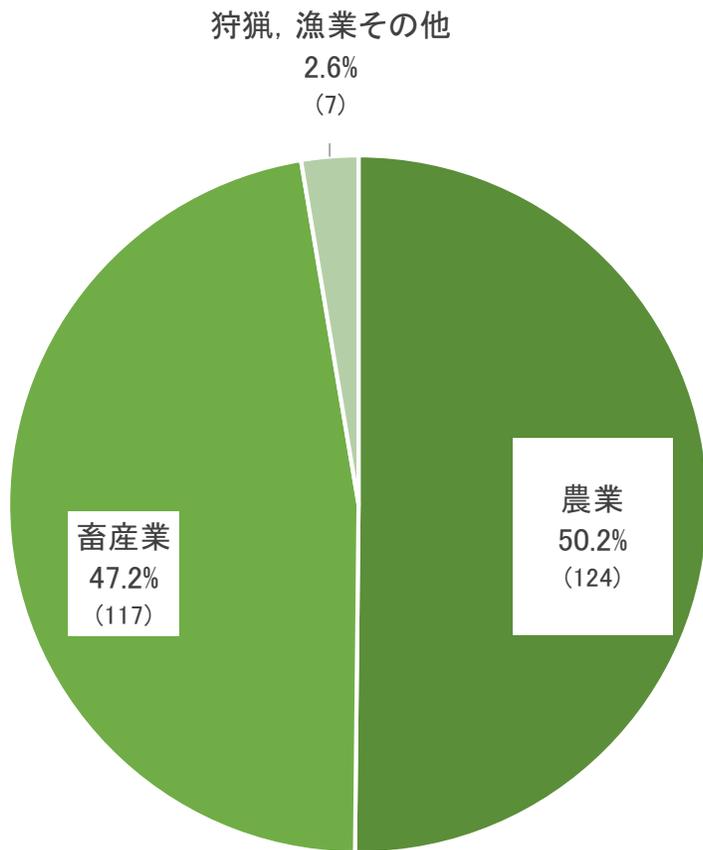
統計: 国家統計委員会



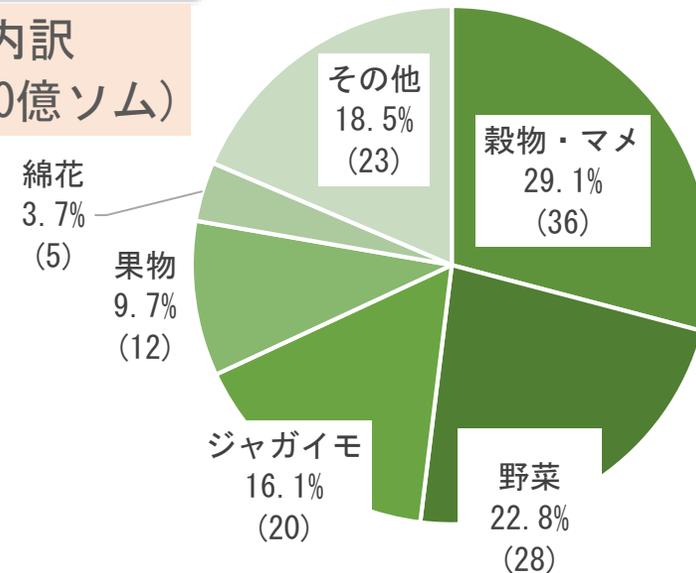
出典: IEA公式サイト, キルギスエネルギーホールディングスHP, 国家統計委員会(2021年)

## 2-5 主要産業の概要：農林水産業

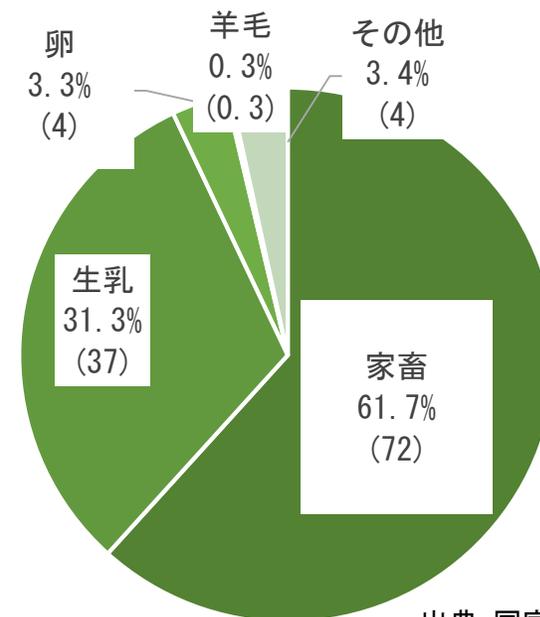
農林水産業  
(2020年 単位:10億ソム)  
総生産額 2,473億ソム



農業内訳  
(単位:10億ソム)



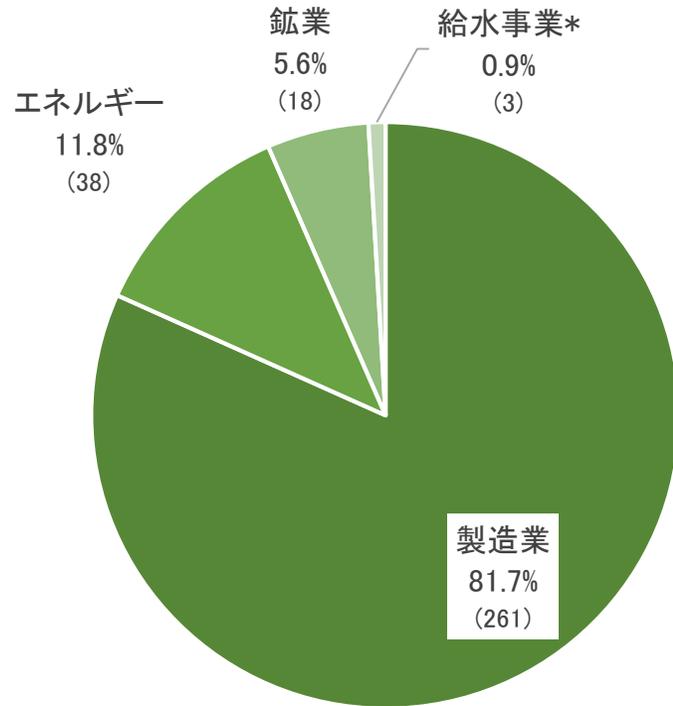
畜産業内訳  
(単位:10億ソム)



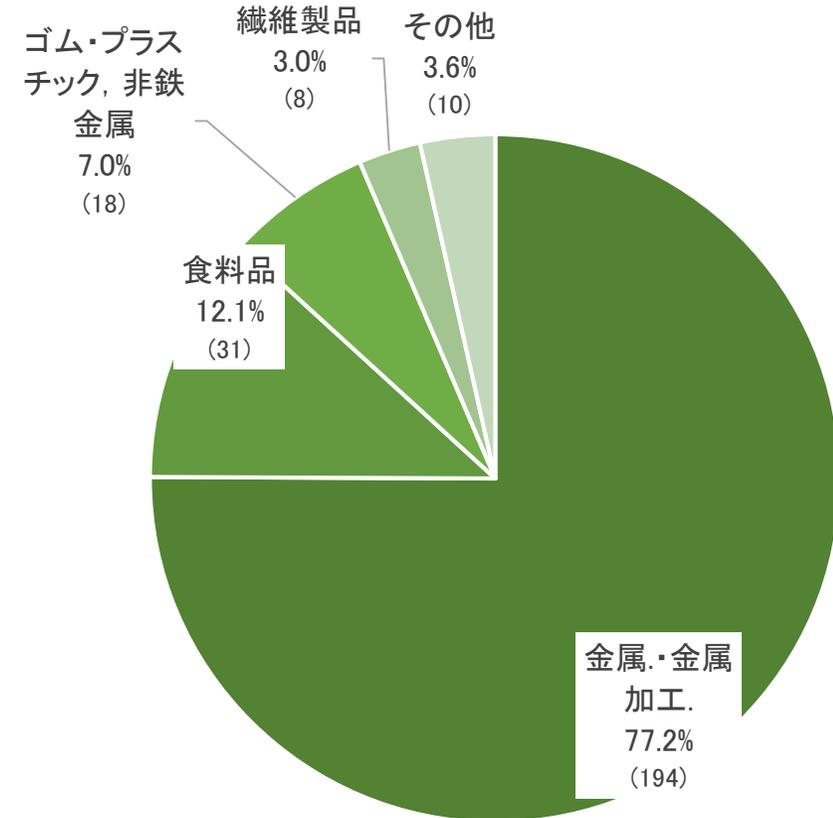
[注]2020年は暫定値

## 2-5 主要産業の概要：産業の分野別内訳

産業の分野別内訳  
(2020年 単位:10億ソム)  
生産高:3,194億ソム



製造業分野内訳  
(単位:10億ソム)



注:給水事業は配水, 水質管理などの業種を指す。

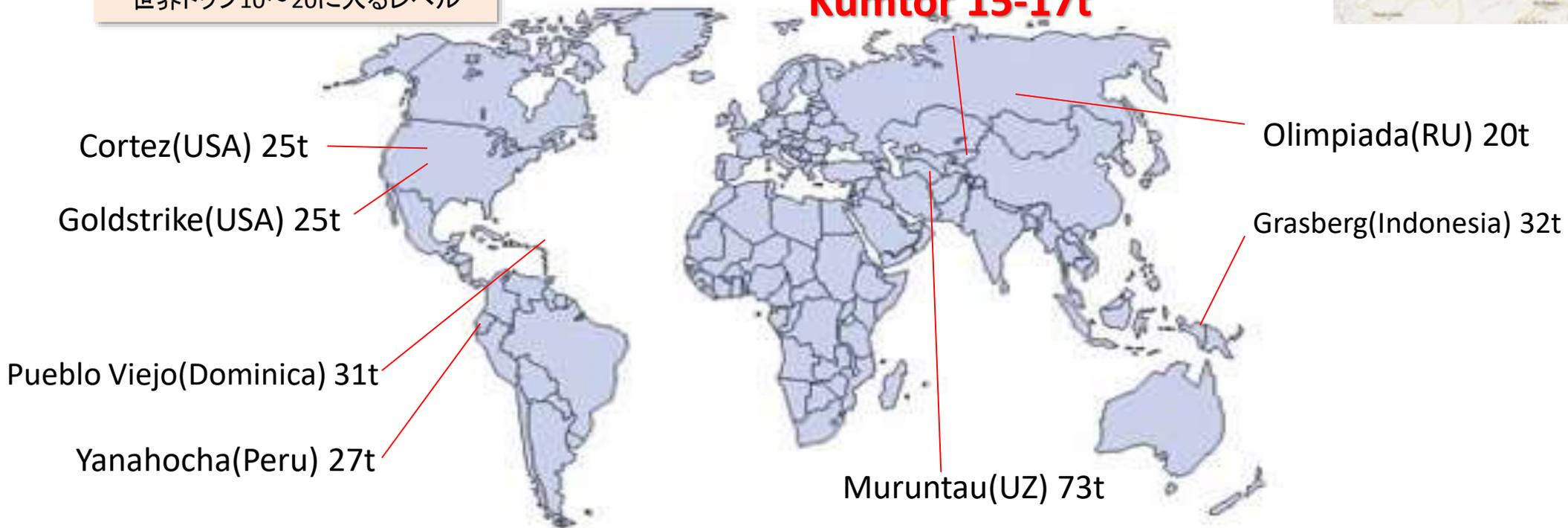
## 2-5 主要産業の概要:クムトール金鉱山

- キルギスの金生産の97%を占める
- GDPに占める割合：5%
- 税収に占める割合：6.1%（以上，2019年）
- **輸出額に占める金輸出の割合：53.1%（2020年1-4月期）  
17億5,390万米ドル**
- 1992年にキルギス政府とカナダ企業CAMECO社が「Kumtor Gold Company」（KGC）社を設立。KGC社が採掘権を有し、採掘、精錬、地質調査を行う。その後KGC社の株式はすべてCenterra Gold社に移り、同社は2004年にトロント株式市場に上場。キルギス政府の持ち株は32%。



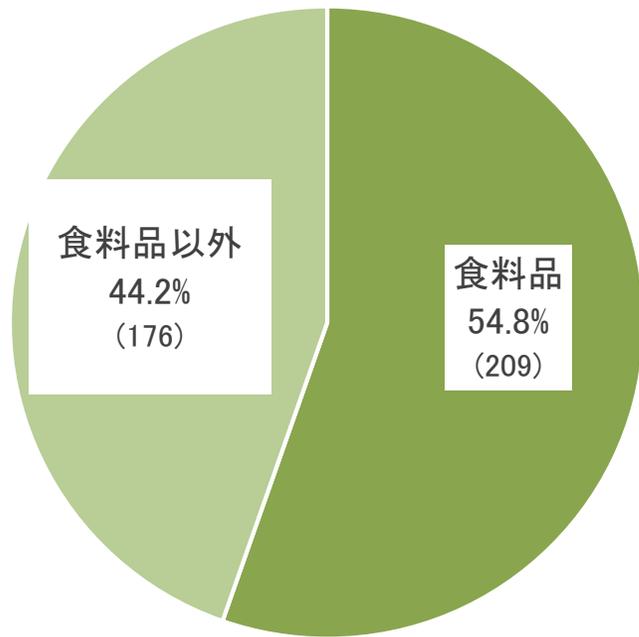
世界トップ10~20に入るレベル

**Kumtor 15-17t**



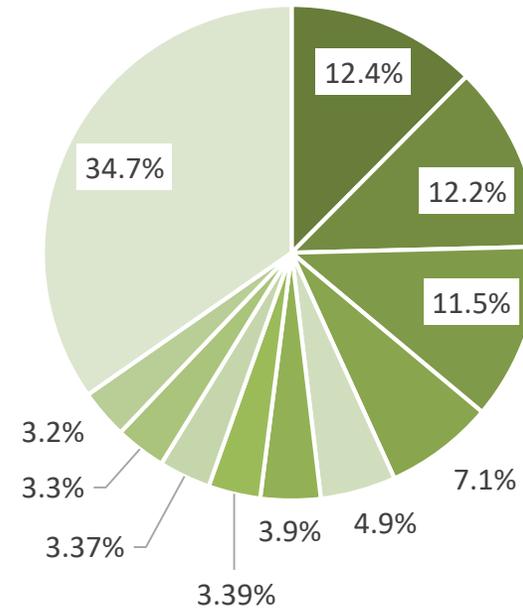
## 2-5 主要産業の概要:小売業の品目別販売額

小売業内訳  
(2019年 単位:10億ソム)  
総生産額4,076億ソム

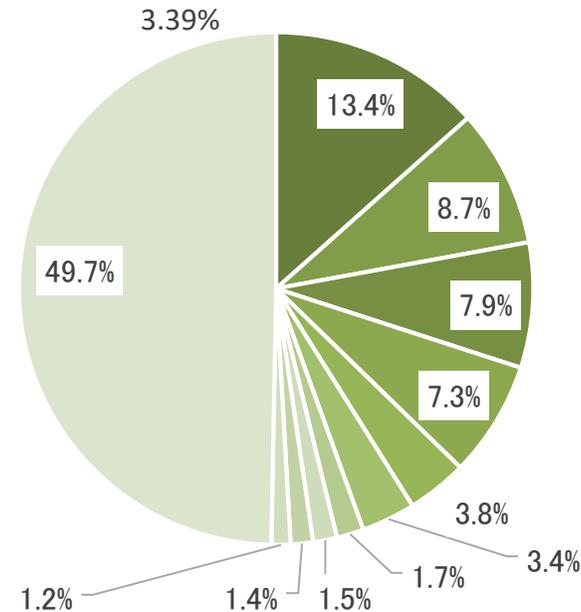


小売業態は商業施設58%,市場42%(2019年暫定値)

食料品内訳  
(単位:10億ソム)



食料品以外内訳  
(単位:10億ソム)



- 肉, 肉製品(28)
  - 小麦粉(27)
  - パン類(26)
  - アルコール飲料(16)
  - 野菜, 果実(11)
  - 牛乳, 乳製品(9)
  - ノンアルコール飲料(7.6)
  - 砂糖(7.5)
  - 菓子類(7.4)
  - マカロニ等パスタ類(7.1)
  - その他(78)
- 
- 建設資材(25)
  - 自動車(16)
  - 衣服(15)
  - 靴(13)
  - ニットウェア(7)
  - たばこ製品(6)
  - 家具(3.1)
  - 陶器類(2.6)
  - 靴下(2.5)
  - 織物(2.2)
  - その他(92)

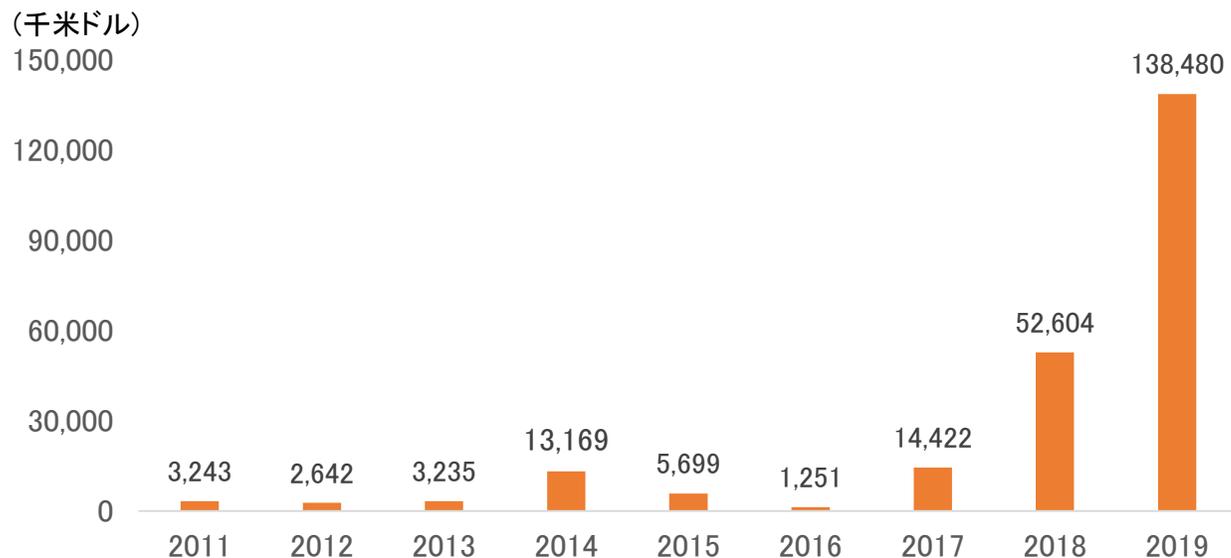
出典:国家統計委員会(2020年)

## 2-5 主要産業の概要:IT産業

### キルギスのIT産業インフラ

- 国内にプログラマー5,000人, IT関連企業250~300社
- 規制の少ないネット環境
- 安価な電力(業務用電力:2.2ソム(≒2.9セント)／キロワット毎時)  
※参考:英国12.5セント, 仏10.8セント, 独14.1セント

### 拡大する外国からの投資



### キルギス政府のデジタル化政策

- キルギス政府のデジタル化政策は2017年、当時のアタムバエフ大統領が「タザ・コーム(清廉な社会)」政策を掲げたのが始まり。
- 公的機関の業務効率化、外国投資促進、汚職撲滅などを目的とした、社会全体のデジタル化・オンライン化政策。
- ジェエンベコフ政権が掲げた電子化政策においてもこの方針は維持されているが、行政手続きの透明化を通じた汚職対策のカラーが強くなっている。
- 当初から財政的根拠の欠如、ドナー頼みの体質が見られるが、国際機関は肯定的な評価。
- 電子政府化の一環として省庁間のデータ共有システム「Tunduk」が2018年より始動。同システムはエストニアの「X-road」を参考としているとの由。

## 2-5 主要産業の概要：IT産業の拠点「ハイテクパーク」

### 組織

- 2011年にオンライン上にて設立。IT産業を中心とした知識集約型産業育成を目指す。
- 政府系機関であり、管理委員会 (Supervisory Board, SB) が運営する。
- SBはITビジネス協会、情報通信国家委員会、経済省で編成される。

### メンバー企業の受注案件の例

- メンバー企業は2019年末時点で81社、761人。(うち日系企業2社)
- 参加に当たってはSBの審査を受ける。
- メンバー企業の要件は、ソフトウェア開発等のIT分野(売上げの90%以上)で、海外売上げが80%以上。
- メンバー企業は、収入の1%を四半期毎に支払う一方、VAT(12%)、企業利潤税(10%)、売上税(1.5%~5%)が免除されるほか、従業員所得税は10%→5%、社会保険料は25~27%→12%に軽減される。

### 収益

- 事業収益は、ソフトウェア開発が67.1%、コンピュータアニメーションが7.7%、ソフトのテクニカルサポートが6.2%、など。(2021年2月11日時点)
- 2019年のテナント企業81社の総収入は約1,380万ドル。

### メンバー企業及び特典

- 共和国議会案件：質疑のモニタリングシステム、投票システム等。
- “Namba food”案件：スマートホンアプリの開発等。同社は食事のみならず医薬品なども扱うケータリングサービス。
- キルギス・日本人材開発センター案件：eラーニングシステム。



## 2-5 主要産業の概要：中小企業

2019年 [暫定値]	事業者数	雇用者数 (千人)	全雇用者数 に占める割合 (%)	総付加価値 (100万ソム)	GDPに 占める割合 (%)
小企業	16,199	73.4	3.0	43,266	7.3
中規模企業	779	34.4	1.4	24,956	4.2
個人事業	411,405	411.4	16.8	154,545	26.2
農家 (農業関連企業 を含む)	452,308	N/A	N/A	41,696	7.1

※当地における小企業、中規模企業の区分は以下の通り。

小企業：従業員50人以下(※1農林水産業、鉱業、工業、ガス水道電力、建設業)

または15人以下(※2貿易、小売り、ホテル及び飲食店、運輸、通信、金融、不動産、教育、保健、社会サービス、インフラ)

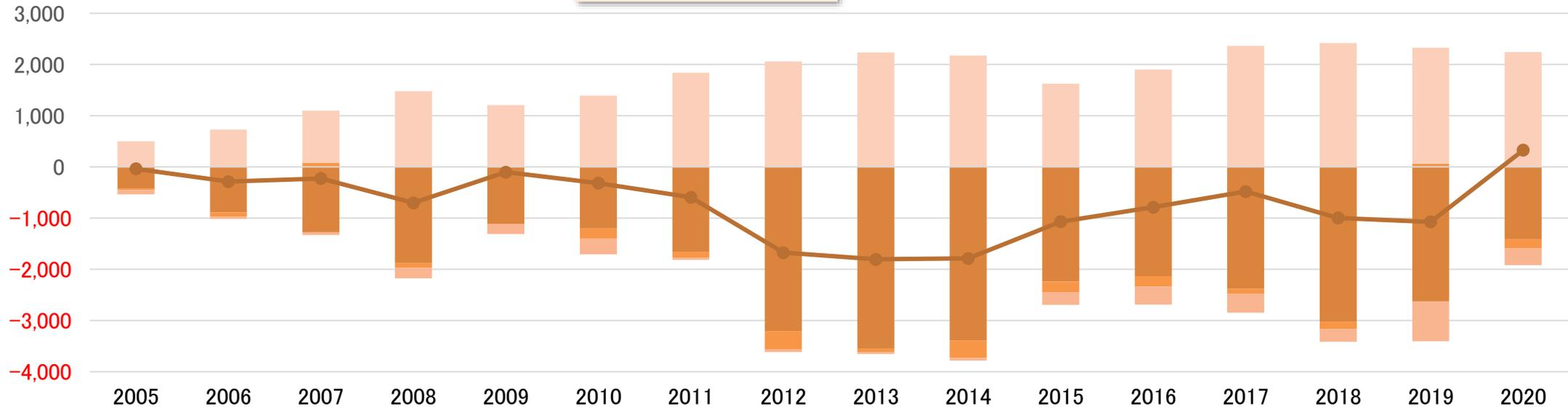
中規模企業：従業員51-200人(※1)

または16-50人(※2)

# 2-6 貿易: 対外経済関係(国際収支)

## 経常収支の推移

(100万米ドル)

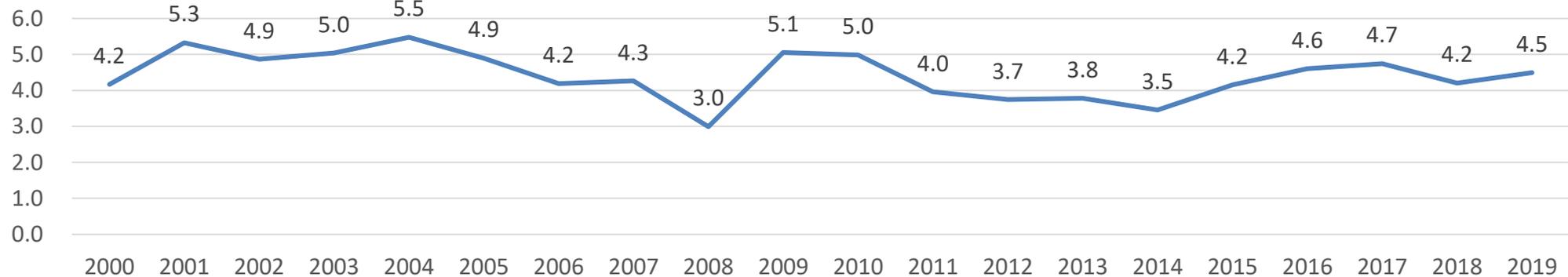


経常移転	500	730	1,021	1,477	1,208	1,391	1,839	2,062	2,238	2,176	1,628	1,903	2,365	2,421	2,270	2,246
所得収支	-88	-48	-52	-202	-190	-305	-43	-53	-34	-52	-251	-351	-372	-251	-779	-330
サービス収支	-31	-81	80	-97	-7	-201	-104	-357	-67	-335	-205	-204	-92	-133	62	-176
貿易収支	-419	-887	-1,276	-1,879	-1,113	-1,202	-1,669	-3,211	-3,555	-3,399	-2,241	-2,137	-2,383	-3,034	-2,626	-1,413
経常収支	-37	-286	-227	-701	-102	-317	-593	-1,675	-1,807	-1,788	-1,069	-788	-482	-997	-1,073	328

## 2-6 貿易: 輸出入総額・貿易赤字の推移

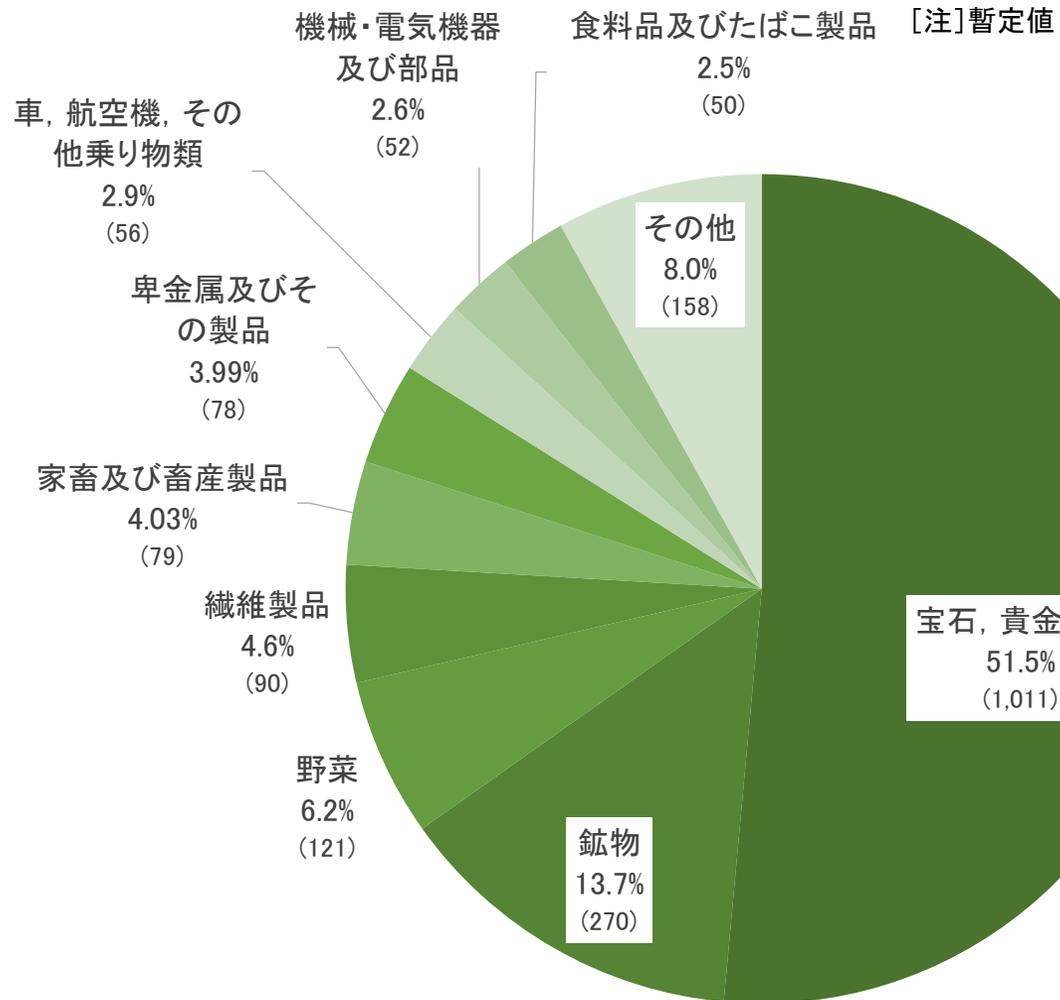


### 総準備高(外貨、金など)の輸入額月数(2000-2019)

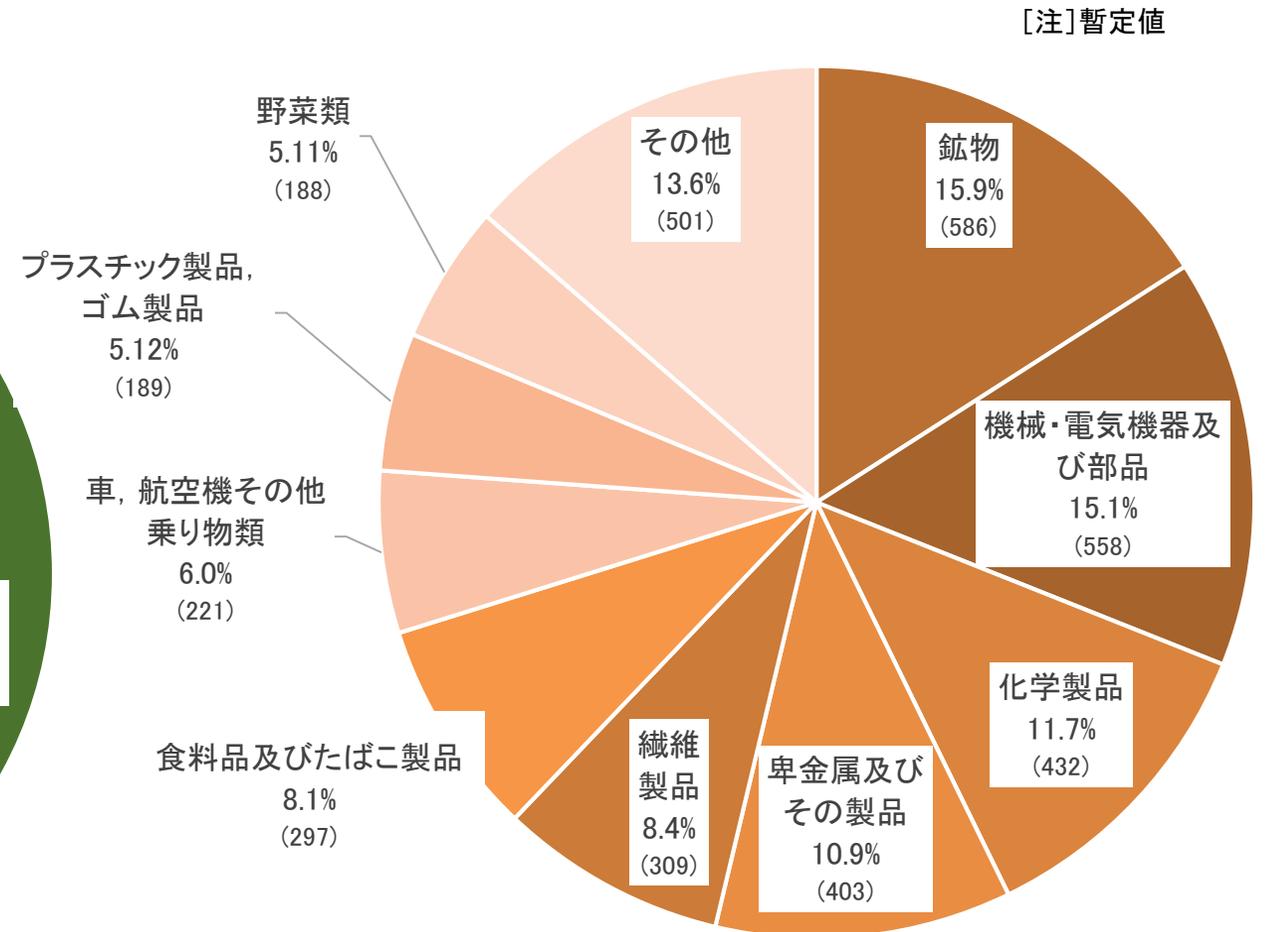


## 2-6 貿易：品目別輸出入額

品目別輸出額  
(2020年 単位:100万米ドル)  
総額:19億6,447万米ドル



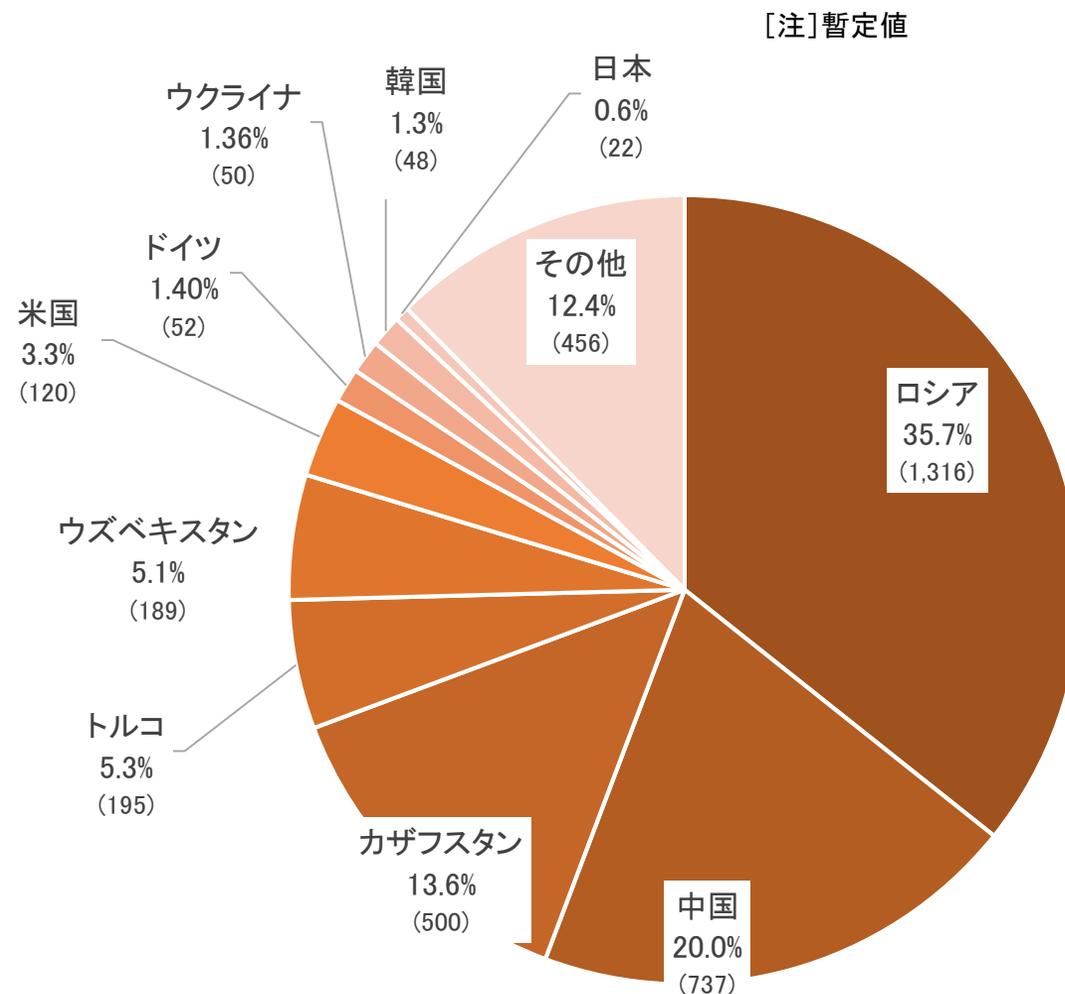
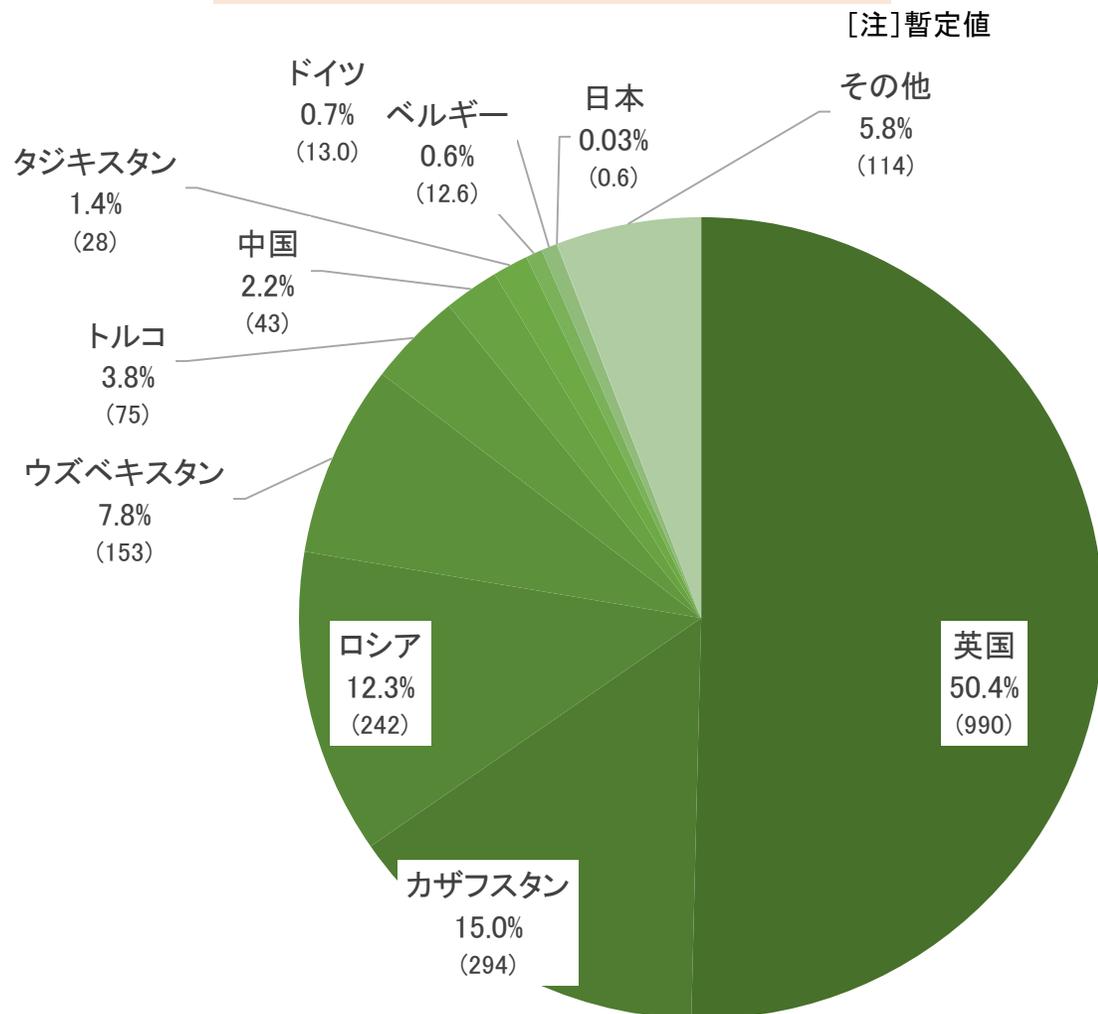
品目別輸入額  
(2020年 単位:100万米ドル)  
総額:36億8,411万米ドル



## 2-6 貿易：国別輸出入額

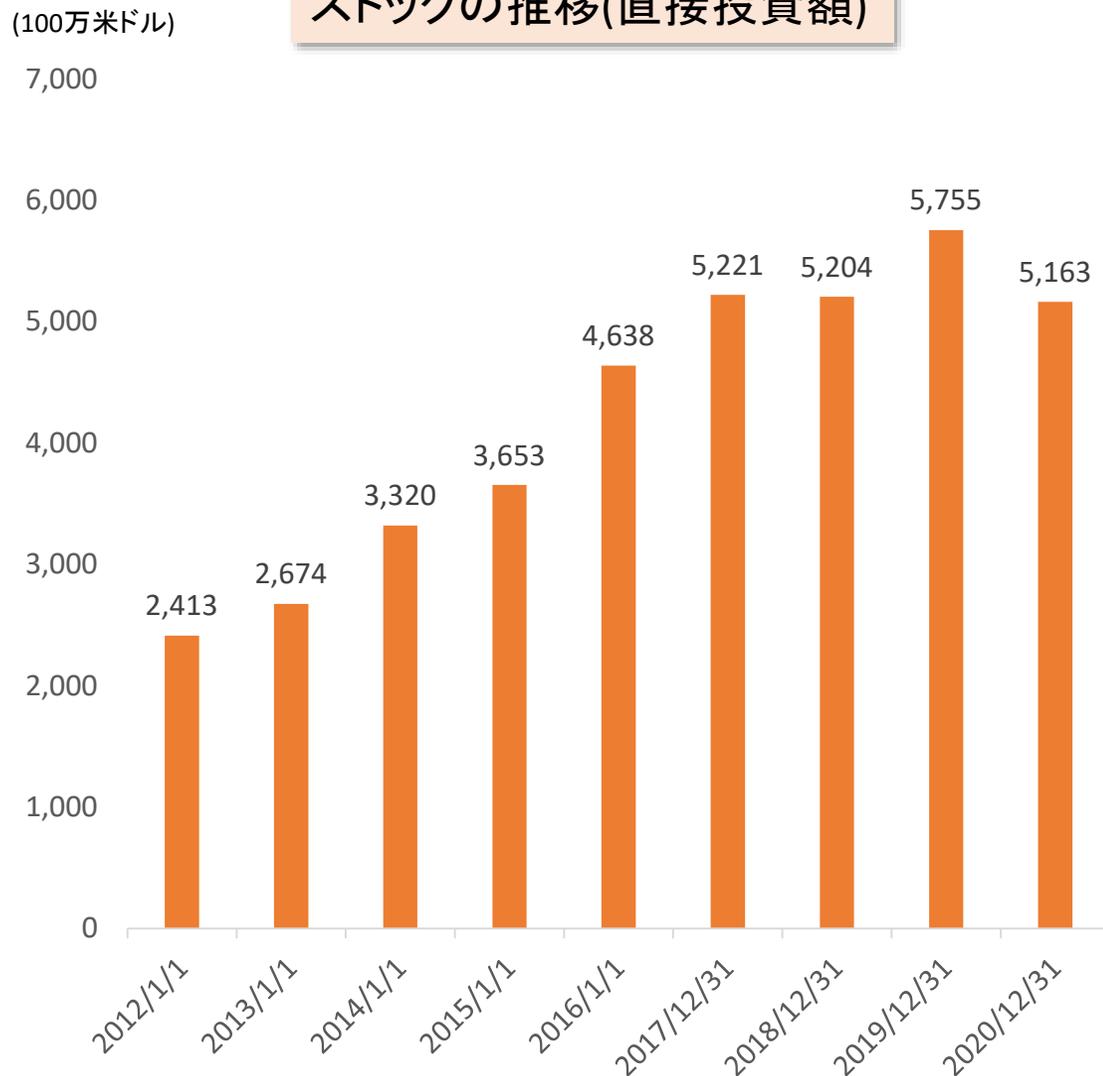
国別輸出額  
(2020年 単位:100万米ドル)  
総額:19億6,447万米ドル

国別輸入額  
(2020年 単位:100万米ドル)  
総額:36億8,411万米ドル



## 2-7 対内直接投資：対内直接投資総額の推移

### 株式の推移(直接投資額)



### ネットフロー

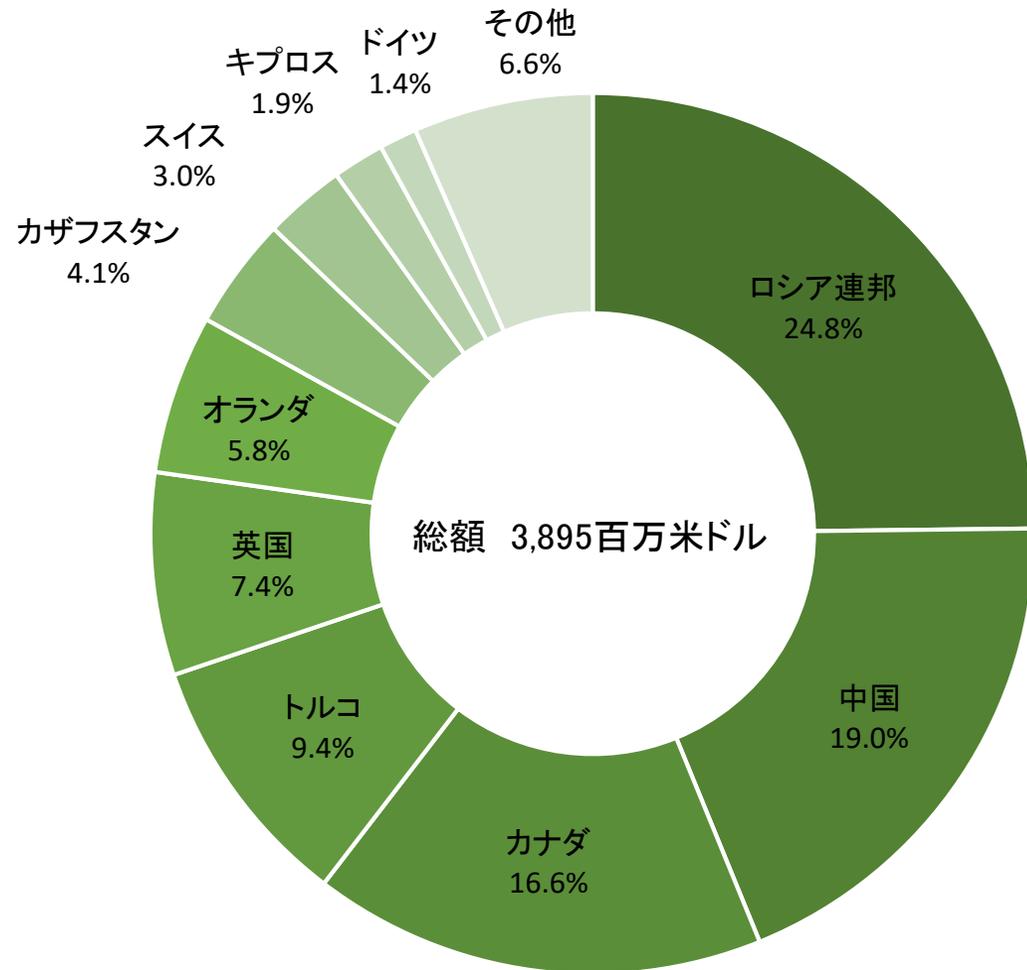


	(100万米ドル)												
株式	25	70	-7.9	72	11	18	42	704	305	113	35	-8.5	-28
長期貸付け	-0.2	-7.5	-1.3	3.1	-0.2	-2.3	-0.2	-0.2					
再投資収益	153	108	239	475	101	144	213	186	140	-130	51	498	-122
その他投資	199	19	208	143	181	466	-6.7	252	170	-90	58	-86	-252
債券	204	18	238	130	180	466	-59	236	176	-141	-0.8	-85	-173
貸付け	-4.8	1.7	-30	14	0.9	0.4	53	16	-5.9	39	60	10	-81
その他買掛金										12	-1.4	-11	2

[注] 国家統計委員会の対内直接投資流入額と流出額推移より作成。

## 2-7 対内直接投資：国別対内直接投資残高

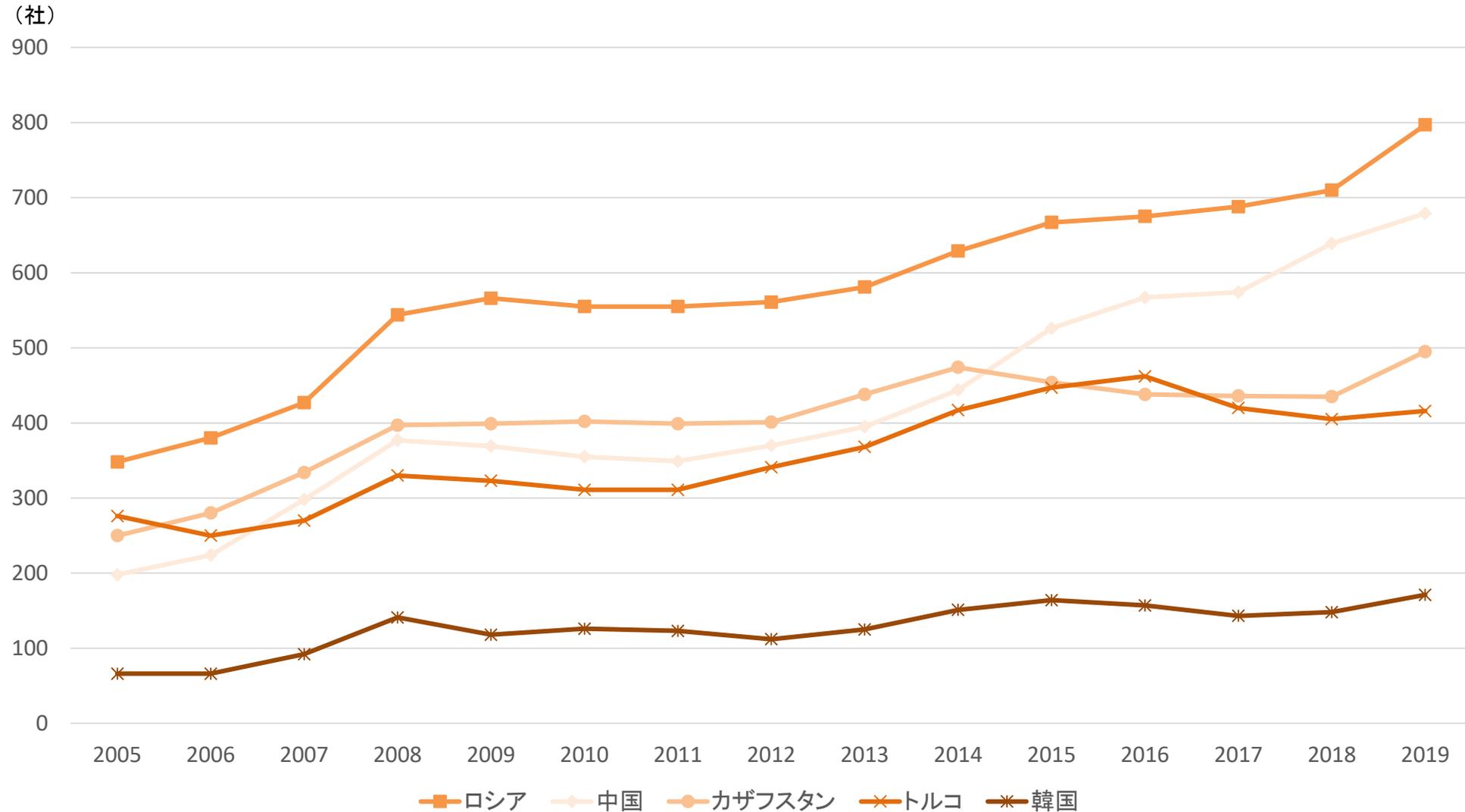
対内直接投資残高シェア  
(2021年12月31日時点)



国別対内直接投資残高  
(2021年12月31日時点、単位: 千米ドル)

ロシア連邦	966,497
中国	741,384
カナダ	645,077
トルコ	366,355
英国	289,543
オランダ	227,664
カザフスタン	159,280
スイス	115,987
キプロス	73,921
ドイツ	53,853
米国	51,552
イギリス領ヴァージン諸島	45,267
韓国	27,965
ルクセンブルグ	17,812
パキスタン	17,147
その他国際機関	15,137
日本	14,132
アラブ首長国連邦	13,570
チェコ	9,033
インド	6,573
その他	37,724
<b>対内直接投資残高</b>	<b>3,895,482</b>

## 2-7 対内直接投資：国別外資系企業の推移



## 2-7 対内直接投資:主要プロジェクトの概要

中国企業関連

露企業関連

その他



## 2-7 対内直接投資：投資環境（世銀「Doing Business Ranking」より）

### DBランキング

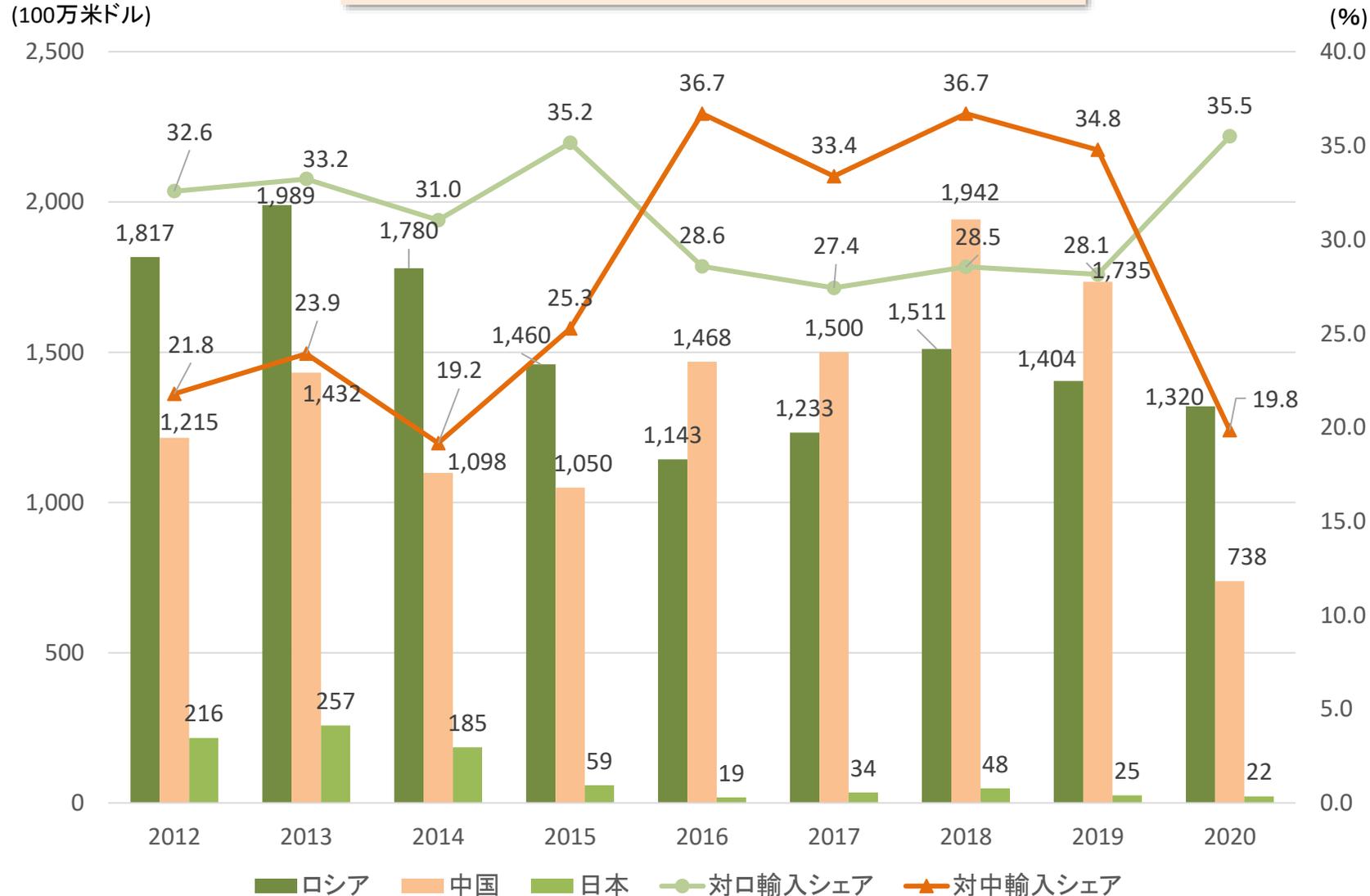
2020年 総合順位 (190カ国中)	国名 (昨年順位)	スコア	
78	チュニジア(80)	68.7	➤ 他の中央アジア・コーカサス諸国は、カザフスタン25位(2019年28位)、ウズベキスタン69位(76位)、タジキスタン106位(126位)、ジョージア7位(6位)、アゼルバイジャン34位(25位)、アルメニア47位(41位)。  ➤ ウズベキスタンが順位を上昇させる一方(2012年順位：166位→2020年：69位。2012年キルギスは70位)、中央アジア地域内でのキルギスの相対的優位性は低下。
79	ギリシャ(72)	68.4	
80	キルギス(70)	67.8	
81	モンゴル(74)	67.8	
82	アルバニア(63)	67.7	

### DBランキング項目別

国名	総合順位 (190カ国中)	法人 設立	建設 許可	電力	不動産 登記	信用 供与	投資家 保護	納税	輸出入	契約 履行	債務不履行 解決
キルギス	80	42	90	143	7	15	128	117	89	134	78
カザフ スタン	25	22	37	67	24	25	7	64	105	42	42
ウズベキ スタン	69	8	132	36	72	67	37	69	152	22	100

## 2-8 中国への経済依存: 貿易(輸入)依存度

### 中露両国からの輸入額・シェアの推移



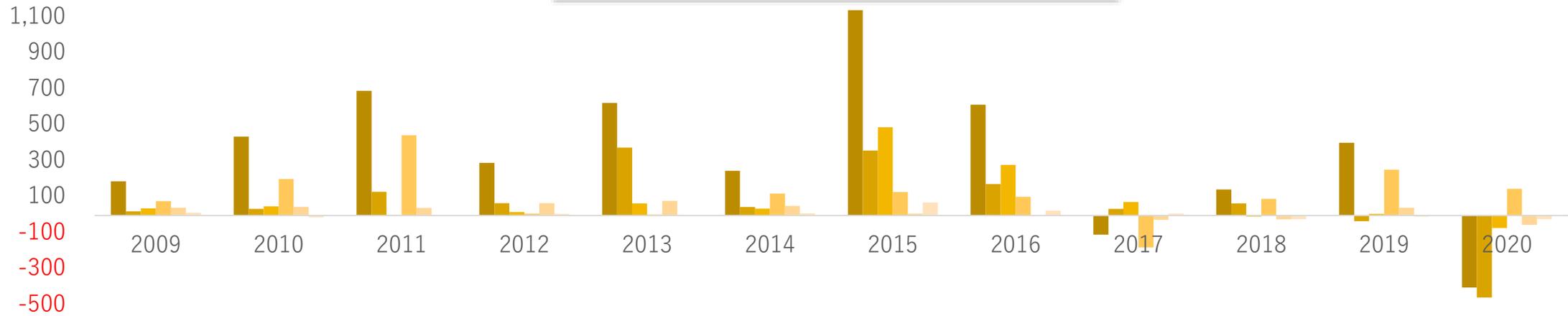
➤ 2015-16年にかけての油価の下落により、それまで1位であった対ロシア輸入が減少。例: 自動車用ガソリン輸入額(2015年, 2016年いずれも対露輸入額第一位) 2015年: 3億5,383万ドル → 2016年: 1億8,001万ドル

➤ 2016年に中露が逆転して、2位であった対中輸入が1位に。2020年再度ロシアが1位に。

## 2-8 中国への経済依存：拡大する投資シェア

(100万米ドル)

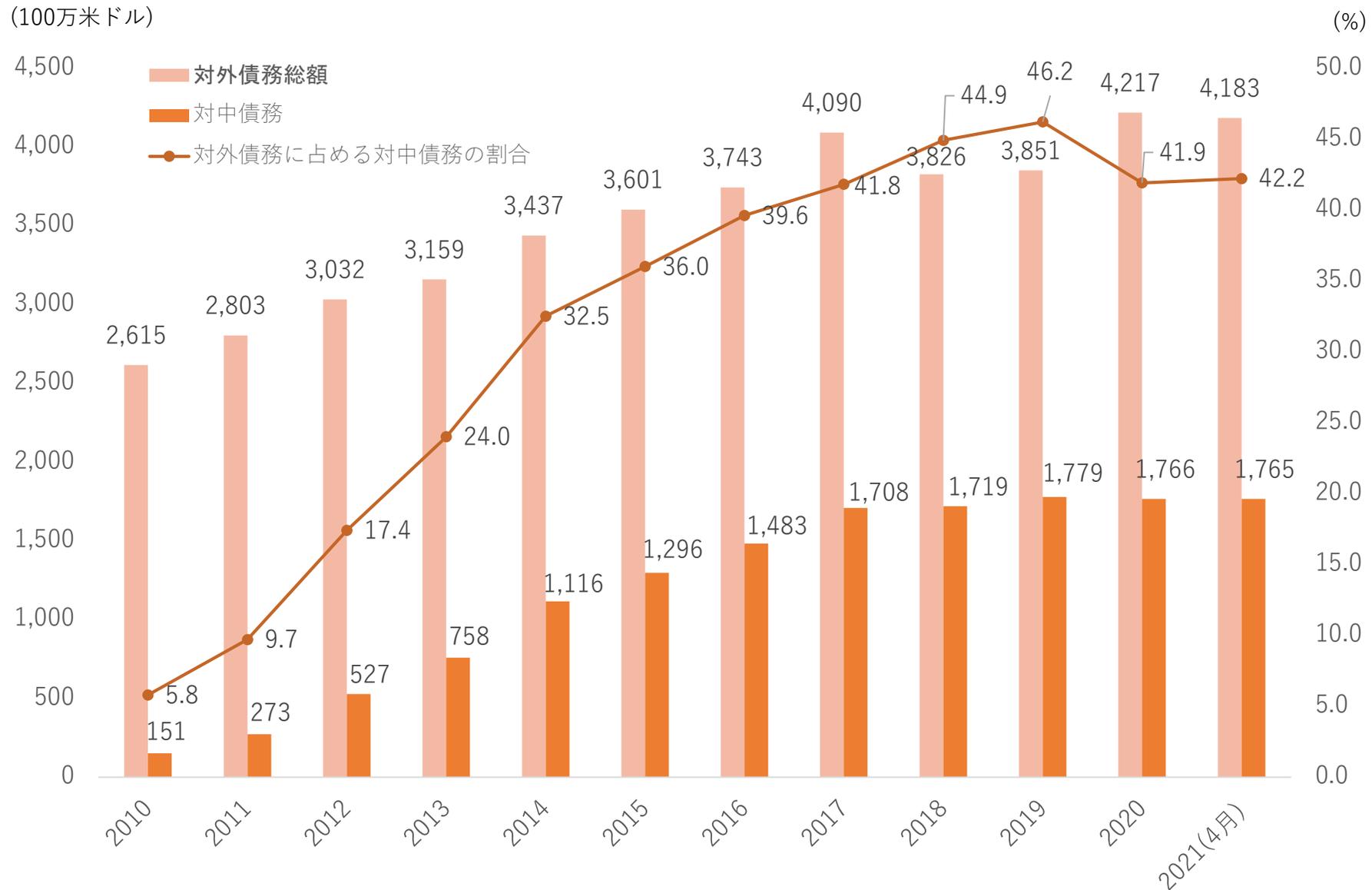
対内直接投資と主要国の投資額(ネットフロー)



■ 総額	189.4	437.6	693.5	292.7	626.1	248.0	1141.7	615.9	-107.2	144.2	403.9	-401.5
■ 中国	22.9	36.6	131.7	68.1	377.6	46.1	360.9	174.9	36.0	67.2	-32.2	-456.6
■ ロシア	39.2	50.4	3.9	18.2	66.8	37.7	489.7	281.1	74.4	-6.9	8.0	-70.3
■ カナダ	79.8	201.9	445.5	10.0	4.8	120.7	130.1	103.1	-178.5	92.2	254.1	148.5
■ イギリス	42.3	48.2	41.0	68.0	80.6	53.2	9.7	0.2	-24.6	-21.6	42.4	-52.8
■ トルコ	14.6	-10.7	0.5	8.7	-1.3	11.0	72.2	25.6	10.1	-20.2	-6.8	-21.3

※なお、カナダからの投資は金鉱山関連がほとんどを占める。

## 2-8 中国への経済依存: 債務



## 2-8 中国への経済依存：中国による主なインフラ投資案件

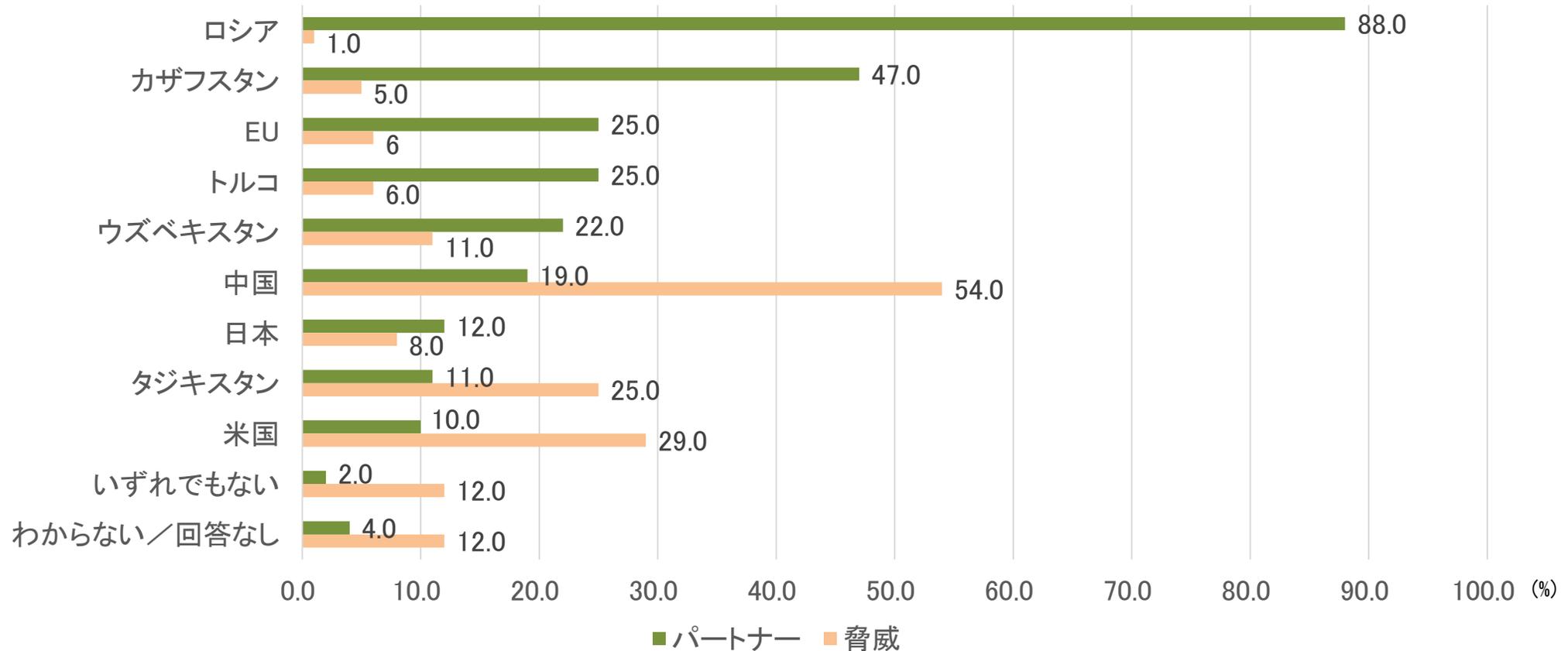
案件名	合意年	金額	返済期間 (猶予期間, 年)	金利(%)	備考
オシュ・サリタシュ・イルケシュタム道路改修事業 (190～240キロ区間)	2008	2,530万ドル	投資と引き替えに資源を受け取るというスキームで、中国企業「Full Gold Mining」はIshtamberdy金鉱山の開発許可を取得。		道路の他の区間は多国間金融機関による融資。
同123～190キロ区間の改修事業	2009	7,530万ドル	20(5)	2	
ビシュケク・ナリン・トルガルト道路改修事業(9～272キロ区間)	2009	2億ドル	20(5)	2	道路の他の区間は多国間金融機関による融資。
南部送電網近代化改修事業	2011	2億800万ドル	20(7)	2	
ダトカ・ケミン送電線及びダトカ変電所の建設事業	2012	3億8,980万ドル	20(9)	2	CASA1000プロジェクトの一部
ビシュケク熱供給火力発電所改修事業	2013	3億8,600万ドル	20(11)	2	
南北代替道路(カザルマン・ジャララバード・バリクチ・アライ間)	2013	4億ドル	20(11)	2	
キルギス・中国ガスパイプライン	2013	10～12億ドル		2	中央アジア・中国ガスパイプラインの一部。
オシュ・バトケン・イスファナ道路(220～232キロ区間及び248～360キロ区間)	2013	1億2,980万ドル	20(11)	2	道路の他の区間は多国間金融機関による融資。
南北代替道路(アラル・カザルマン区間)	2015	1億8,530万ドル 及び6億9,760万人民元	20(11) 人民元については 25(11)	2 人民元は 1.5	米ドル分が全コストの62%、 人民元分が全コストの 38%。
ビシュケク市市内道路改修 (フェーズ1)	2015	4億8,950万人民元	無償		
同 (フェーズ2)	2017	2億8,600万人民元	無償		

## 2-8 中国への経済依存: 参考①最近の主な要人往来・首脳会談

<p>習近平国家主席の キルギス国賓訪問</p>	<p>2013年 9月</p>	<p>両国首脳、二国間関係を戦略的パートナーシップのレベルに高めることで合意。  中国側:シルクロード経済ベルトの創設を提案。アタムバエフ大統領(当時)はこれを支持。</p>	<p>アタムバエフ大統領 訪中 (一帯一路第1回フォーラム参加のため)</p>	<p>2017年 5月</p>	<p>両国の協力深化の確認, キルギス・中国基金創設, 中国・キルギス・ウズベキスタン鉄道建設に関する協議等。</p>
		<p>そのほか, 両国間ガスパイプラインやビシュケク市熱供給発電所, 南北道路等の経済協力案件を含む文書署名。</p>	<p>ジェエンベコフ大統領 訪中</p>	<p>2018年 6月</p>	<p>中国側:「ジェ」大統領の指導によるキルギス政治を支持。  KG側:電気自動車生産合弁工場の設立, キルギス人留学生の受け入れ拡大を要請。</p>
<p>アタムバエフ大統領, 中国を実務訪問</p>	<p>2015年 9月</p>	<p>両国の戦略的パートナーシップを確認するとともに, 「ア」大統領が中国のシルクロード経済ベルト構想及び一帯一路イニシアチブ, キルギスのEAEU加盟が両国の経済・貿易関係を新たな段階に押し上げる旨発言。</p>	<p>ジェエンベコフ大統領 訪中 (一帯一路第2回フォーラム参加のため)</p>	<p>2019年 4月</p>	<p>KG側:「キルギスは一帯一路の枠内に於いて協力を拡大していく用意がある」と発言。</p>
<p>(第三国での会談) タシケントでのSCOサミットに際しての首脳会談</p>	<p>2016年 6月</p>	<p>中国側:「ア」大統領の大統領としての成功に感銘」  KG側:「両国間には戦略的関係の発展を阻害する要素は見当たらない」「台湾問題において中国を支持」「両国治安機関は対テロ分野において積極的に協働」</p>	<p>習近平国家主席 キルギス訪問 (上海協力機構サミット参加のため)</p>	<p>2019年 6月</p>	<p>KG側:キルギスの経済発展への中国の協力への謝意の表明, 台湾は中国の不可分の領土であると指摘。</p>

## 2-8 中国への経済依存: 参考②

世論調査:「これらの国をキルギスにとって経済的パートナー, または経済的脅威いずれと見なすか」

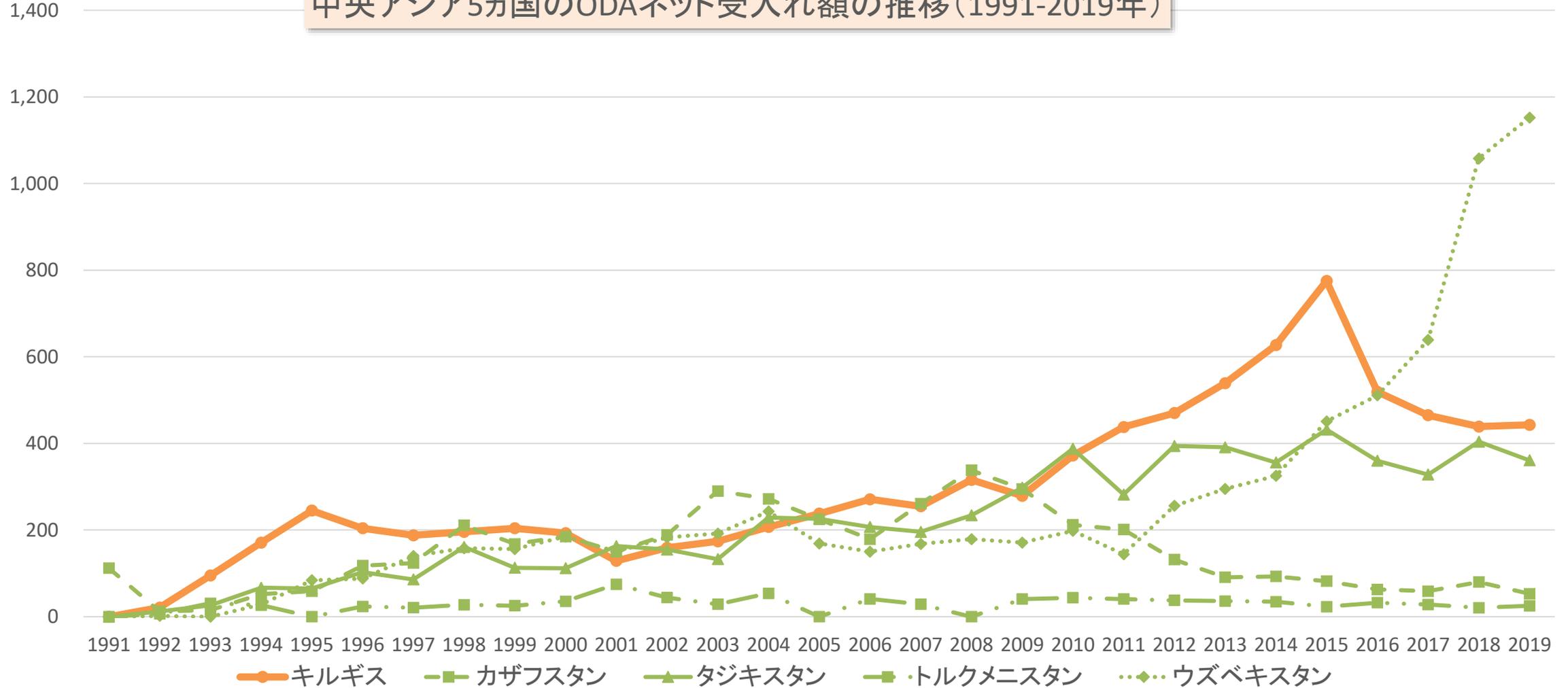


- 上記世論調査はIRI:International Republican Institute in Kyrgyzstanにより2019年11-12月にかけて実施された。
- 18歳以上1,483人のキルギス人が対象。

## 2-9 外国及び国際ドナーの対キルギスODA総額①

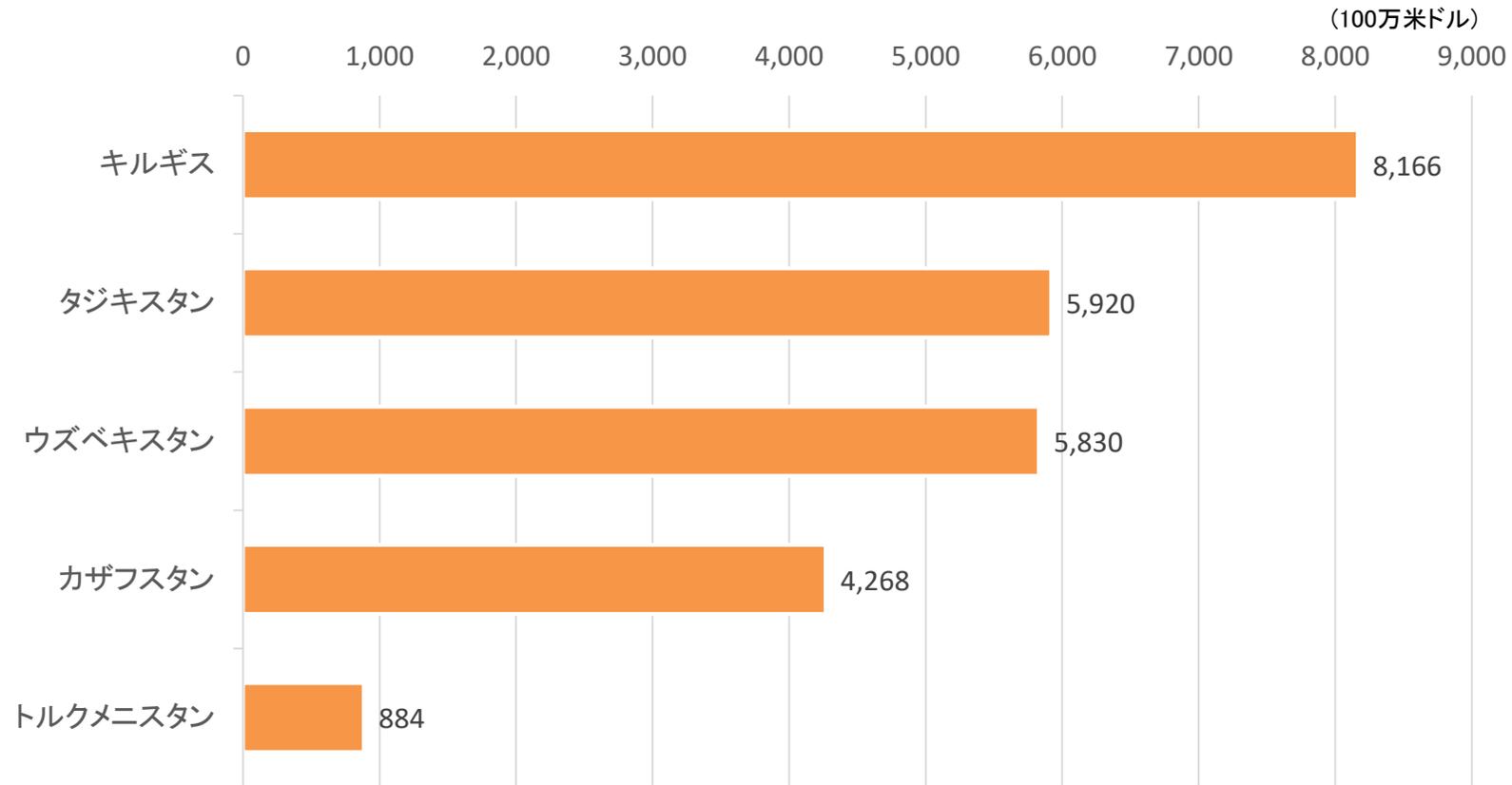
(100万米ドル)

中央アジア5カ国のODAネット受入れ額の推移(1991-2019年)



## 2-9 外国及び国際ドナーの対キルギスODA総額②

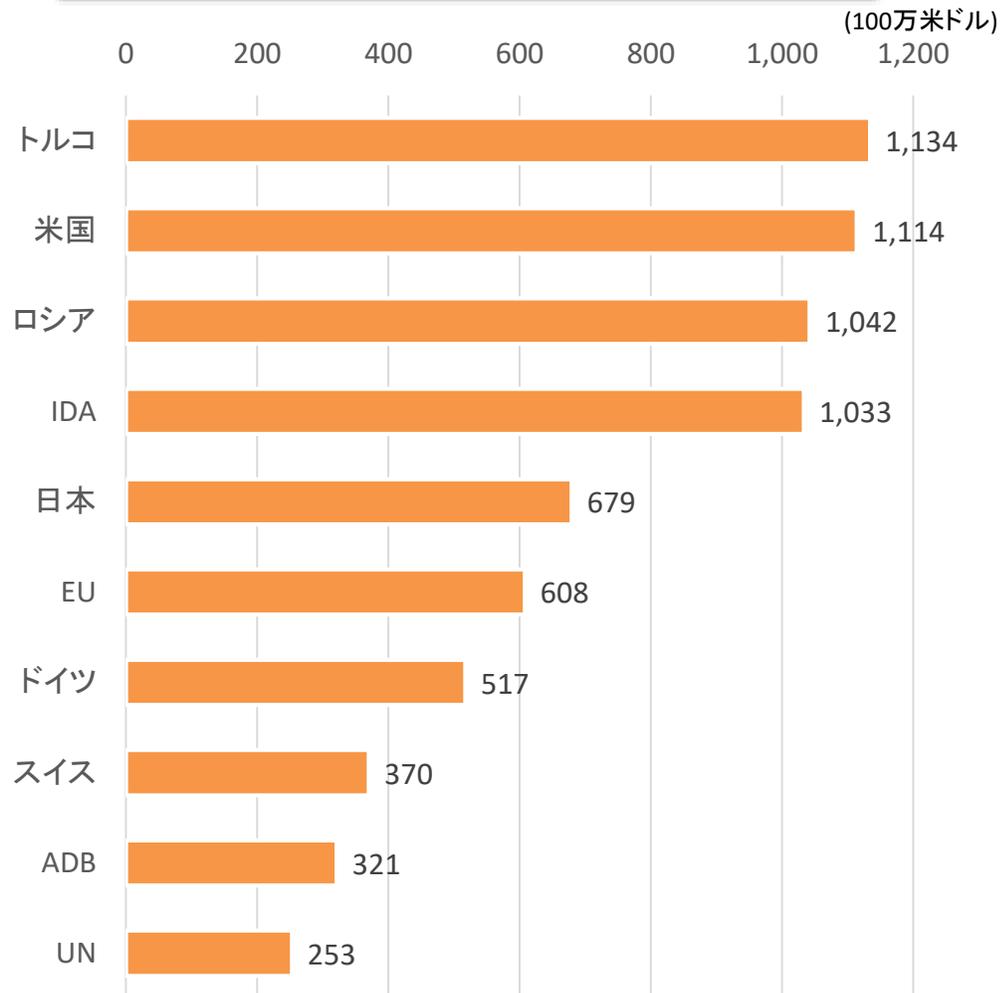
中央アジア5カ国のODA受入れ総額  
(1991—2018年)



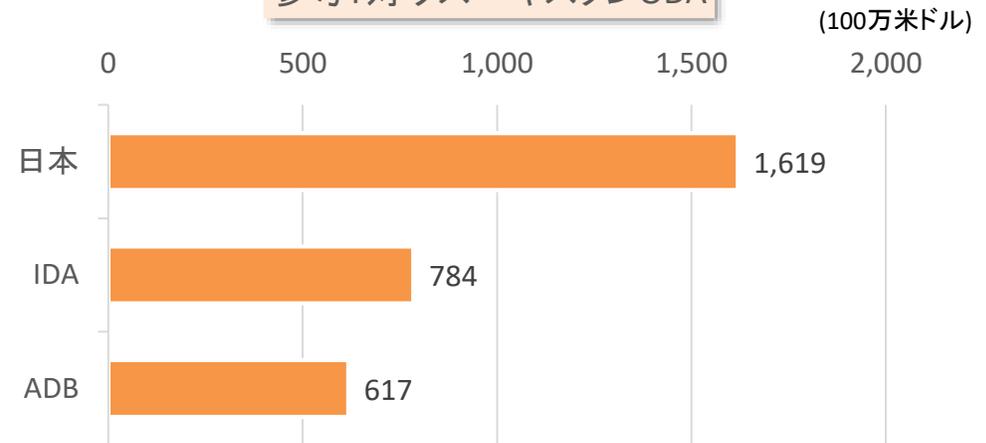
➤ なお、中国の援助は含まれていない。

## 2-9 外国及び国際ドナーの対キルギスODA総額③

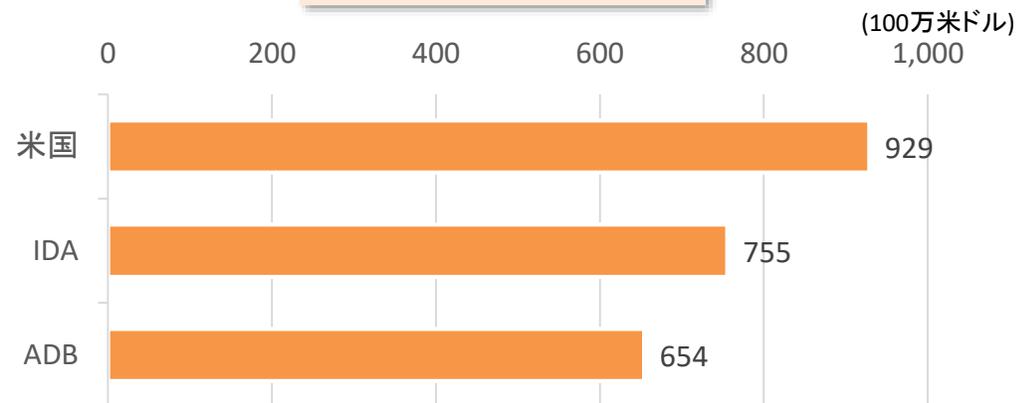
対キルギスODAの主要ドナー別累計額  
(1991-2018年)



参考: 対ウズベキスタンODA



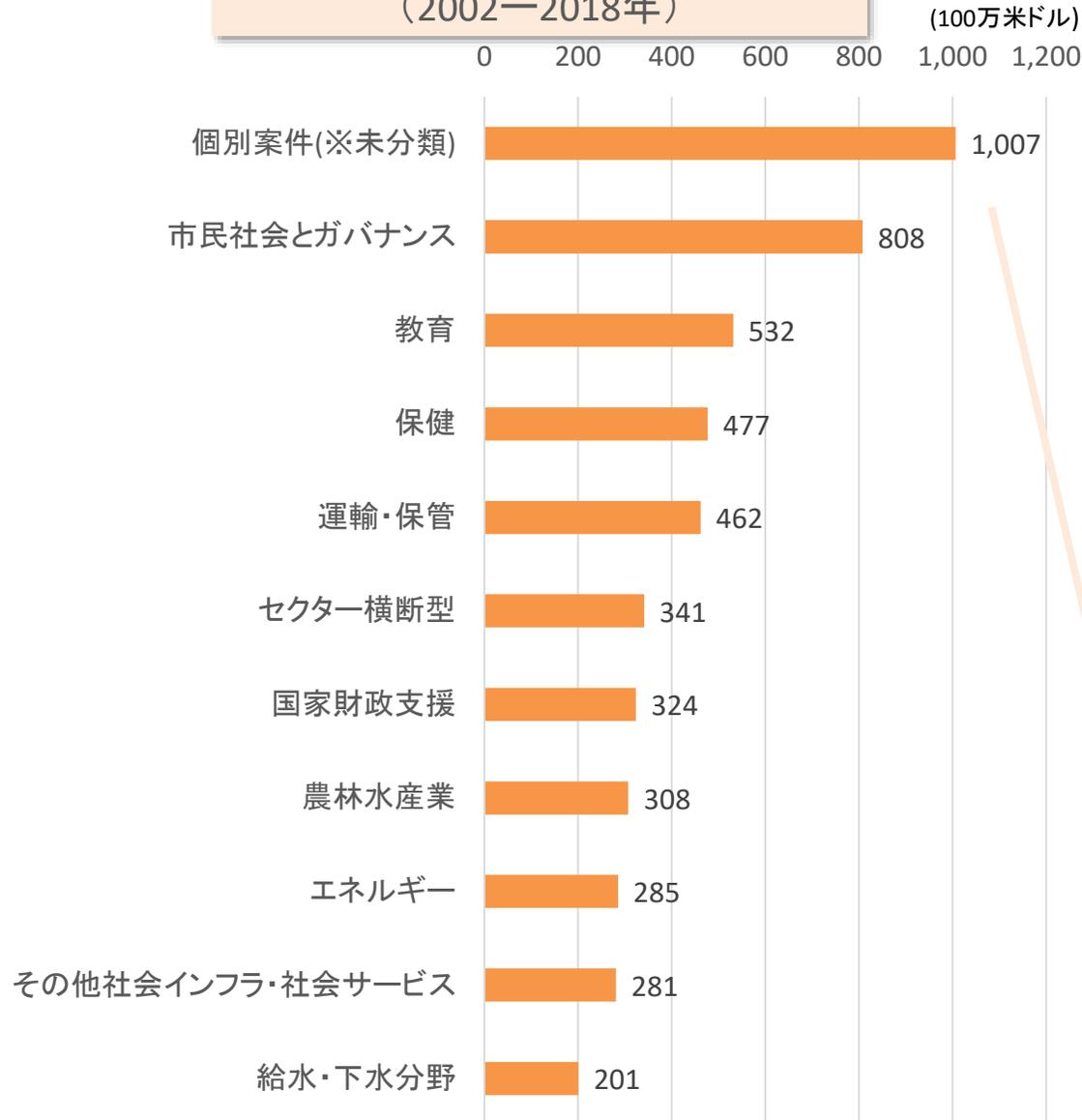
参考: 対タジキスタンODA



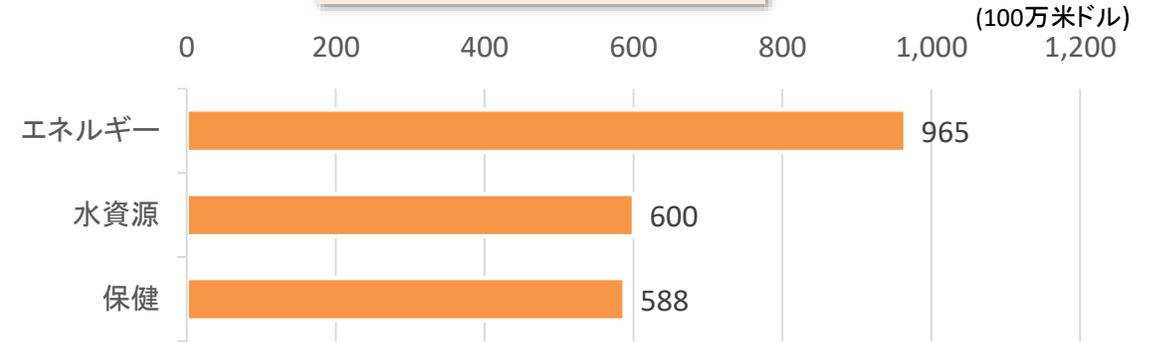
➤ なお、中国の援助は含まれていない。

## 2-9 外国及び国際ドナーの対キルギスODA総額④

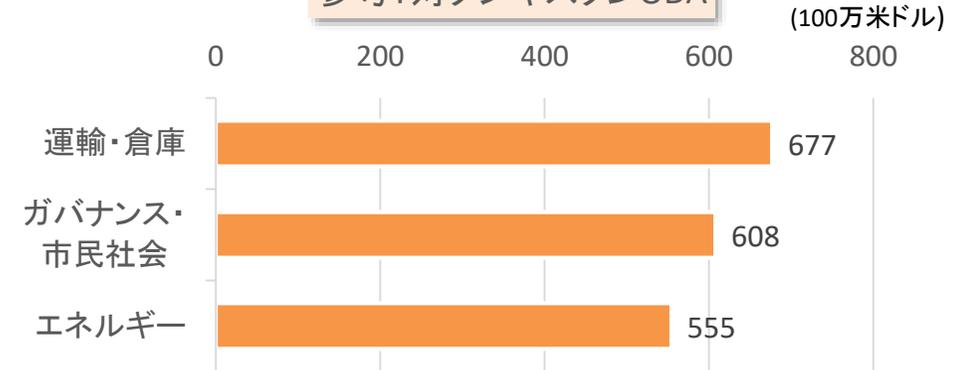
対キルギスODAの主な部門別の総額  
(2002-2018年)



参考: 対ウズベキスタンODA



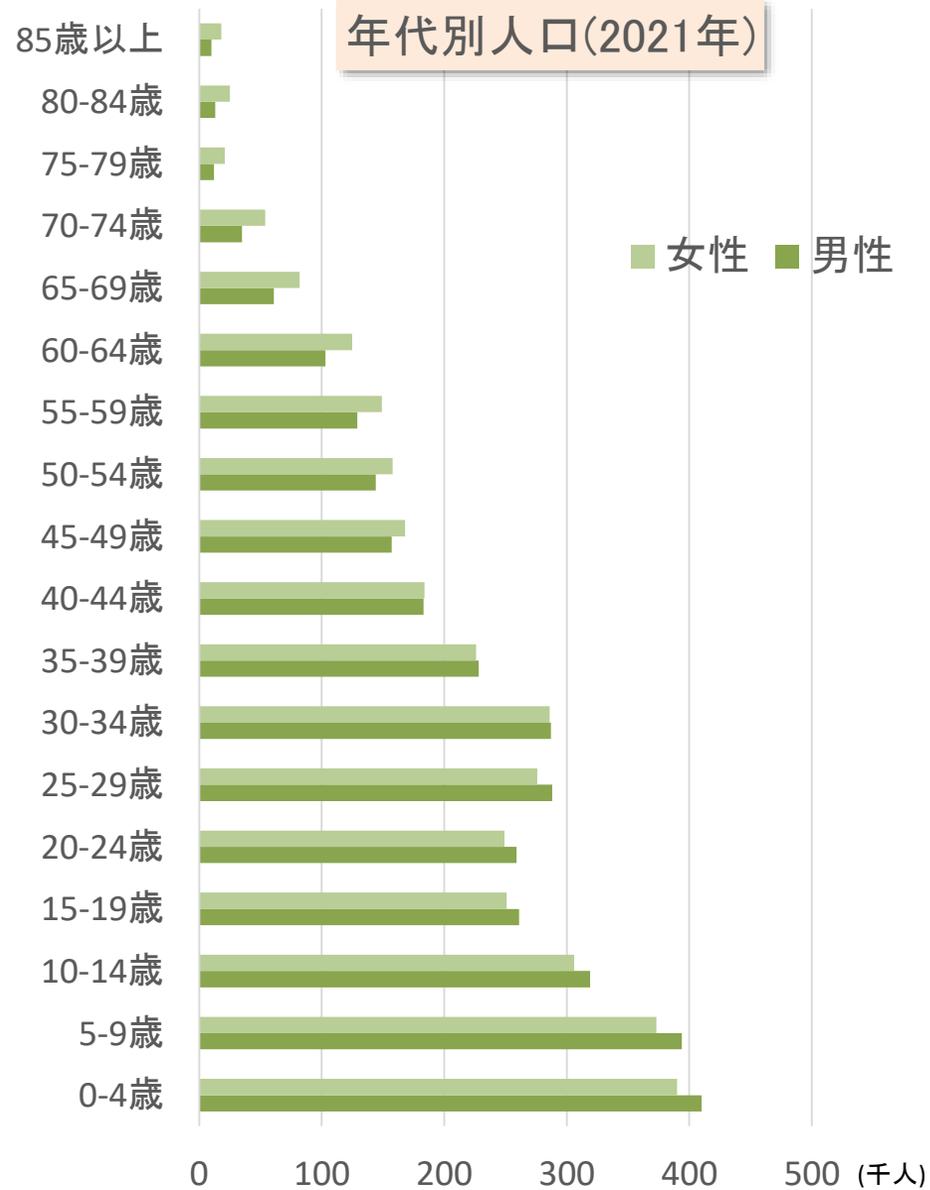
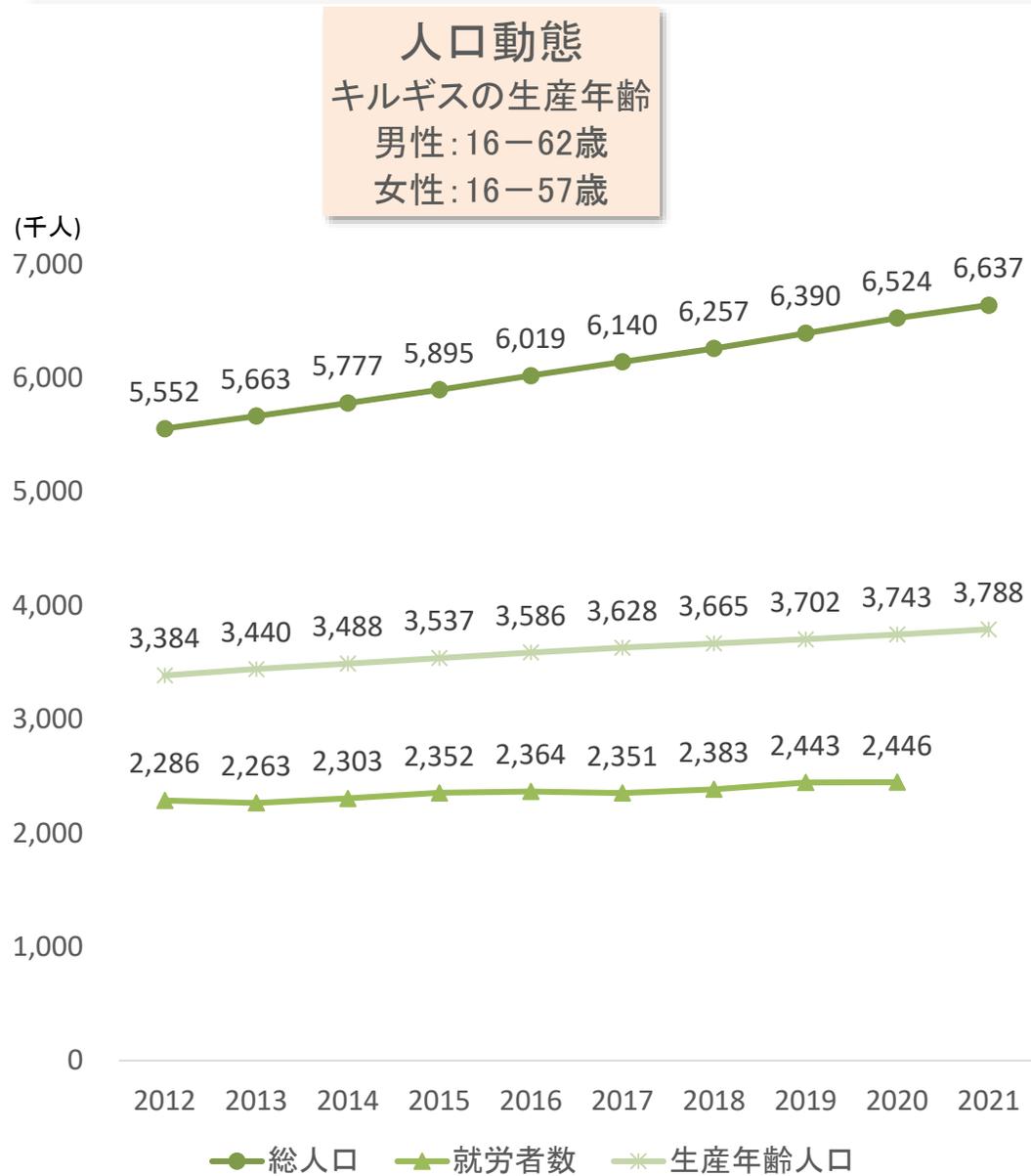
参考: 対タジキスタンODA



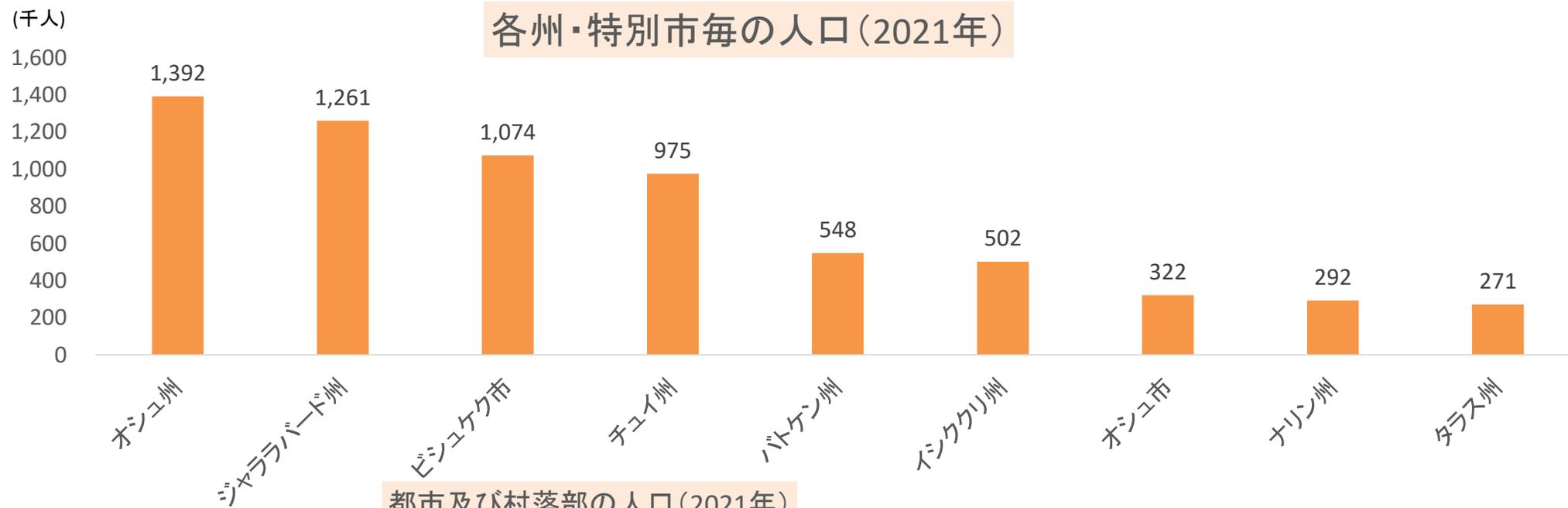
「未分類」は、OECDの分類に該当しない、あるいは用途が明確にされていない資金が含まれる

# 3 社会動向

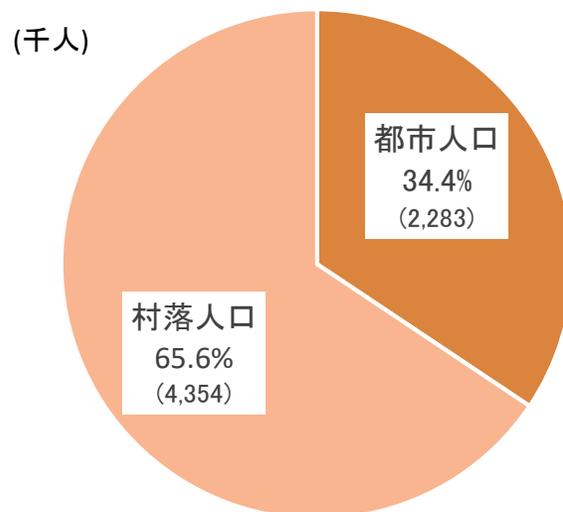
# 3-1 キルギスの社会動向：人口：人口推移及び年代別人口



### 3-1 キルギスの社会動向：人口：地域別



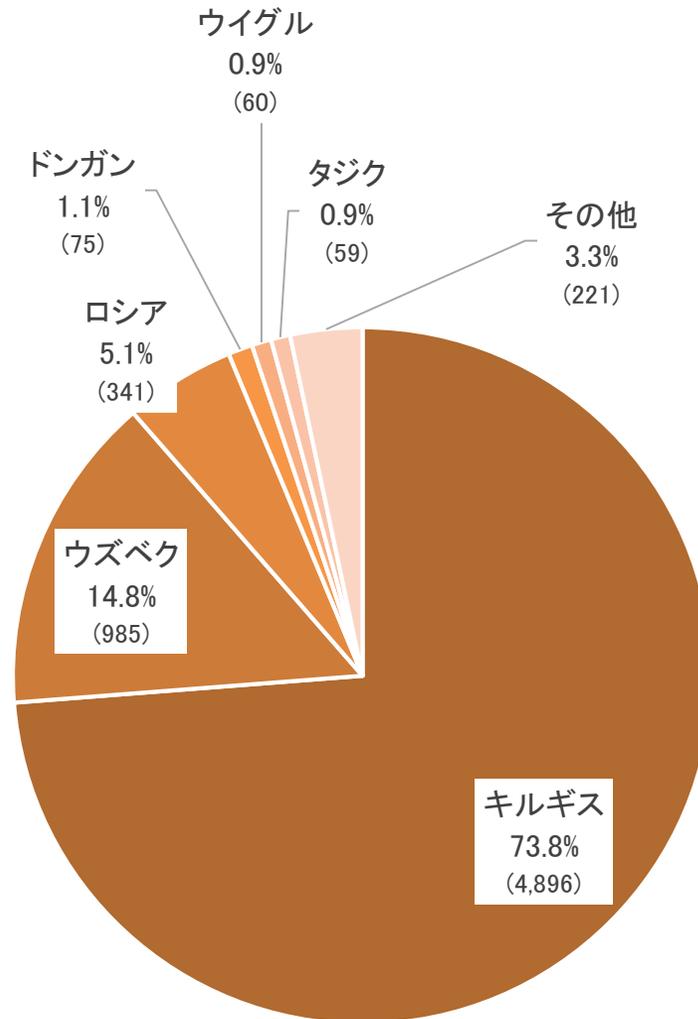
都市及び村落部の人口(2021年)



- 都市(city, город)及び村(village, село)で区分。
- 都市部には近郊の農村も含む。

### 3-1 キルギスの社会動向：人口：民族構成

民族構成  
(2021年 単位：千人)  
総人口：664万人



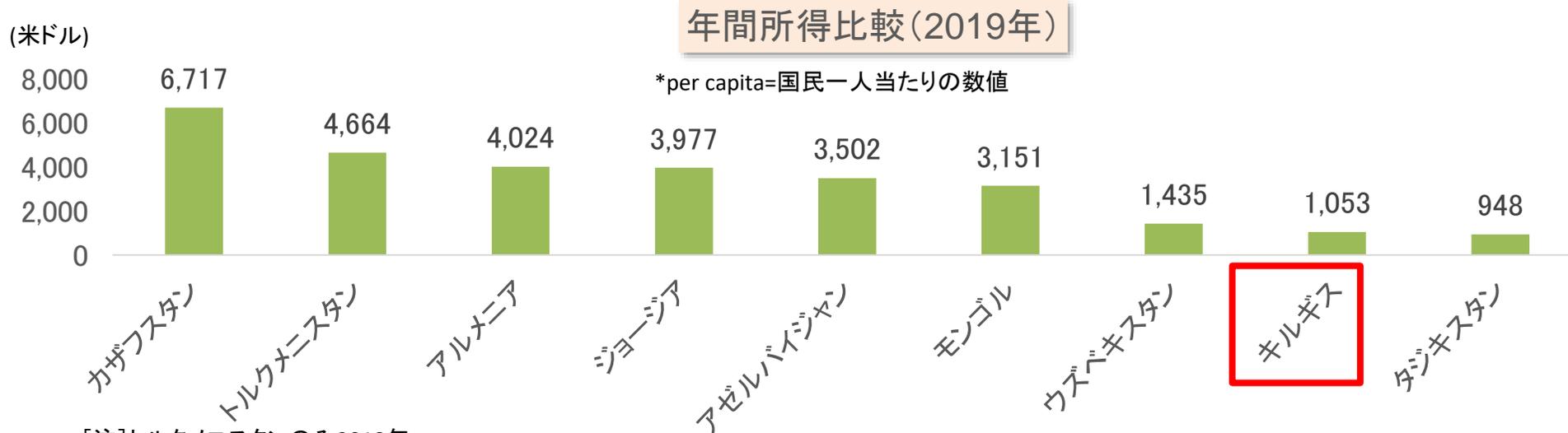
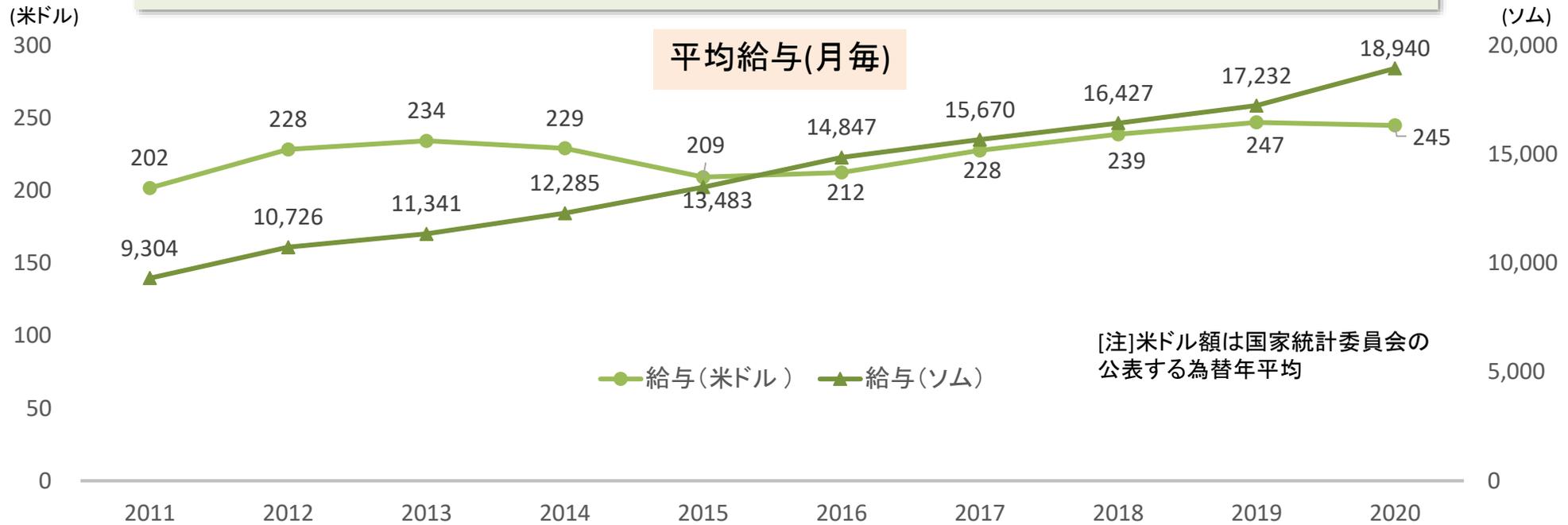
- ウズベク系は特に南部に多く、地域によっては多数派を占める。旧ソ連時代には民族自治を求める運動も。
- ロシア系は独立前後は約90万人がキルギスに居住し、人口の約20%を占めていたが、その後ロシアへの移民が相次ぎ、現在も人口は減少傾向にある。
- ドンガン人とは、19-20世紀にかけて当時の清朝から中央アジアに移住した中国系ムスリム民族。
- 中央アジアには1937年に極東ロシアからスターリンによって強制移住させられた朝鮮系民族が多数居住しており、「コリョ・サラム(高麗人)」と呼称。キルギスには1万7,000人が居住。独立後は韓国とのつながりが強い。

### 3-1 キルギスの社会動向:人口(キルギスにおける学齢期, 教育制度)

就学年数	年齢		
20	25 / 26		
19	24 / 25		
18	23 / 24		博士課程(2年間) 【大学院】
17	22 / 23		修士課程(2年間) 【大学院】
16	21 / 22		
15	20 / 21		高等教育(4年間) 【大学(学部)】*4 <進学率:30%>*5
14	19 / 20		
13	18 / 19		
12	17 / 18		
11	16 / 17		後期中等教育(10~11年生:2年間) 【シュコーラ, ギムナジウム, リツエイ】*3
10	15 / 16		中等専門教育(3年間) 【コレッジ, 専修学校】*2 *3
9	14 / 15	義務教育 (9年)	前期中等教育(5~9年生:5年間) 【シュコーラ, ギムナジウム, リツエイ】
8	13 / 14		
7	12 / 13		
6	11 / 12		
5	10 / 11		
4	9 / 10		
3	8 / 9		
2	7 / 8		
1	6 / 7		

- \*1 「シュコーラ」は一般的なカリキュラムを学ぶのに対し、「ギムナジウム」、「リツエイ」はより専門性を取り入れた教育カリキュラムが組まれている(文系, 理系, 技術系等)。
- \*2 「コレッジ」は医学, 経済学, 法学, 情報科学等分野別なのに対し、「専修学校」は調理, 自動車技師等各職業に直結する技術習得のためのカリキュラムが組まれている。
- \*3 後期中等教育課程及び中等専門教育課程修了後, 卒業証書(Attestat)が授与される。右証書がないと大学進学は不可。
- \*4 大学進学のためにはORT(全国一斉試験。年1回)を受験する必要がある。本人の志望にその成績が見合って進学先が決まる。
- \*5 進学率の最新データは2016年のもの(出典:UNICEFキルギス事務所)。
- \*6 キルギスの教育制度は旧ソ連のシステムを引き継いでおり, ロシアと同様。但し, 高等教育については2012年から「学士・修士・博士」を基礎とした欧米標準システムに移行。

## 3-2 キルギスの社会動向：平均給与：平均給与の推移



[注]トルクメニスタンのみ2018年。

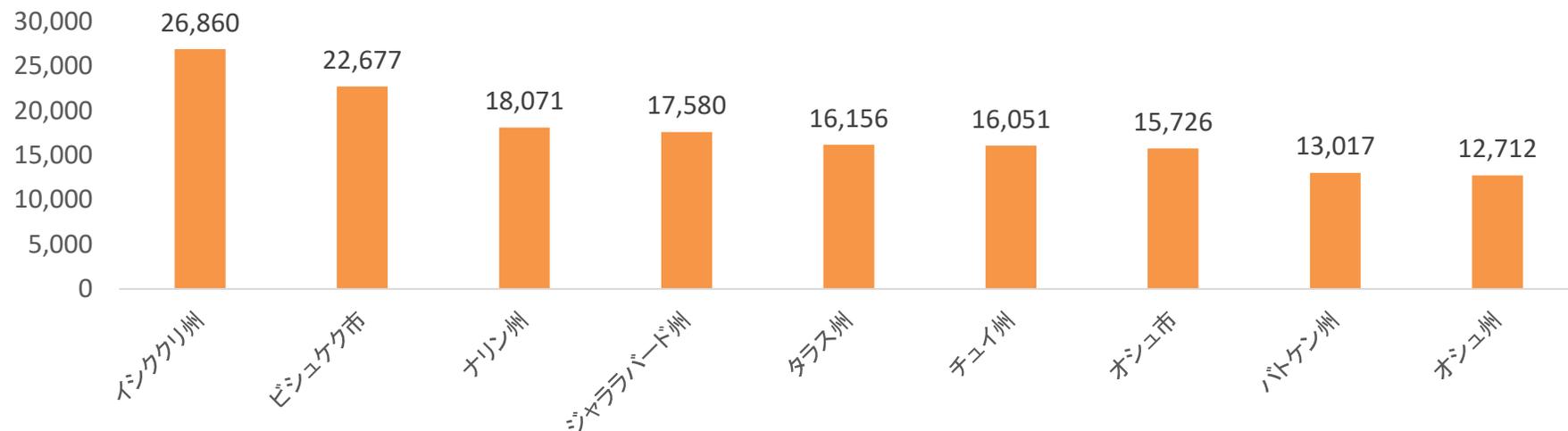
## 3-2 キルギスの社会動向：平均給与（職種別，地域別平均給与）

職種別給与 (2021年3月)	ソム	米ドル (1\$=84.7968)
農林水産業	11,954	141
鉱業	38,903	459
電気・ガス等インフラ	31,760	375
建築	19,018	224
商業， 自動車及びバイク修理	17,663	208

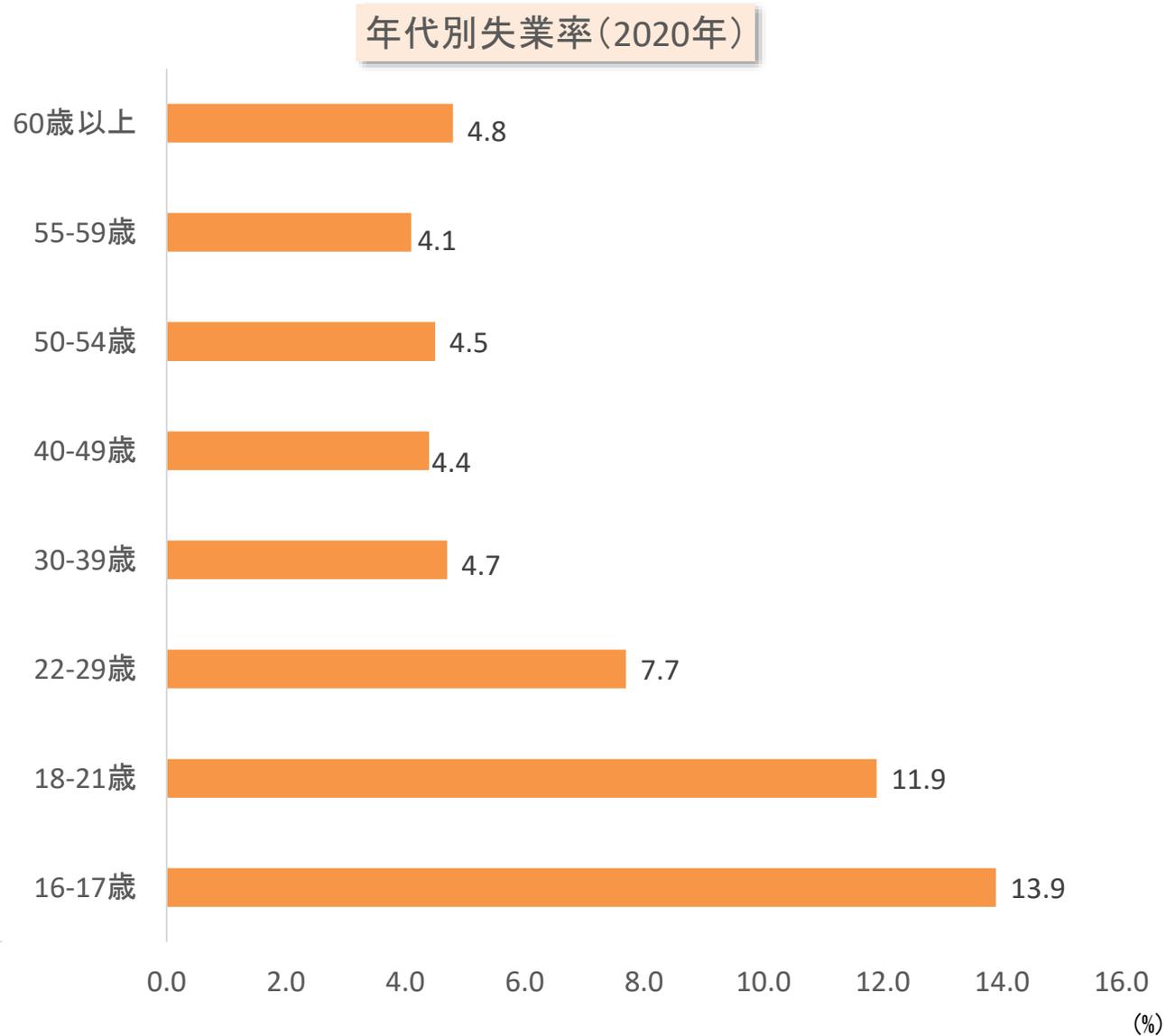
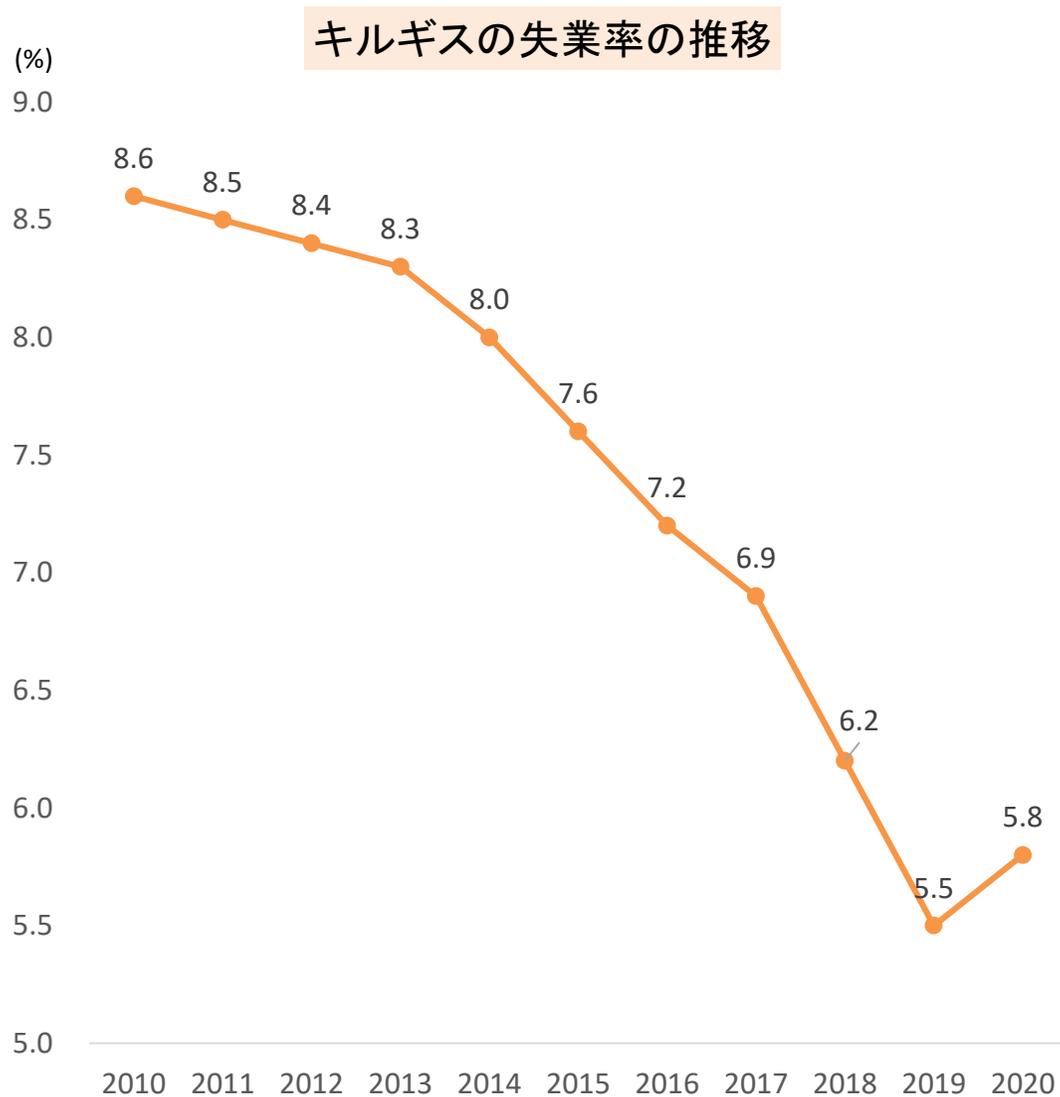
金融・保険	39,060	461
製造業	21,321	251
情報・通信	65,413	771
行政	25,754	304
輸送・倉庫	28,106	331
保健・社会サービス	11,249	133

※為替レートは国立銀行が公表している2021年3月のデータの平均値を算出したもの。

各州・特別市毎の平均月収(2020年，単位：ソム)



### 3-3 キルギスの社会動向：失業率（全体推移及び年代別）



### 3-3 キルギスの社会動向：失業率（州・市別失業者数）

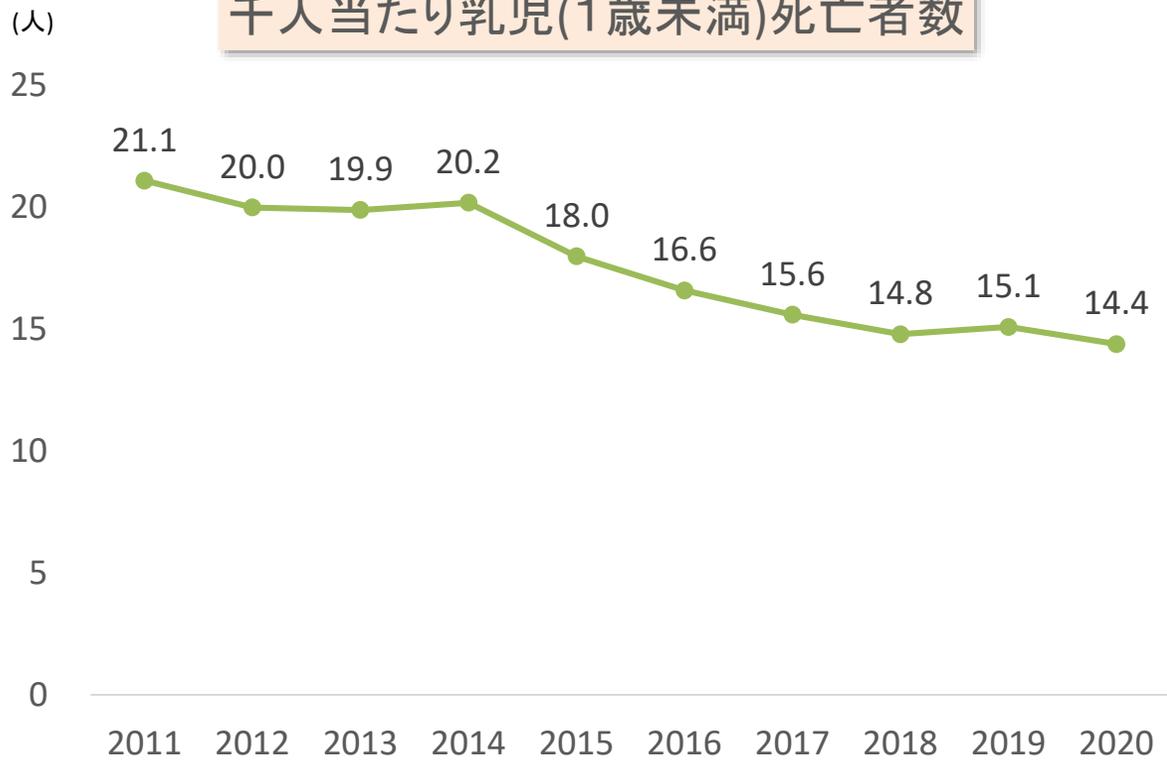
州・市別の失業者数（2020年）



- ビシュケクにはキルギス国内から仕事を求めて移住してきた「国内移民」が多数存在し、都市部の失業率を押し上げる要因となっている。

# 3-4 キルギスの社会動向: 乳児死亡率

## 千人当たり乳児(1歳未満)死亡者数



出典: 国家統計委員会(2021年)

## 中央アジア各国比較(2019年)



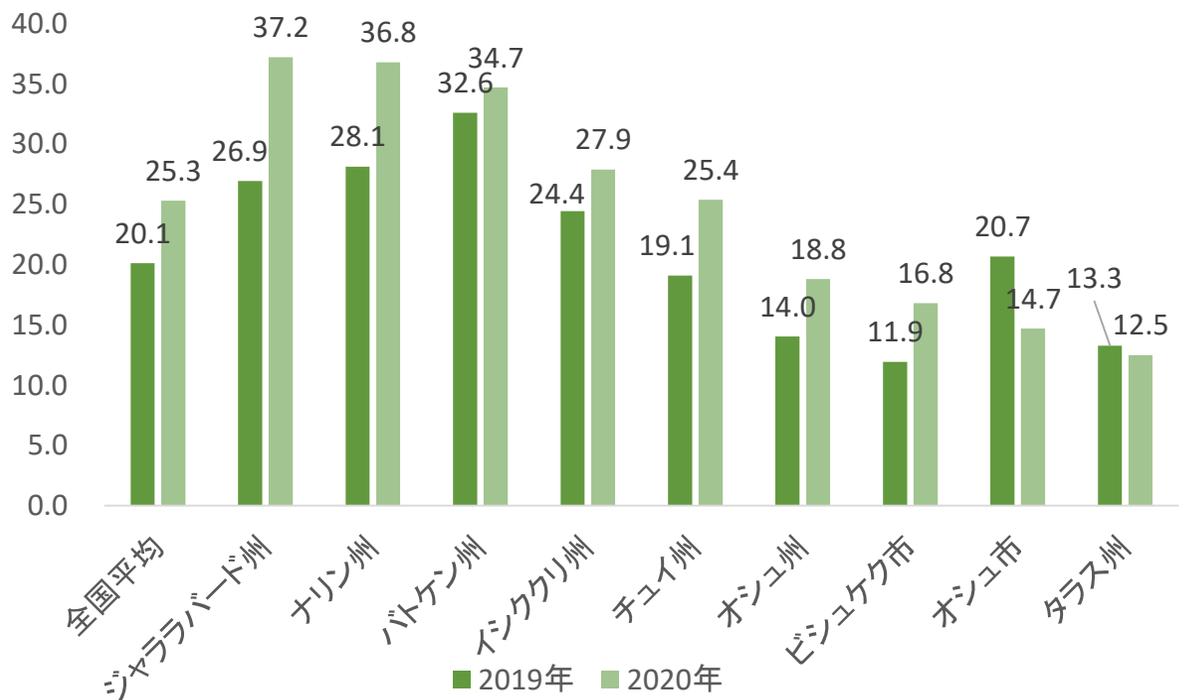
出典: UN IGME(2021年) ※データは国家統計委員会のと異なる

# 3-5 貧困率

中央アジア各国貧困率  
(1日あたりの支出額が1.9ドル未満)



州・特別市毎の貧困率(2019年-2020年)



➤ 南部のバトケン州では貧困率が3割を超える一方で首都のビシュケク市では12%に過ぎない。また、貧しい南部ほど出稼ぎからの海外送金に依存する傾向がみられ、海外送金がなかった場合、バトケン州の貧困率は53.7%にも達する\*。

\* 国家統計委員会報告書(2020)より

いずれも公開情報分。  
トルクメニスタンの貧困率はN/A。  
出典: 世界銀行, 国家統計委員会(2021年)

# 4 対日関係

## 4-1 対日関係：二国間交流の歴史

### 明治期から旧ソ連時代にかけての 日本と中央アジア・キルギス

- 1880年頃 外交官・西徳二郎，駐ロシア臨時代理公使からの帰朝途上にて中央アジアを視察。報告書にて西は「中央アジアのムスリムは信仰篤い一方，何事もアッラーの意思にゆだねるため主体的な改革がままならない」と指摘。
- 1895～97年頃 福島安正・陸軍大佐，ベルリン駐箚からの帰途，ロシア領コーカサス及び中央アジアを視察。帝政ロシアによる中央アジアでの鉄道建設状況や民族問題について報告。
- 第二次世界大戦後 キルギスのイシククル湖南岸のタムガ村に120人の日本人が抑留され，サナトリウム建設等に従事。抑留者はその後全員生還。
- 1960年代 作家・井上靖が中央アジアを旅行。イシククル湖の視察を希望するも軍事施設があることから許可が下りず断念。
- 1980年代 NHK特集「シルクロード」放映。日本でのシルクロードブームの火付け役となる。キルギスではイシククル湖が取り上げられる（「湖底に消えた道 ～幻のイシククル湖に潜る～」1983年11月7日放映）。

### 二国間交流の開始： 関係構築へ向けた基盤作り

- 1991年 ソ連崩壊。同年12月，我が国は国家承認。
- 1992年 外交関係樹立
- 1995年 キルギス日本人材開発センター開設。
- 1996年 最初の有償資金協力となる「ビシュケク・オシュ道路改修事業」の交換公文締結。
- 1999年 8月、南部オシュ州にて邦人誘拐事件発生。ウズベキスタン・イスラーム運動(IMU)が、JICAの地質専門家4名を3名のキルギス人通訳及び兵士とともに誘拐。10月に解放。
- 2000年 JICA事務所開設。同年，青年海外協力隊派遣開始。2018年までにシニアボランティアを含めると累計265人を派遣。
- 2003年 日本大使館開設（これ以前は在ロシア大使館または在カザフスタン大使館が兼轄していた）。
- 2004年 駐日キルギス大使館開設。

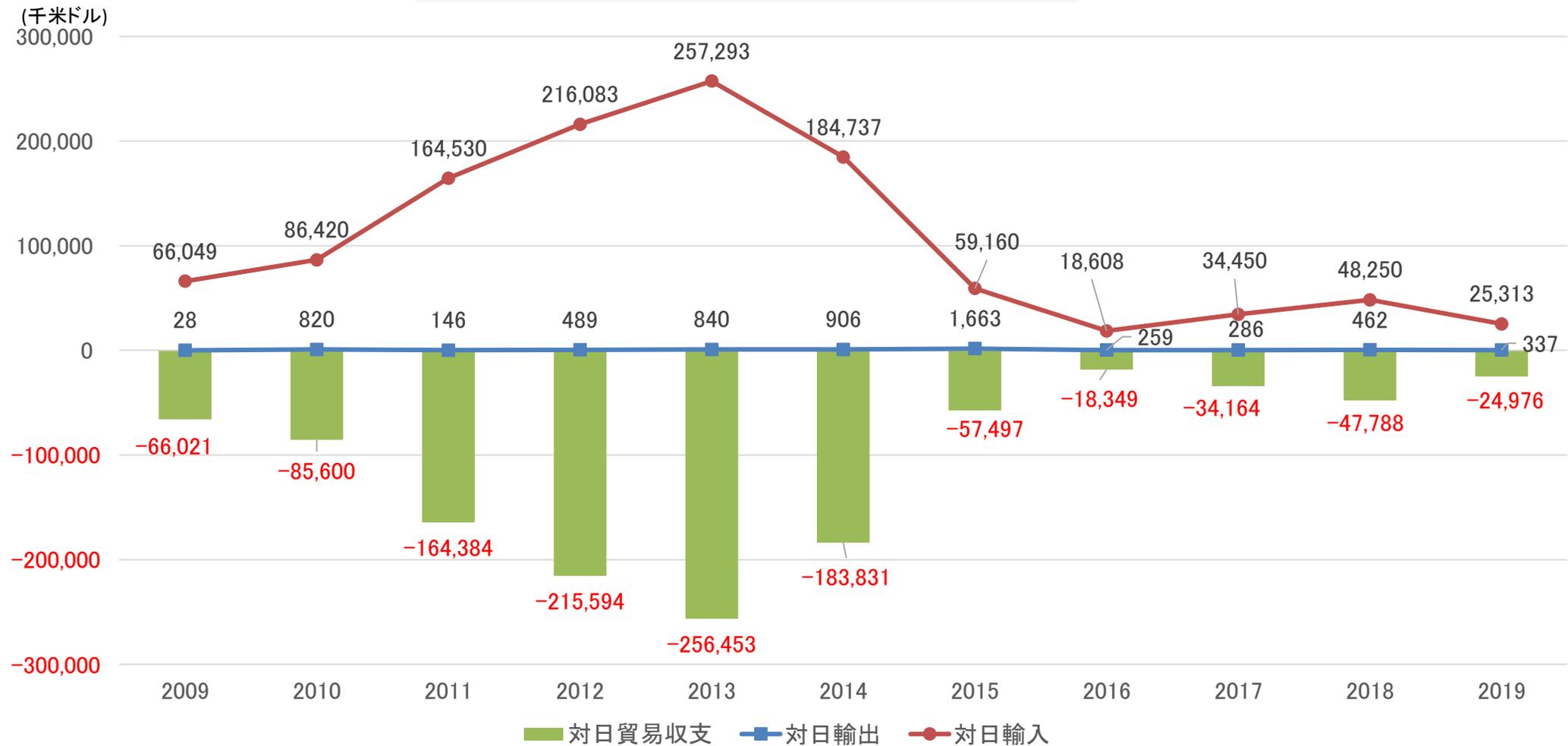
## 4-1 対日関係:要人往訪

### ハイレベルでの交流:要人往来及び外交イベント

1993年	アカエフ大統領訪日(公式訪問)
1998年	アカエフ大統領訪日(非公式)
2002年	川口順子外相の提唱により「中央アジア+日本」対話立ち上げ。 翌2003年に第1回高級実務者会合がウズベキスタン・タシケントで実施。 翌々2004年に第1回東京対話が東京・外務省で実施。
2004年	アカエフ大統領訪日(実務訪問賓客)
2007年	バキエフ大統領訪日(実務訪問賓客)
2013年	アタムバエフ大統領訪日(実務訪問賓客)
2014年	キルギスにて「中央アジア+日本」対話・第5回外相会合開催。共同宣言において、農業分野での協力、ミレニアム開発目標(MDGs)達成へ向け防災分野や女性の活躍等サステナビリティ分野での協力、アフガン情勢を見据えた麻薬・国境管理分野での協力等が宣明された。
2015年	<u>安倍晋三総理大臣</u> 、 <u>モンゴル及び中央アジア5カ国を訪問</u>
2019年	ジェエンベコフ大統領訪日(即位の礼参加)

## 4-2 通商関係:貿易(輸出入額, 貿易赤字額の推移)

### 日・キルギス貿易の総額及び収支の推移



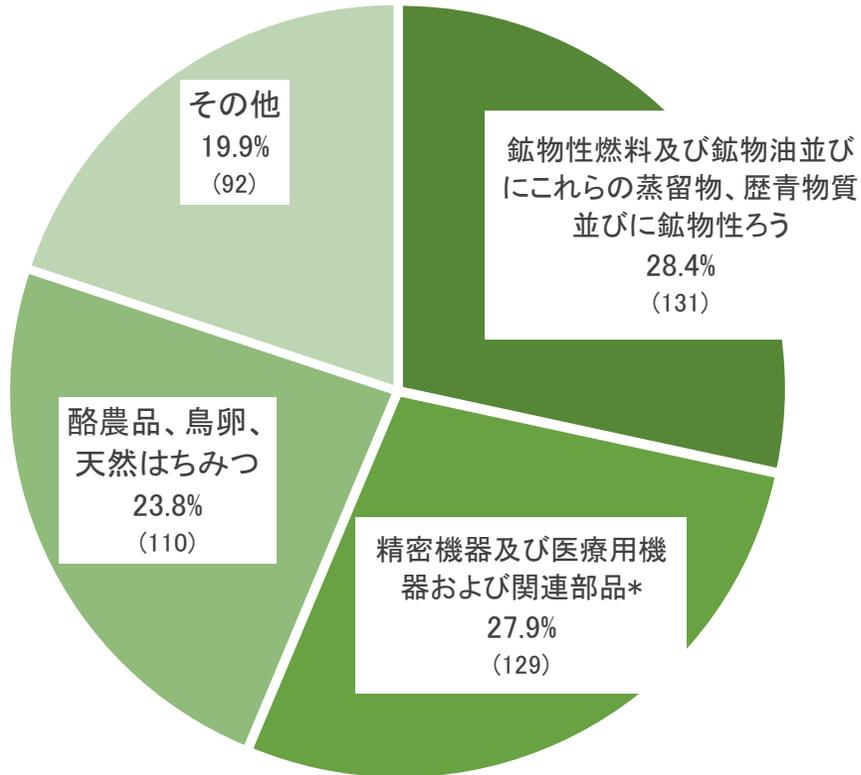
※2015年より、日本からの輸入の約8割を占めていた右ハンドル中古車の輸入が禁止されたことにより、輸入総額が激減した。

## 4-2 通商関係(貿易:輸出・輸入品目別金額/シェア)

対日輸出

(2018年 単位:千米ドル)

総額:46万1,700米ドル

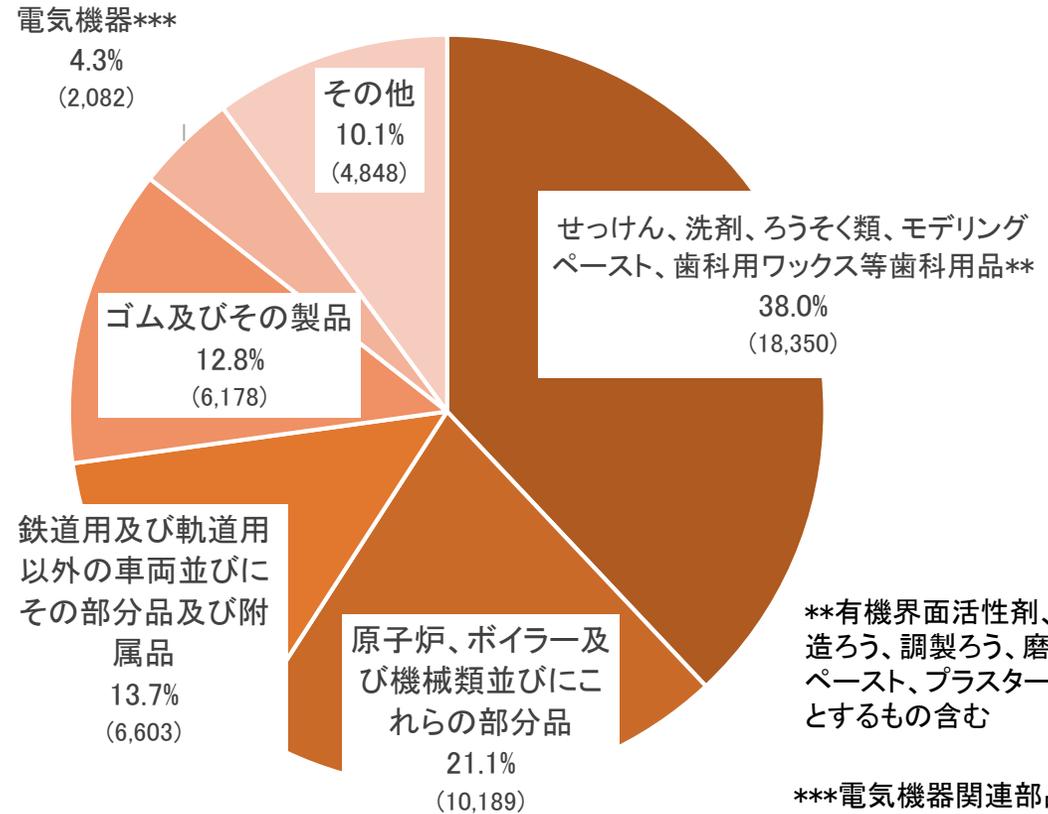


\*光学機器、写真用機器、映画用機器、測定機器、検査機器副含む

対日輸入

(2018年 単位:千米ドル)

総額:4,825万米ドル



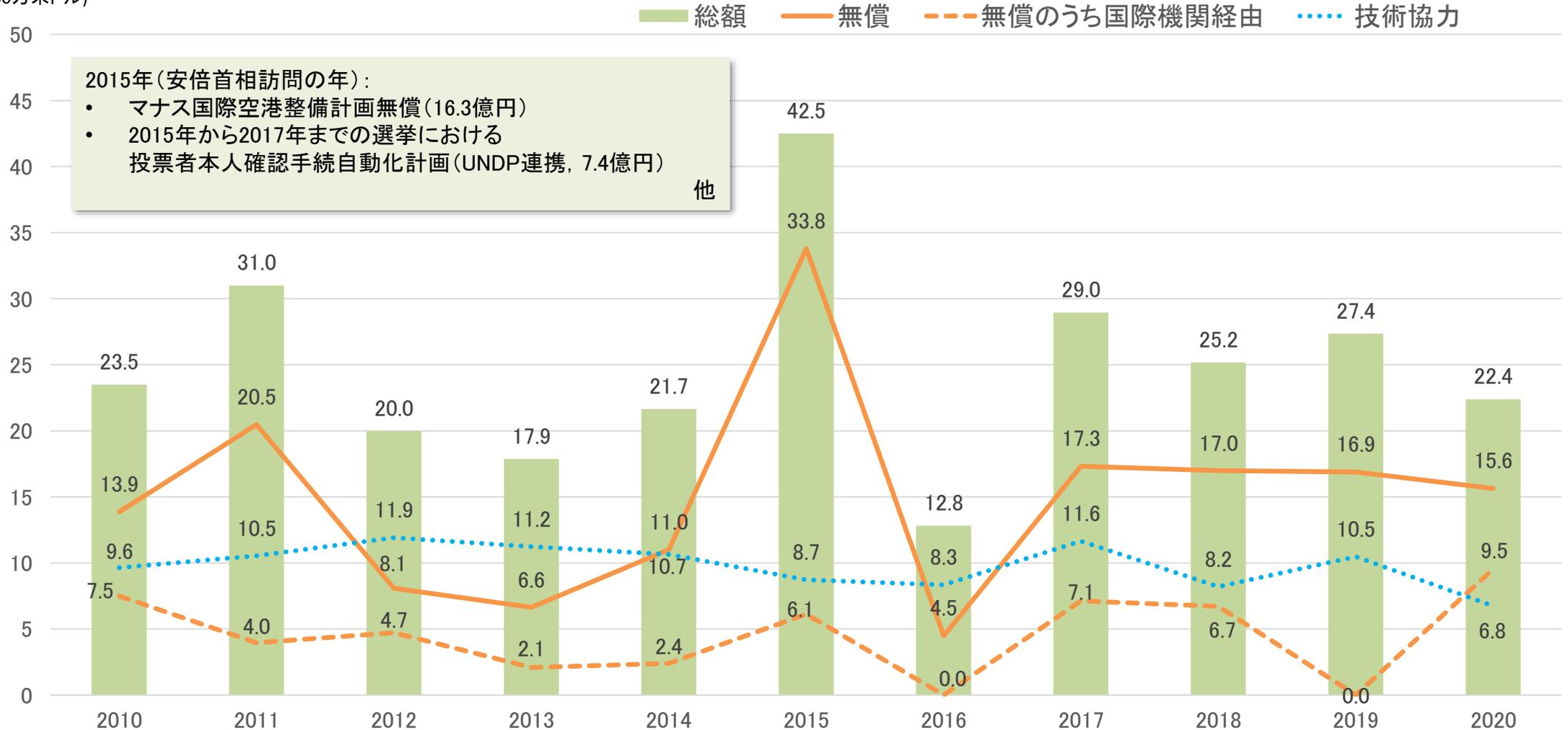
\*\*有機界面活性剤、調製潤滑剤、人造ろう、調製ろう、磨き剤、モデリングペースト、プラスター及びそれを原料とするもの含む

\*\*\*電気機器関連部品、録音機、音声再生機TVレコーダー、プレーヤーとその関連部品、附属品含む

## 4-3 経済協力実績：援助金額の実績

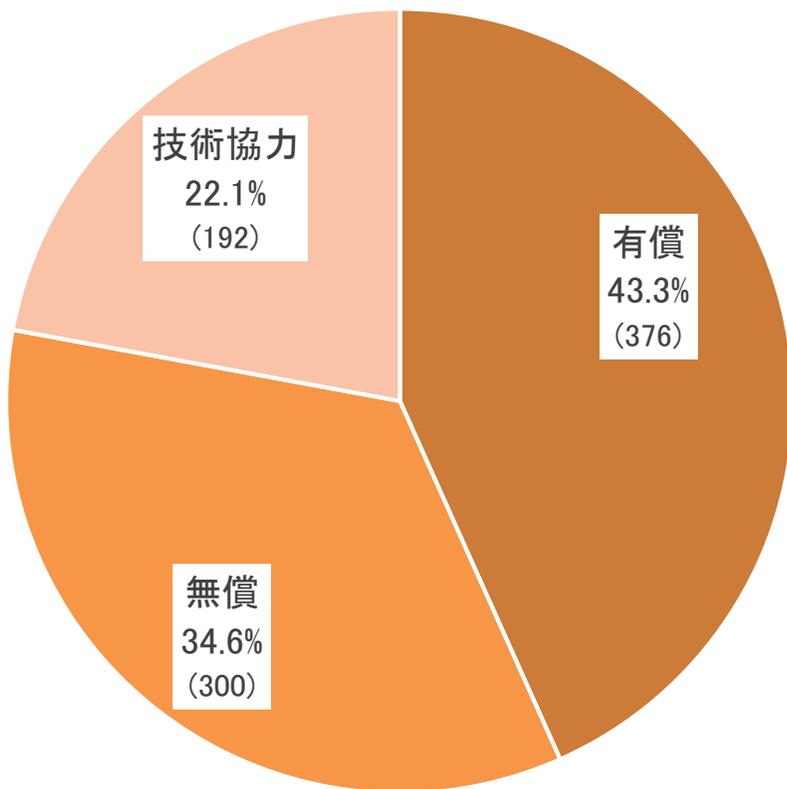
### 我が国による対キルギスODAの推移（支出総額ベース）

(100万米ドル)

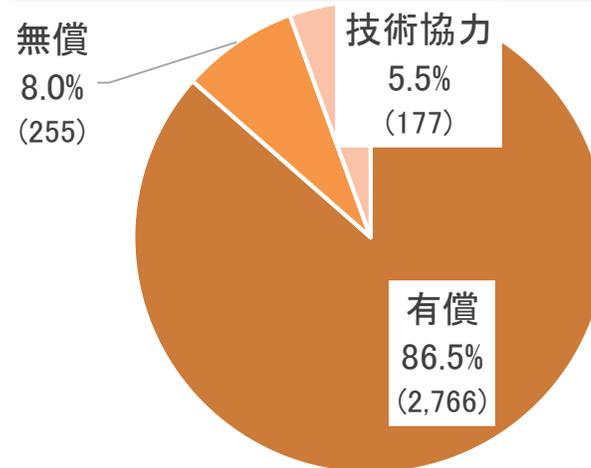


## 4-3 対日関係：経済協力実績（援助金額の内訳）

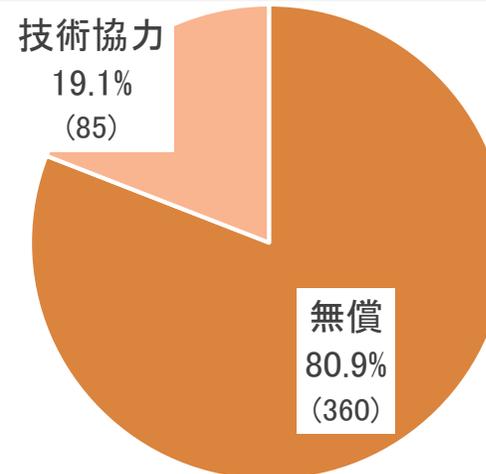
我が国による対キルギスODAの内訳  
(2017年までの実績額, 単位:億円)



参考：対ウズベキスタンODAの内訳  
(同)

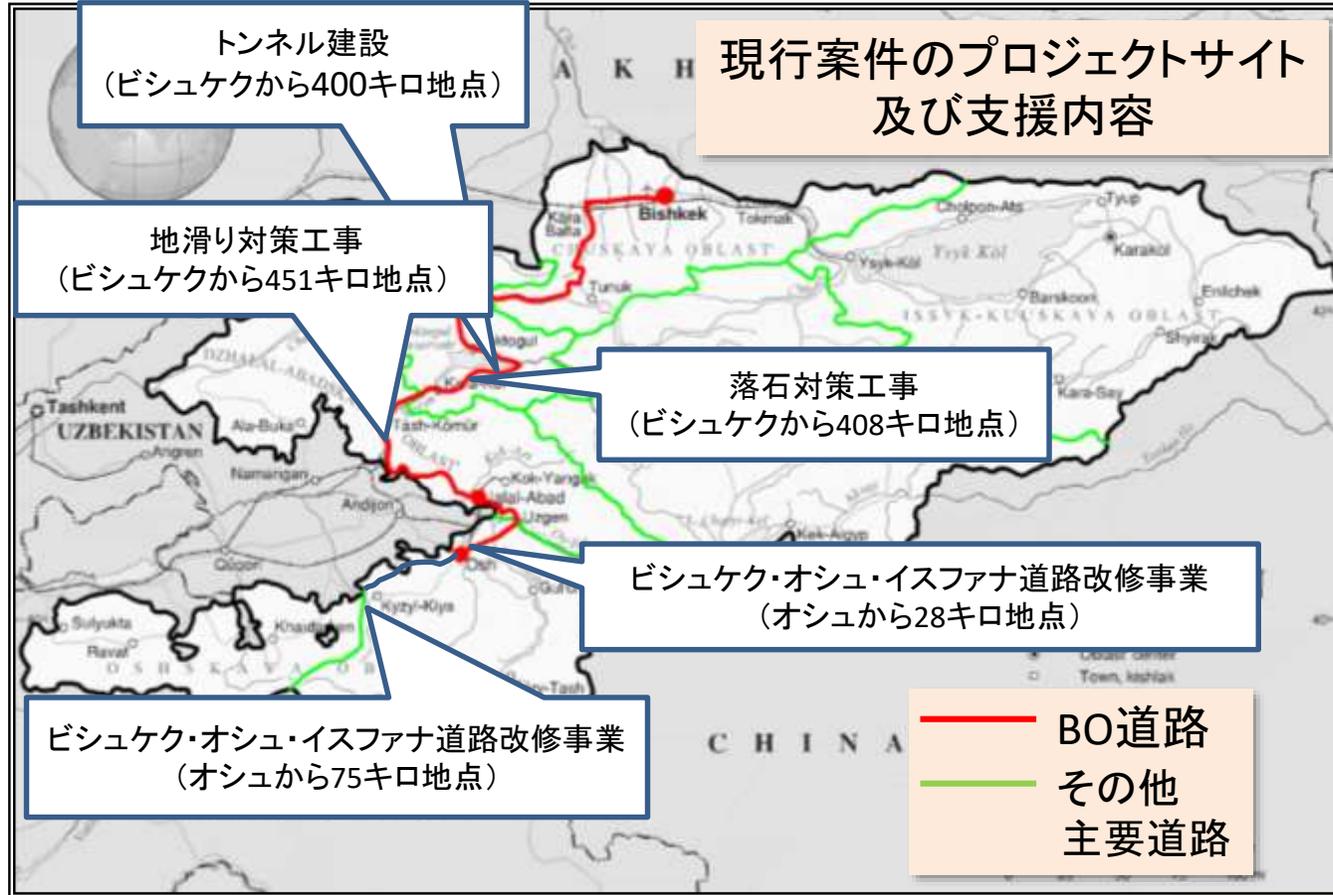


参考：対タジキスタンODAの内訳  
(同)



## 4-3 対日関係：経済協力実績：円借

### ビシュケクオシユ道路(BO道路)改修事業



- BO道路は首都ビシュケクと南部の中核都市オシユを結ぶ、キルギスの流通の大動脈であるが、山岳地帯を通過し災害が多いことに加え、老朽化も問題であった。
- これまで我が国は3次にわたる有償案件の実施を通してBO道路およびその延長区間の補修及び維持管理を支援、キルギス国内の均衡ある経済発展に貢献してきた。

案件名	予算規模	交換公文署名
ビシュケク・オシユ道路改修事業(1)	30.16億円	1997年
ビシュケク・オシユ道路改修事業(2)	52.50億円	1998年
国際幹線道路改善事業(現行案件)	119.15億円	2015年

## 4-3 対日関係：経済協力実績：技術協力（JICA「一村一品」）

### キルギス農村部の 社会経済課題

- ソ連崩壊後の経済の低迷、産業の不在、限定的な雇用機会
- 労働人口の大量出稼ぎによる村落のコミュニティ崩壊
- 脆弱な立場に置かれる女性

### 本案件のアプローチ

- コミュニティを中心として主に女性から成る生産者組合の編成を支援。運営、参加にあたっては自助努力、自発的が原則。
- 地元素材を地元住民が生産する仕組み。地域の伝統や観光、文化を踏まえた「ストーリー」を意識した製品作り。
- 国内の販売拠点「一村一品ショップ」のみならず、国外へも輸出。日本企業では無印良品と契約。無印が仕様を発注し、JICAが開発・生産の指導を行う。



金属検知器を用いた検品指導



主力商品の一つ、フェルト製品

生産から品質管理、販売に至るまでの一貫した支援



キルギス人スタッフによる無印良品物流センターの見学

### 裨益効果

- ✓ 生産者組合数は64組合（2011年）から260組合（2019年）へと増加、組合構成員は550人から2,650人へと増加。
- ✓ 売り上げは328万ソム（2011年）から3,324万ソム（2019年）へと増加\*。

\*ビシュケク、カラコル、ミニスタンド等のショップでの売り上げと海外売り上げを合計した額。



イシククリ州訪問の枠内において一村一品の生産拠点を視察するジェンベコフ大統領